

男女共同参画社会に関する意識調査
報告書

平成28年2月

那須塩原市

目次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	結婚の状況	2
(4)	働き方	3
(5)	世帯構成	3
(6)	乳幼児・高齢者との同居	4
(7)	職業	4
2.	男女平等について	5
(1)	男女の地位の平等観	5
(2)	職場における男女平等	14
(3)	男は仕事、女は家庭という考え方	17
3.	結婚・家庭生活・子育て介護について	19
(1)	結婚・家庭・離婚についての考え	19
(2)	夫婦の役割分担	27
(3)	夫婦の役割分担の満足度	32
(4)	自分の子どもの育て方	33
(5)	父親の育児参加に対する考え	34
(6)	男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え	35
4.	女性と仕事について	38
(1)	女性が仕事を持つことについての考え	38
(1-1)	女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと	39
(1-2)	結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと	41
5.	男女の地域・社会参画について	43
(1)	地域・社会活動への参加状況	43
(1-1)	地域・社会活動に参加していない理由	45

6.	男女共同参画の視点からの防災について	47
	(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応	47
7.	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	49
	(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度	49
	(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想	55
	(3) 男女が仕事、家庭、地域生活を両立するために必要なこと	61
8.	パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて	63
	(1) 配偶者・パートナー間の暴力	63
	(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先	69
	(2-1) 暴力について相談しなかった理由	71
	(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること	73
9.	男女共同参画を推進するための取組について	76
	(1) 市が力を入れるべき取組	76
	(2) 企業や職場での必要な取組	78
	(3) 私たち自身が必要な取組	80
	(4) 市の施策の認知度	82
	(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度	84
10.	男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望など	86
※	各設問「その他」の意見	92
Ⅲ	資料	97
	調査票	97

I 調査の概要

1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成24年に策定した「第2次那須塩原市男女共同参画行動計画」の評価目標値のうち、市民意識に関する項目について、基準年次（平成22年）、中間調査（平成25年）からの意識変化の状況を把握し、次期行動計画の策定及び、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

2. 調査項目

- (1) 属性（性別、年代、結婚の状況、働き方、世帯構成、乳幼児・高齢者との同居、職業）
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性と仕事について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) 男女共同参画の視点からの防災について
- (7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて
- (9) 男女共同参画社会づくりのための取組について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づき性別・年代別・地区別無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収（礼状兼督促状1回送付）
- (6) 調査期間 平成27年10月15日（木）～10月31日（土）

4. 回収結果

性別	配布数	回収数	回収率
男性	1,000	331	33.1%
女性	1,000	464	46.4%
不明		60	
合計	2,000	855	42.8%

5. 報告書の見方

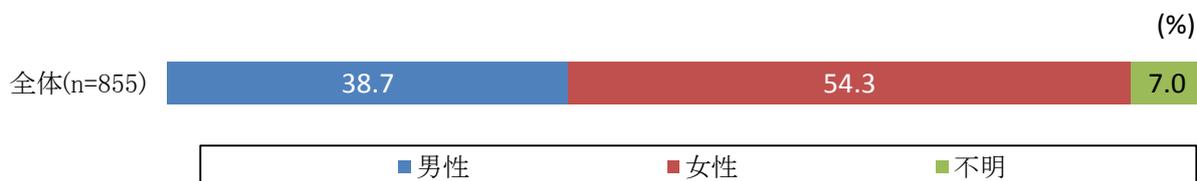
集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示しました。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合があります。

II 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

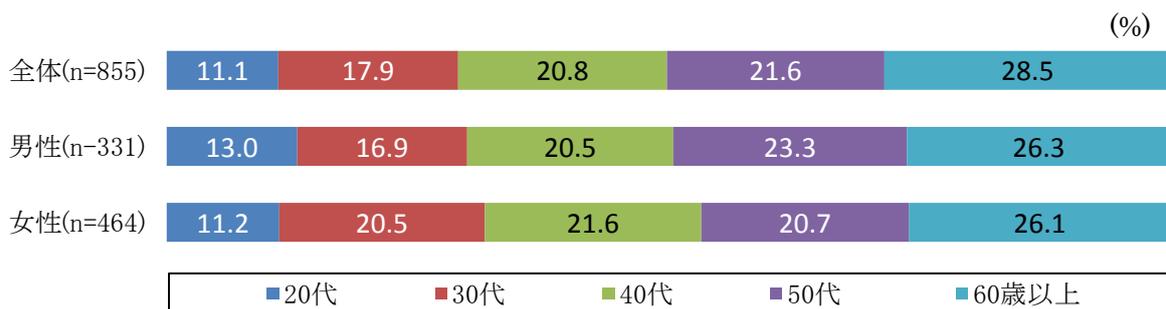
性別は、「男性」は38.7%、「女性」が54.3%となっている。



(2) 年代

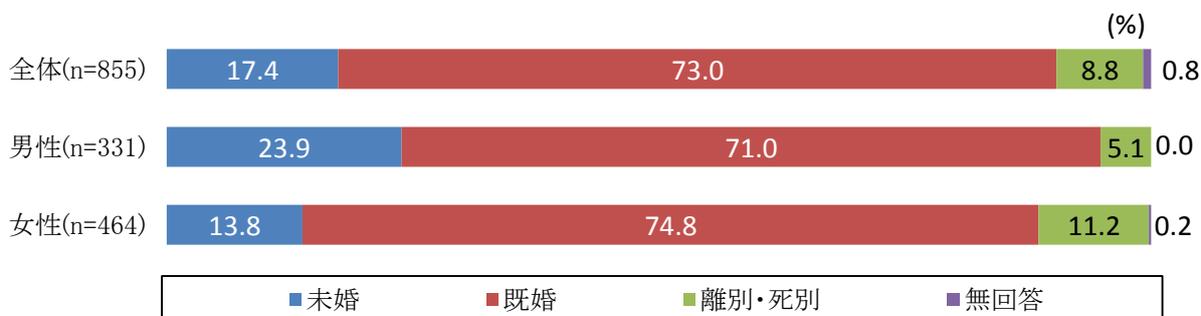
年齢は、「20代」が11.1%、「30代」が17.9%、「40代」が20.8%、「50代」が21.6%、「60歳以上」が28.5%となっている。

調査対象者は、各年代200名ずつ抽出しており、年代別の回答率は、高い年代ほど高い傾向となっている。



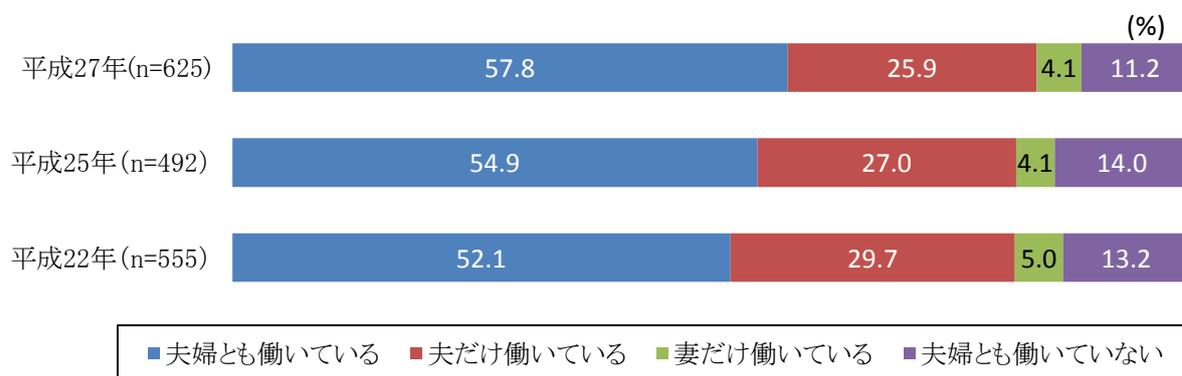
(3) 結婚の状況

結婚の状況は、「既婚」の割合が73.0%と最も高く、次いで「未婚」(17.4%)、「離別・死別」(8.8%)の順となっている。



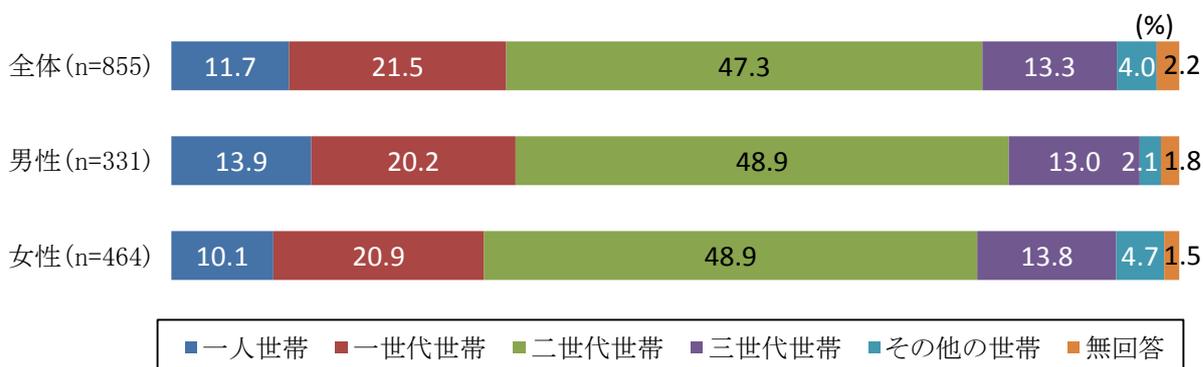
(4) 働き方

共働きの状況は、「夫婦とも働いている」が57.8%で最も高く、経年比較をみても夫婦の共働きの増加している。



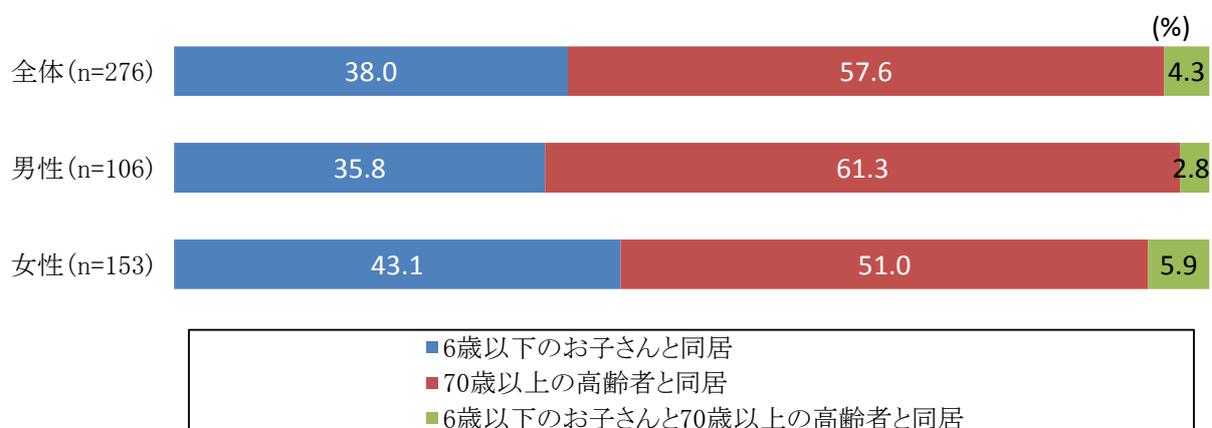
(5) 世帯構成

世帯構成は、全体で「二世帯世帯（親と子）」が47.3%で最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が21.5%、次いで男性は「一人世帯」が13.9%、女性は「三世帯世帯（親と子と孫）」が13.8%とそれぞれ続いている。



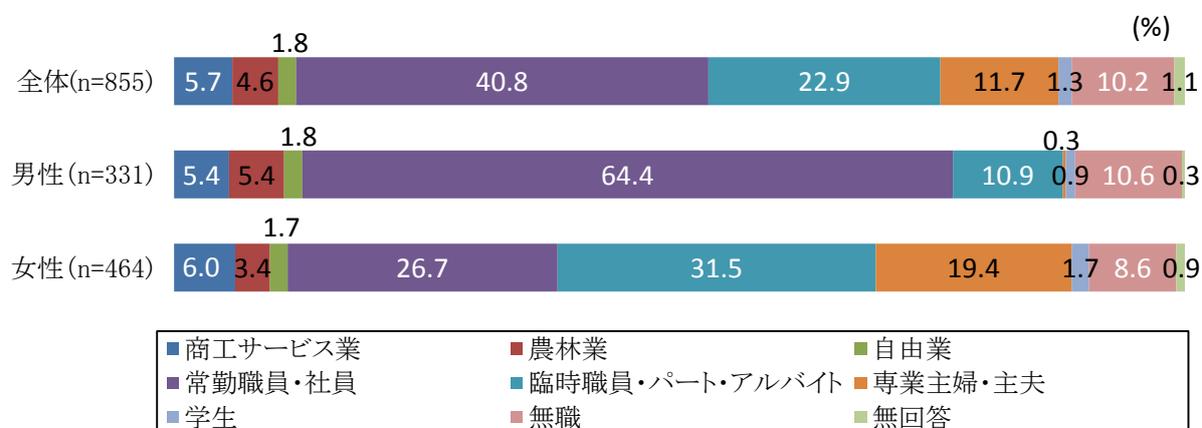
(6) 乳幼児・高齢者との同居

一人世帯以外の世帯で、乳幼児や高齢者との同居の状況は、「70歳以上の高齢者と同居」が57.6%、「6歳以下のお子さんと同居」が38.0%、「6歳以下のお子さんと70歳以上の高齢者と同居」が4.3%となっている。



(7) 職業

男性の職業は、「常勤職員・社員」が64.4%と6割を超えており、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が10.9%と続いている。一方、女性の職業は「臨時職員・パート・アルバイト」が31.5%最も高く、次いで「常勤職員・社員」が26.7%、「専業主婦」が19.4%と続いている。



2. 男女平等について

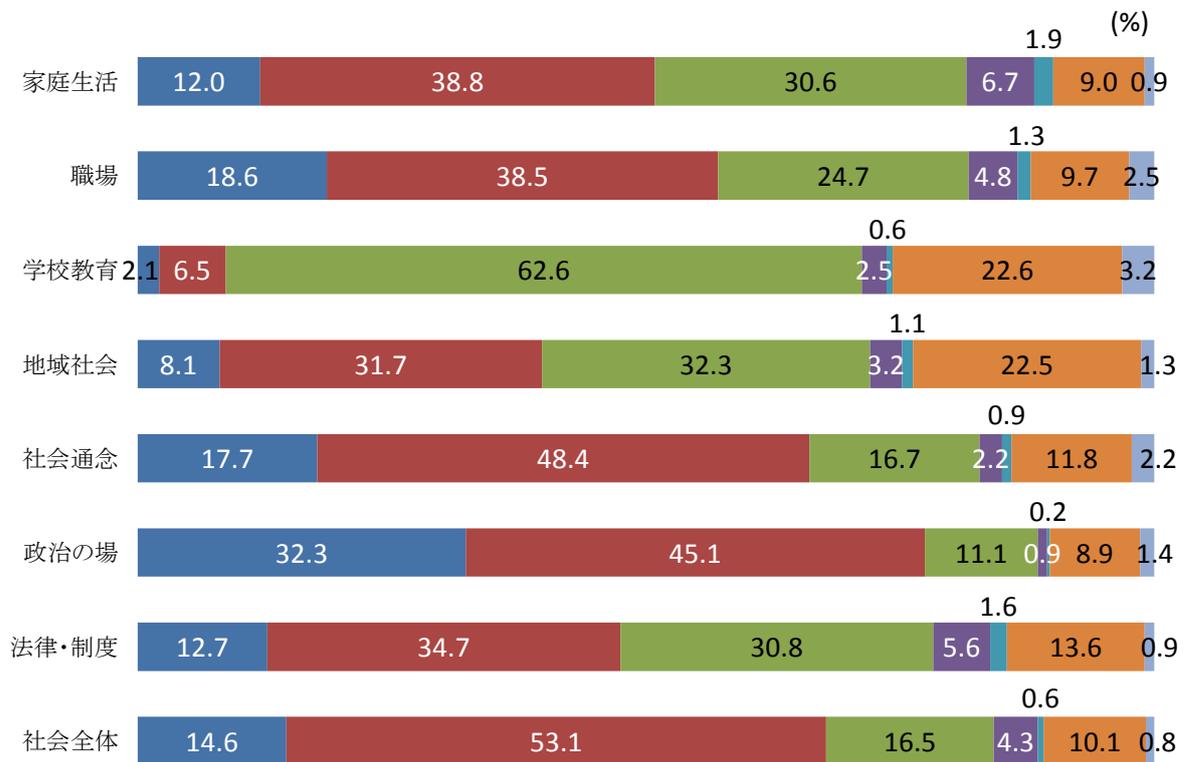
(1) 男女の地位の平等観

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

【全体】

「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっており、「政治の場」の項目は7割以上、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。

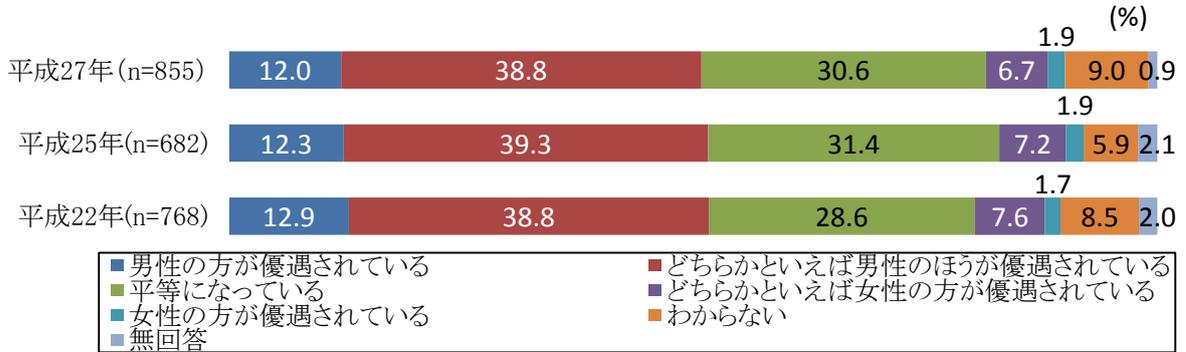
また、「平等になっている」では、「家庭生活」、「地域社会」、「法律・制度」の項目で3割を超えている。



① 家庭生活

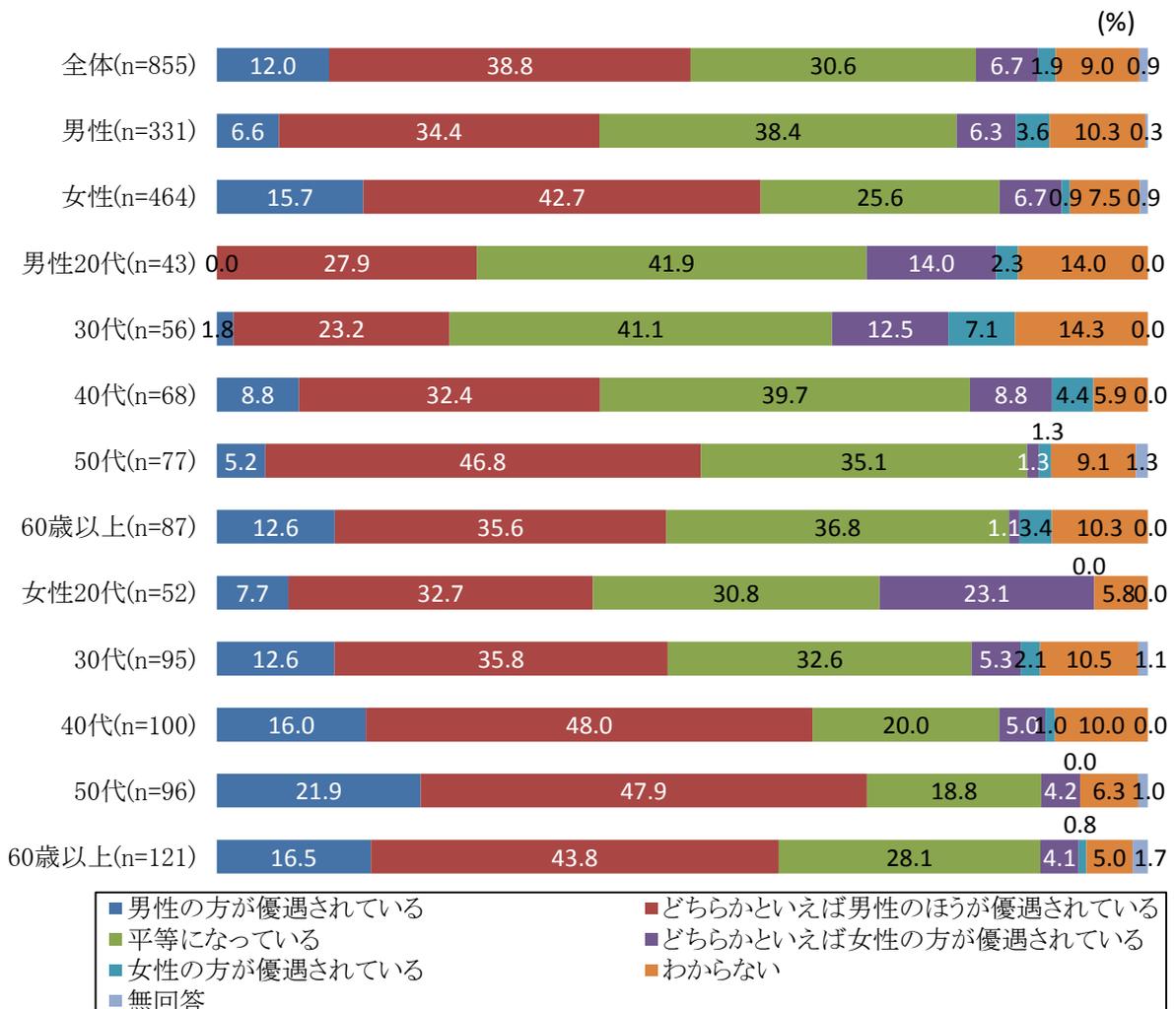
【全体】

家庭生活において「平等」と感じている人の割合は、30.6%と前回調査（平成25年調査を言う。以下同じ）から0.8ポイント減少、平成22年調査からは2.0ポイント増加しているが、依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下『男性が優遇（計）』という）は、50.8%で半数となっている。



【性・年代別】

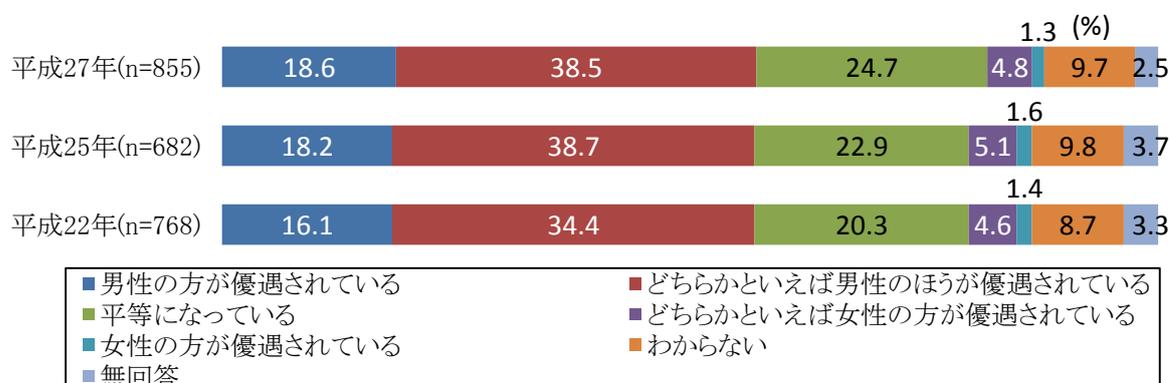
男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が38.4%であるのに対し、女性は12.8ポイント低い25.6%となっており、対照的に「男性の方が優遇されている」と感じている人は、男性の6.6%に対し女性は9.1ポイント高い15.7%となっている。



② 職場

【全体】

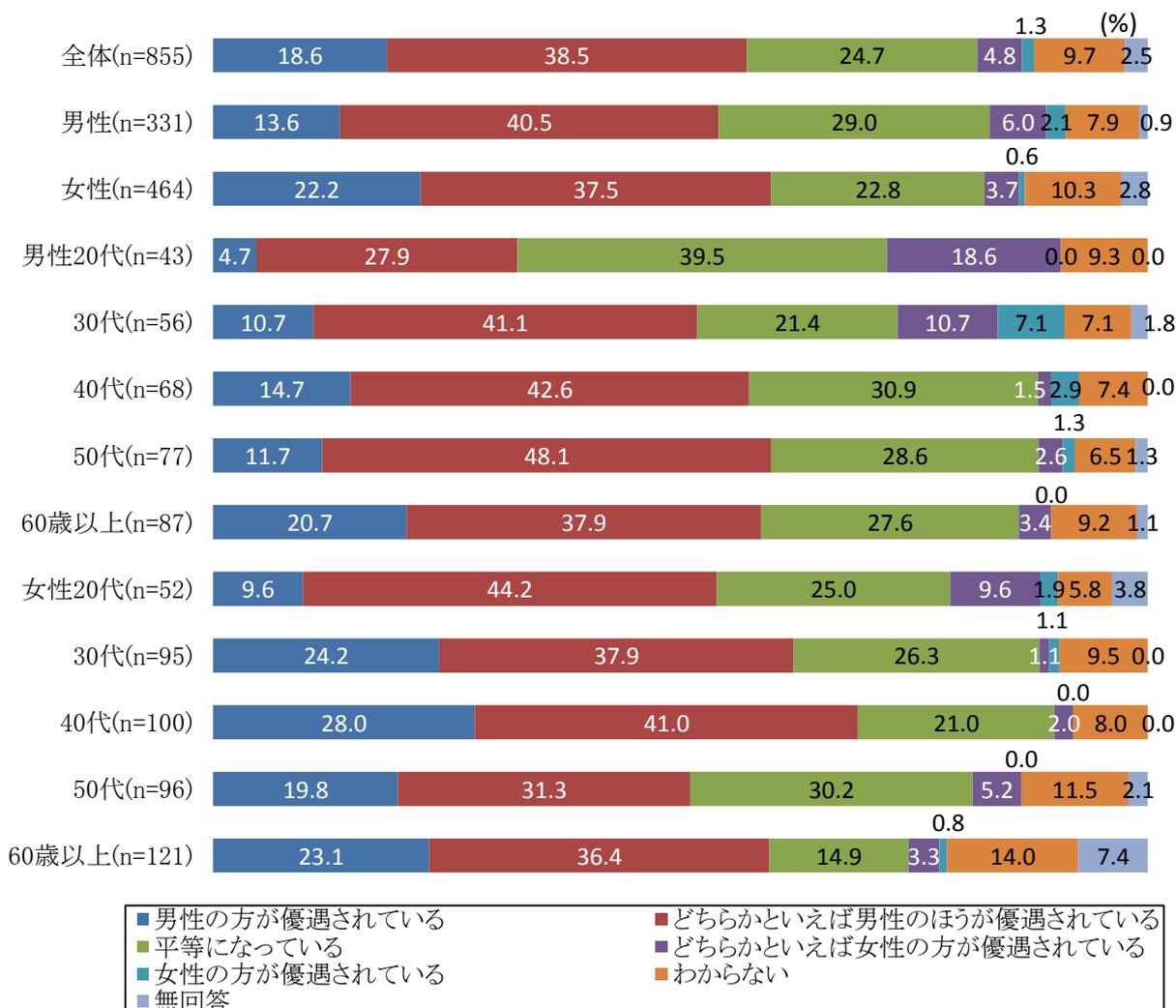
職場において『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、57.1%と前回調査とほぼ変わらない結果となっているが、「平等」と感じている人の割合は徐々に増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、女性が22.8%であるのに対し、男性は6.2ポイント高い29.0%となり、男女とも増加している。

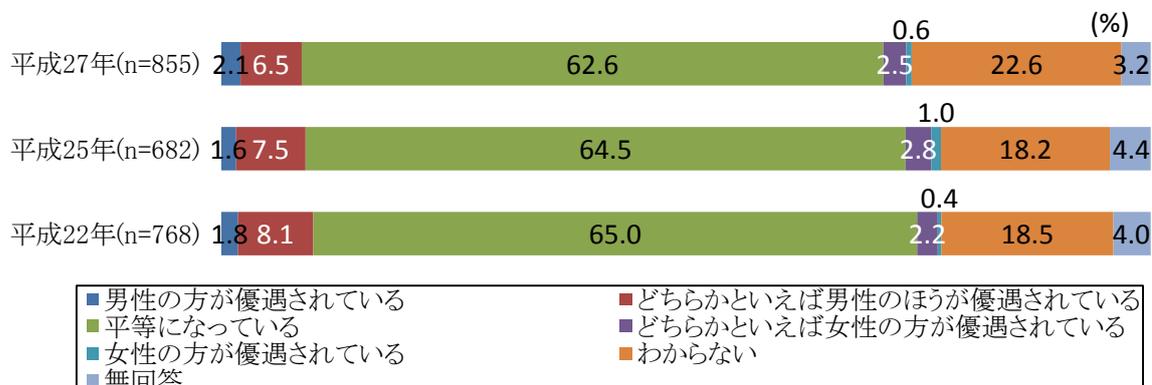
職場において、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、女性は全年代で5割を超えており、男性は20歳代を除く全ての年代で5割を超えている。20歳代男性では、『男性が優遇（計）』32.6%を「平等」39.5%と感じている人の割合が上回っている。



③ 学校教育

【全体】

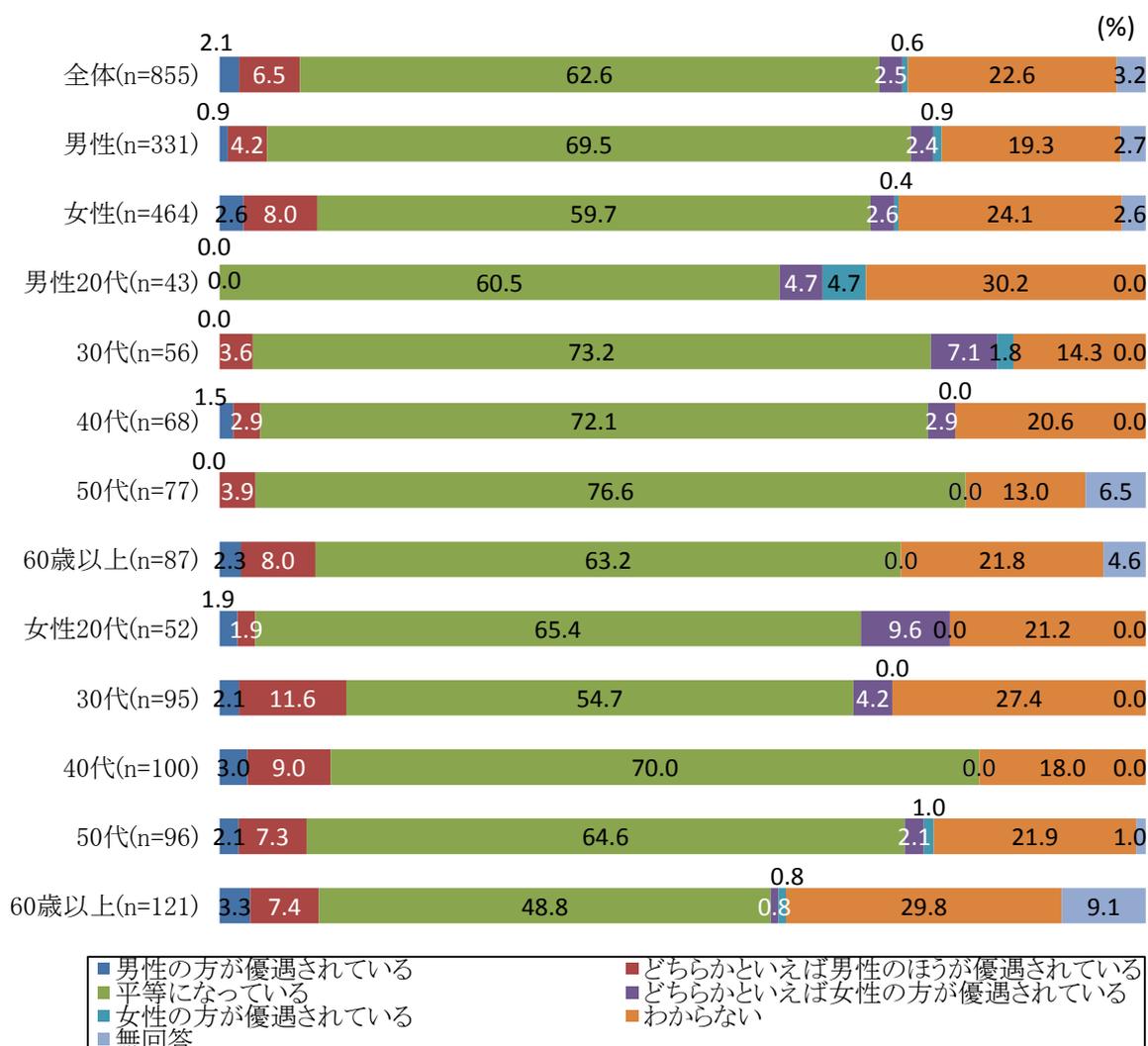
学校教育において「平等」と感じている人の割合は、62.6%と前回調査に比べ1.9ポイント低く、平成22年調査以降減少傾向にある。



【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が69.5%であるのに対し、女性は9.8ポイント低い59.7%となっている。

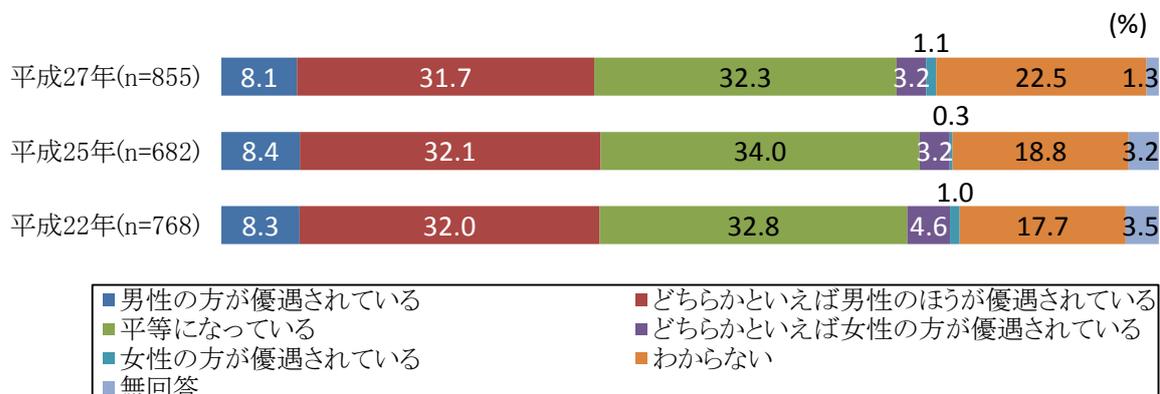
性・年代別でみると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、60歳以上が10.3%で最も高く、女性では30代の13.7%、次いで40代の12.0%となっている。



④ 町内会や自治会などの地域社会

【全体】

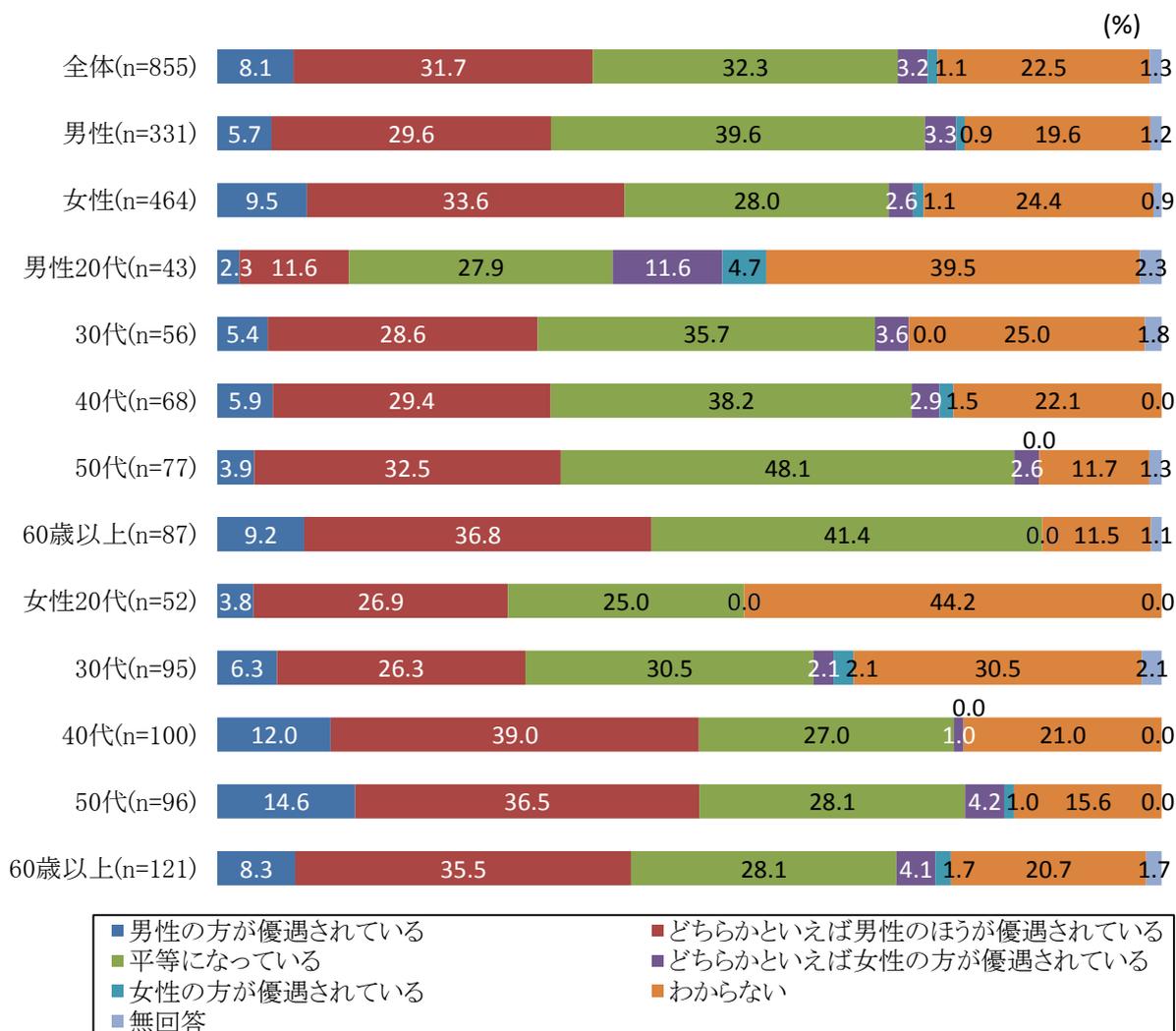
地域社会において、「平等」と感じている人の割合は32.3%、これに対し、『男性が優遇（計）』は39.8%と上回っている。経年比較をみると、ほぼ同じ割合となっている。



【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は女性が28.0%であるのに対し、男性は11.6ポイント高い39.6%となっている。

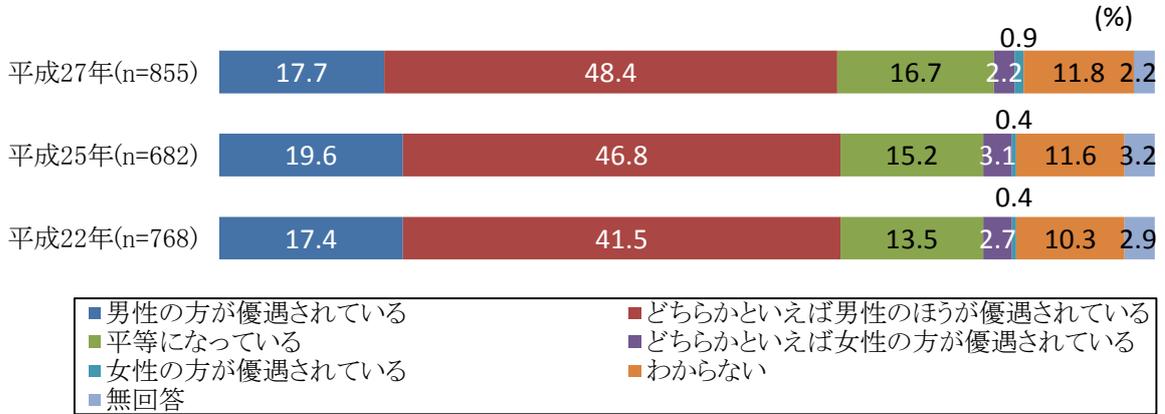
性・年代別でみると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、60歳以上が46.0%で最も高く、女性では50代の51.1%、次いで40代の51.0%となっている。



⑤ 社会通念・慣習・しきたり

【全体】

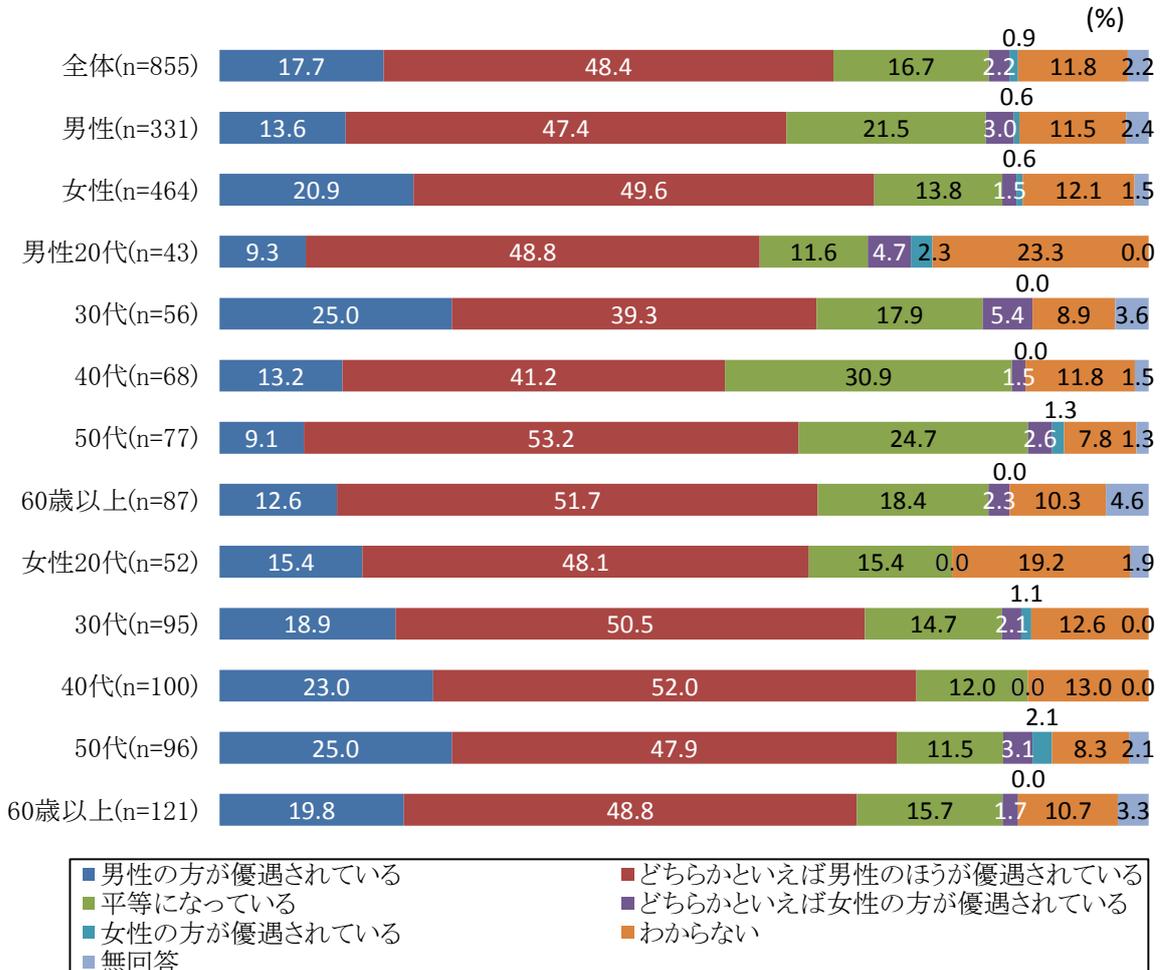
社会通念・慣習・しきたりに関して「平等」と感じている人の割合は、16.7%で平成22年度調査に比べて3.2ポイント増加している。また、『男性が優遇（計）』は、66.1%と平成22年調査から7.2ポイント減少している。



【性・年代別】

男女別で見ると、「平等」と感じている人の割合は女性が13.8%であるのに対し、男性は7.7ポイント高い21.5%となっている。

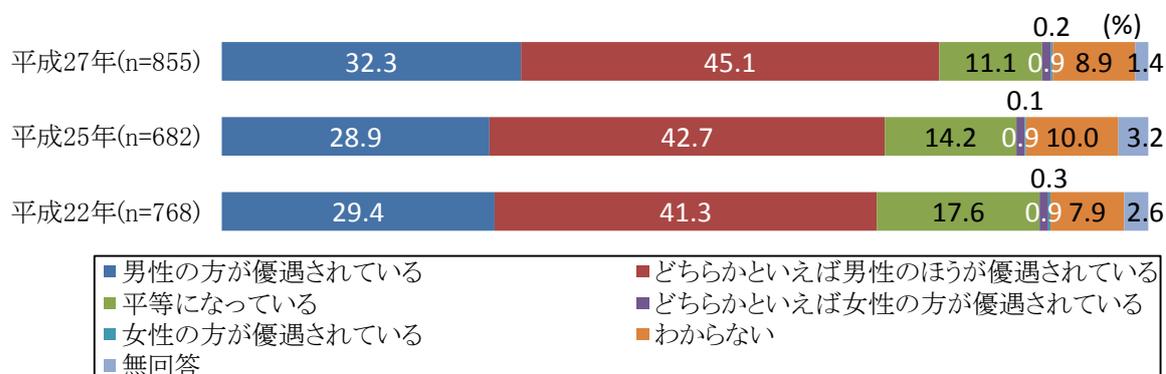
性・年代別で見ると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、30歳代が64.3%で最も高く、女性では40代の75.0%、次いで50代の72.9%となっている。



⑥ 政治の場

【全体】

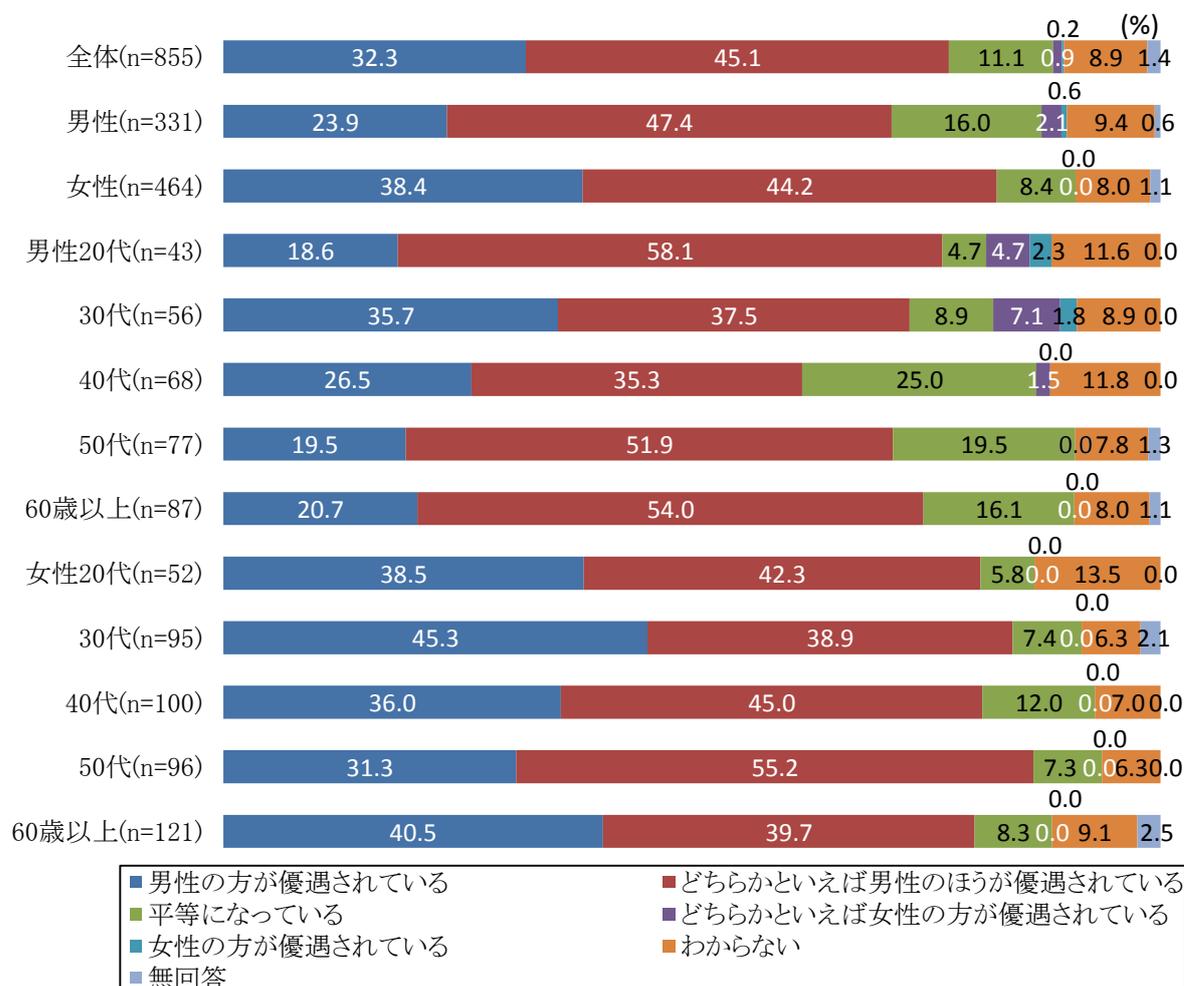
政治の場において「平等」と感じている人の割合は、11.1%と前回調査に比べ3.1ポイント減少している。一方で「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、前回調査から3.4ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、『男性が優遇（計）』は女性が82.6%であるのに対し、男性は11.3ポイント低い71.3%となっており、前回調査と比べ増加している。

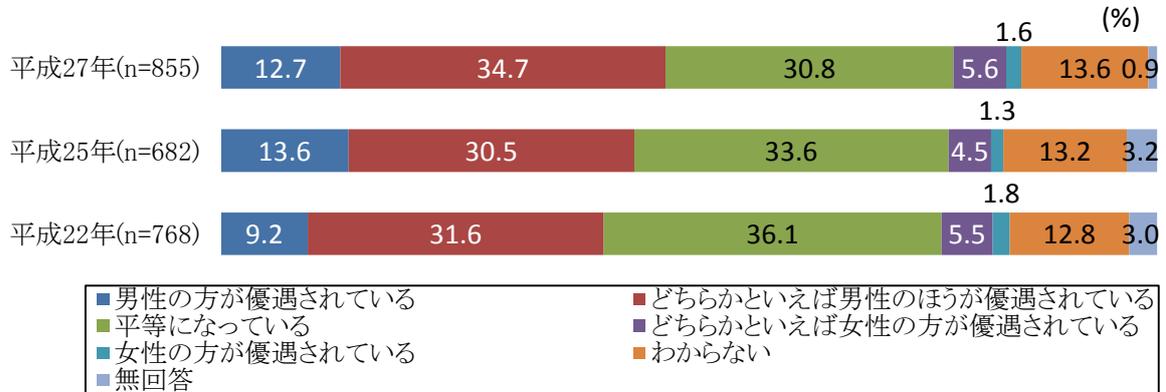
性・年代別でみると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、20歳代が76.7%で最も高く、女性では50代の86.5%、次いで30代の84.2%となっている。



⑦ 法律や制度の上

【全体】

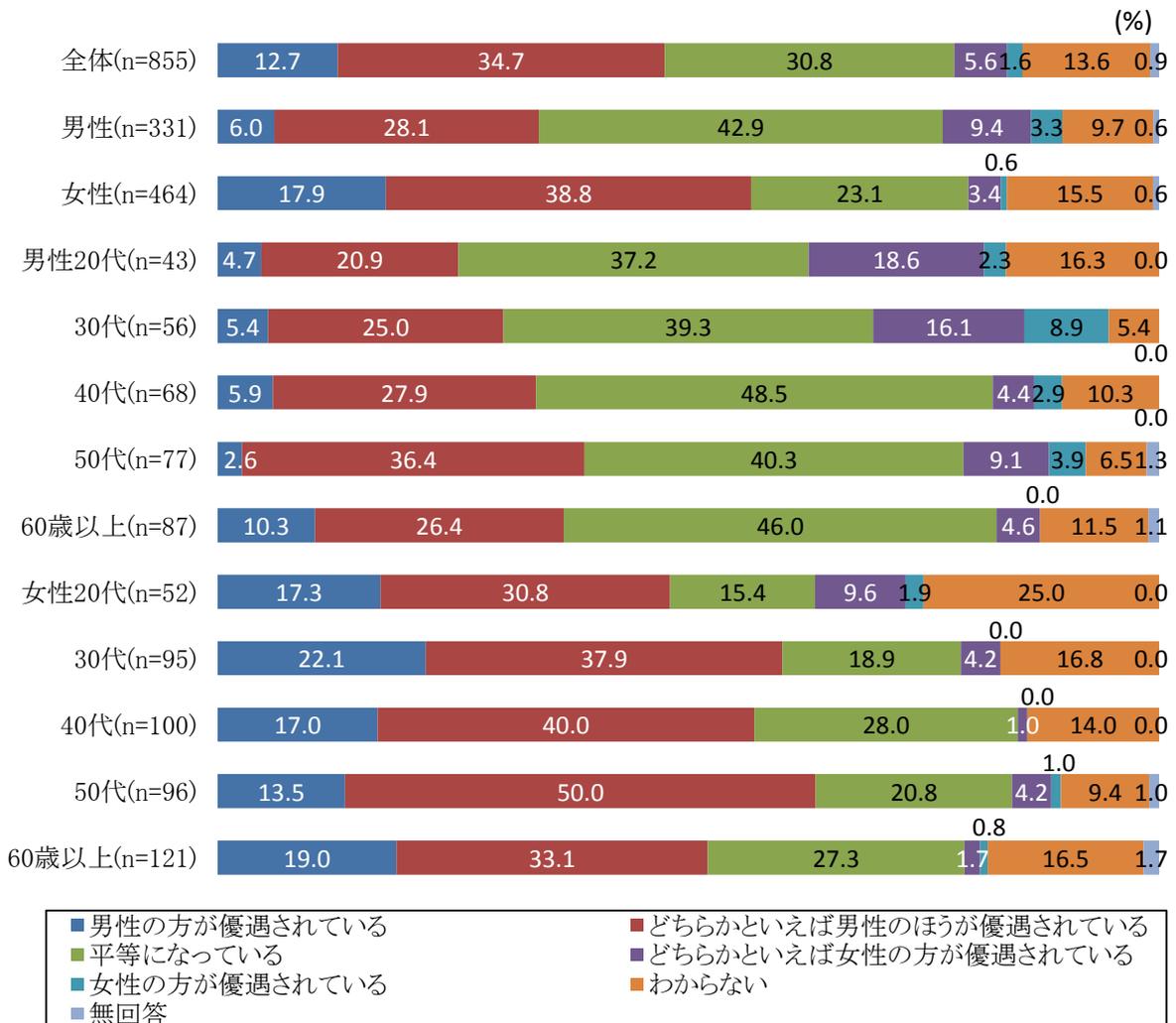
法律や制度において「平等」と感じている人の割合は、30.8%と前回調査からから2.8ポイント減少している。これに対し、『男性が優遇（計）』は、47.4%と前回調査に比べて3.3ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、『男性が優遇（計）』は男性が34.1%であるのに対し、女性は22.6ポイント高い56.7%となっている。

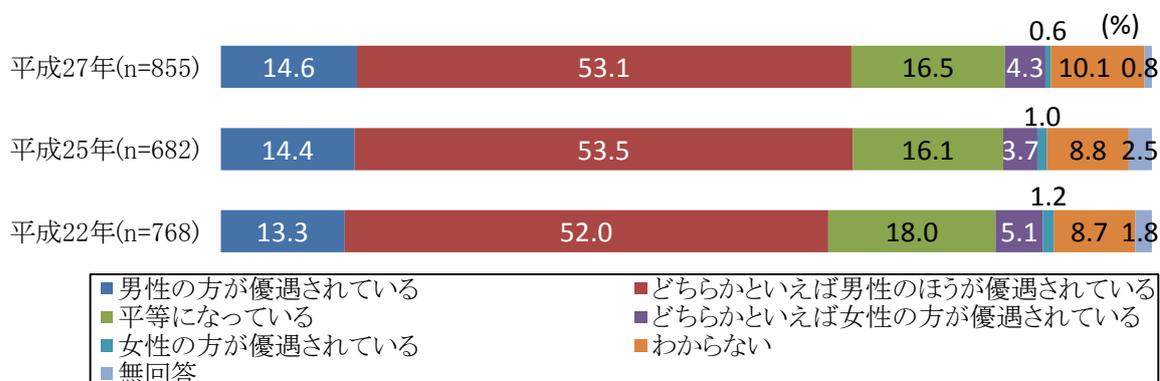
性・年代別でみると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、50歳代が39.0%で最も高く、女性では50代の63.5%、次いで30代の60.0%となっている。



⑧ 社会全体

【全体】

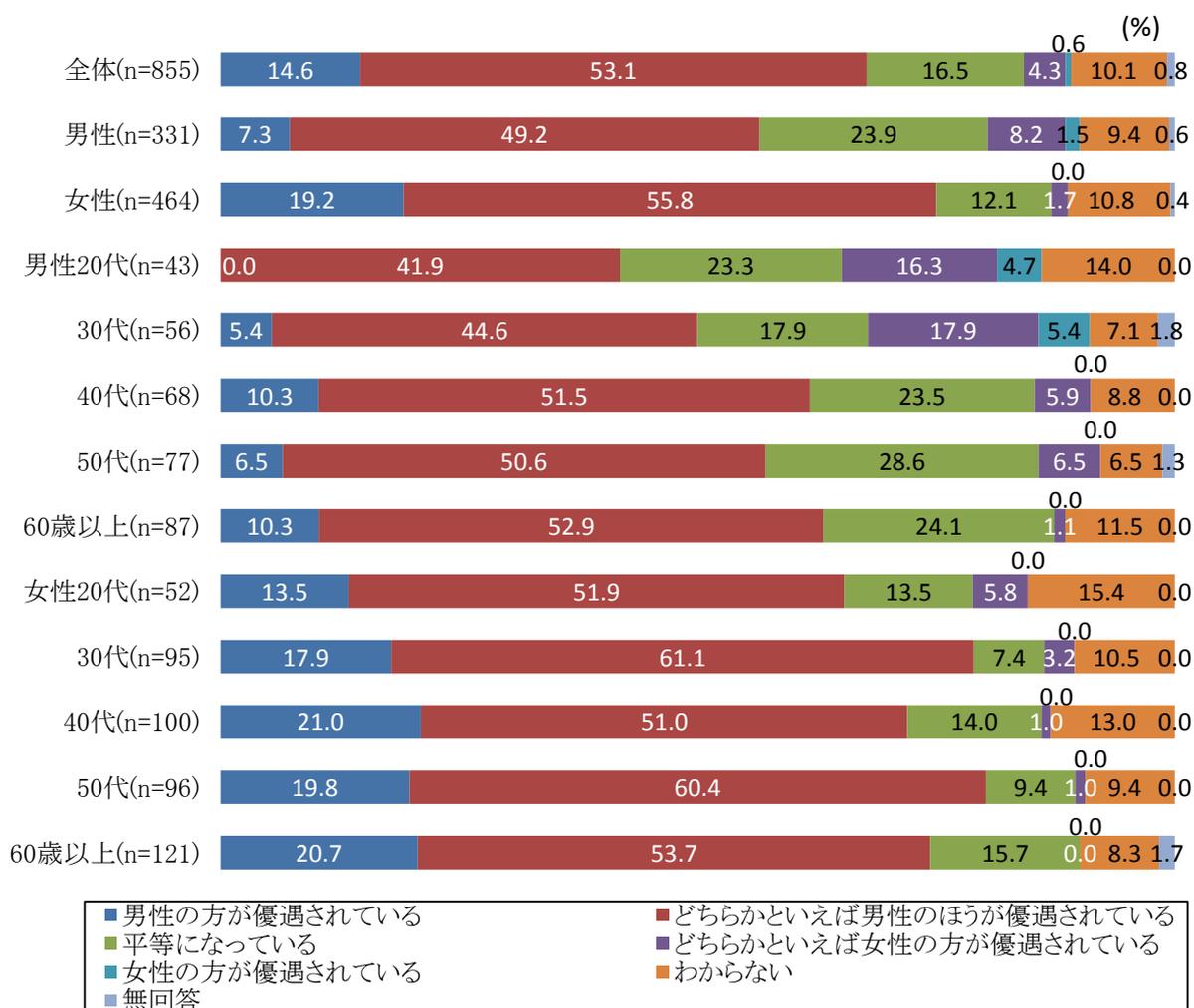
社会全体において「平等」と感じている人の割合は、前回調査に比べ0.4ポイント増加しているが、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、67.7%と依然として高い割合で推移している。



【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が23.9%であるのに対し、女性は11.8ポイント低い12.1%となっている。

性・年代別でみると、男性では『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、60歳以上が63.2%で最も高く、女性では50代の80.2%、次いで30代の79.0%となっている。



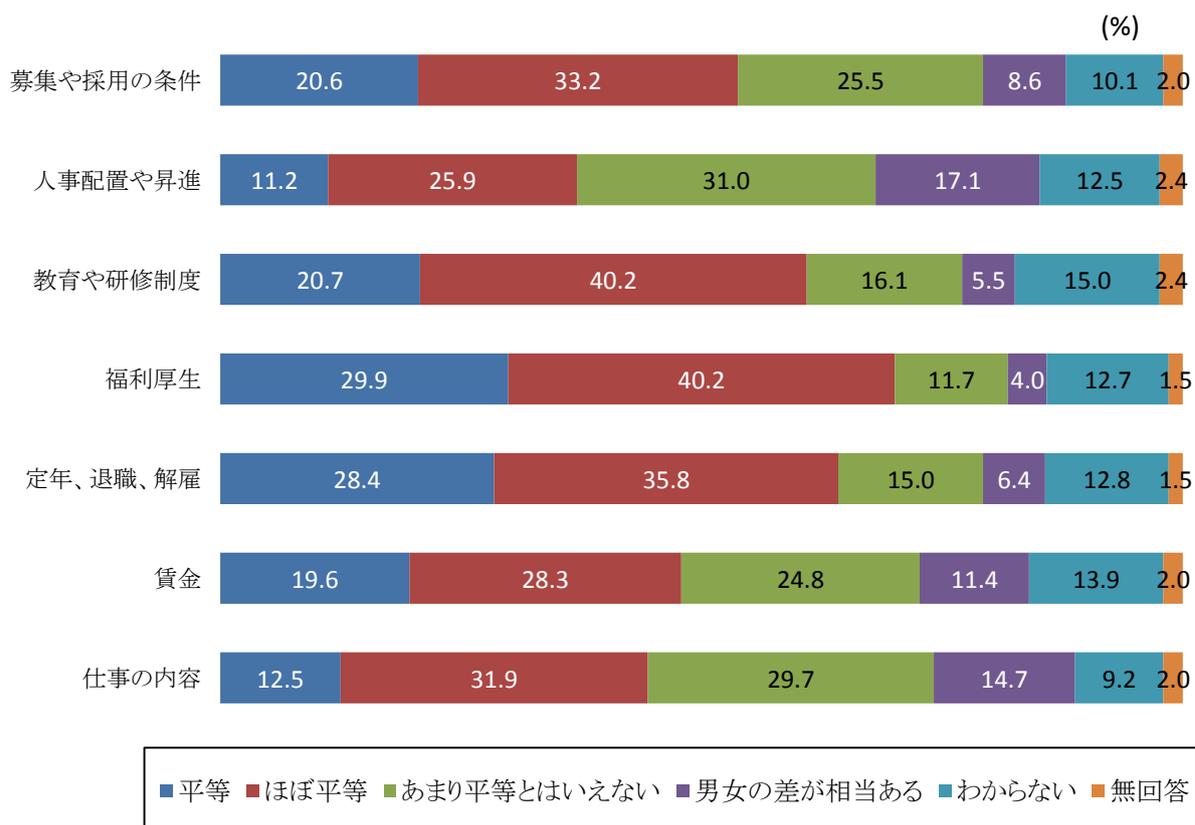
(2) 職場における男女平等

【問2】 あなたの職場では、どの程度男女平等になっていると思いますか。

【全体】

職場での男女平等について「平等」、「ほぼ平等」と感じている人の割合は、「人事配置や昇進」「賃金」、「仕事の内容」以外の項目で5割を超えている。

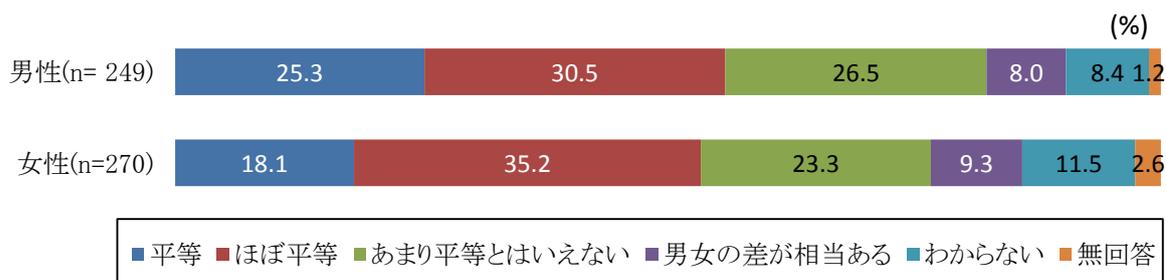
一方、「あまり平等とはいえない」と「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた割合の最も高い項目は、「人事配置や昇進」の48.1%で、次いで「仕事の内容」の44.4%、「賃金」の36.2%となっている。



① 募集や採用の条件

【性別】

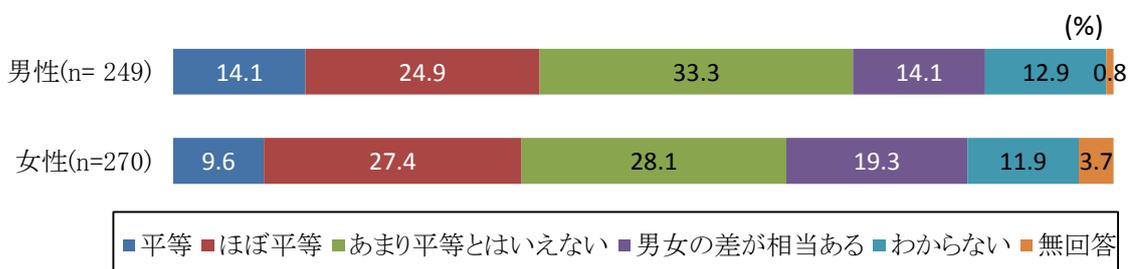
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が2.5ポイント低くなっている。



② 人事配置や昇進

【性別】

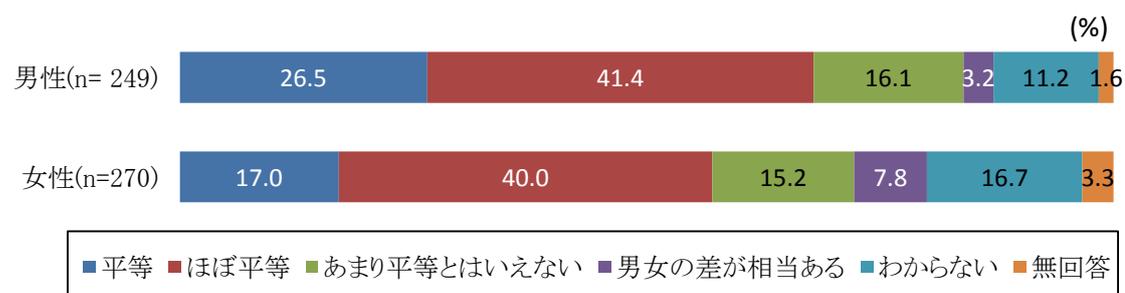
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が2.0ポイント低くなっている。



③ 教育や研修制度

【性別】

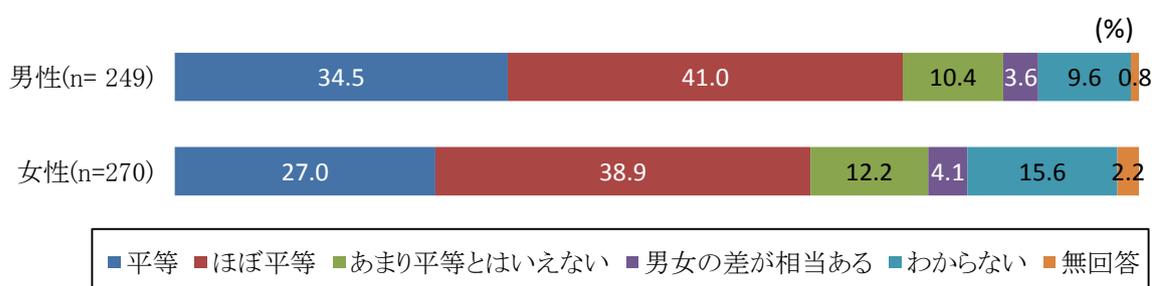
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が10.9ポイント低くなっている。



④ 福利厚生

【性別】

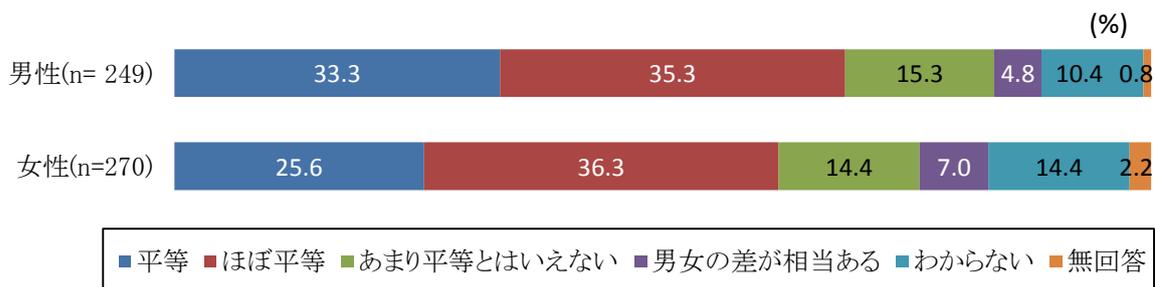
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が9.6ポイント低くなっている。



⑤ 定年、退職、解雇

【性別】

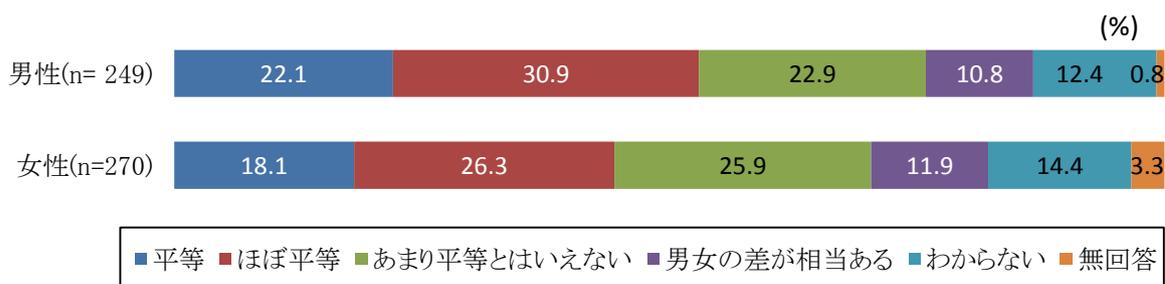
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が6.7ポイント低くなっている。



⑥ 賃金

【性別】

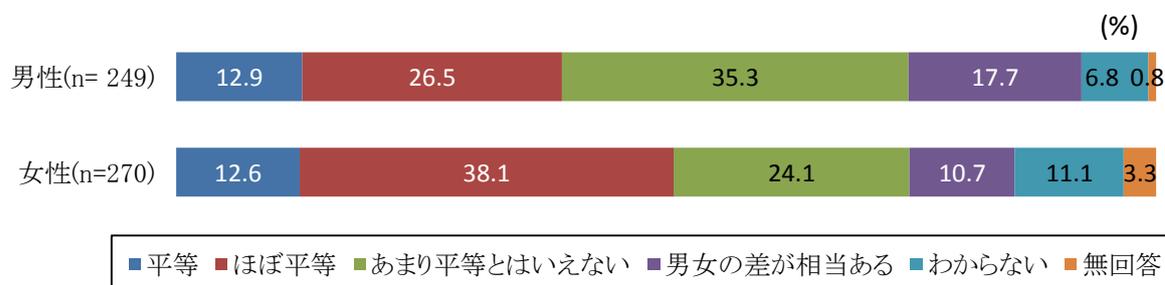
男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が8.6ポイント低くなっている。



⑦ 仕事の内容

【性別】

男女別でみると、「平等」「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合は、男性より女性が11.3ポイント高くなっている。



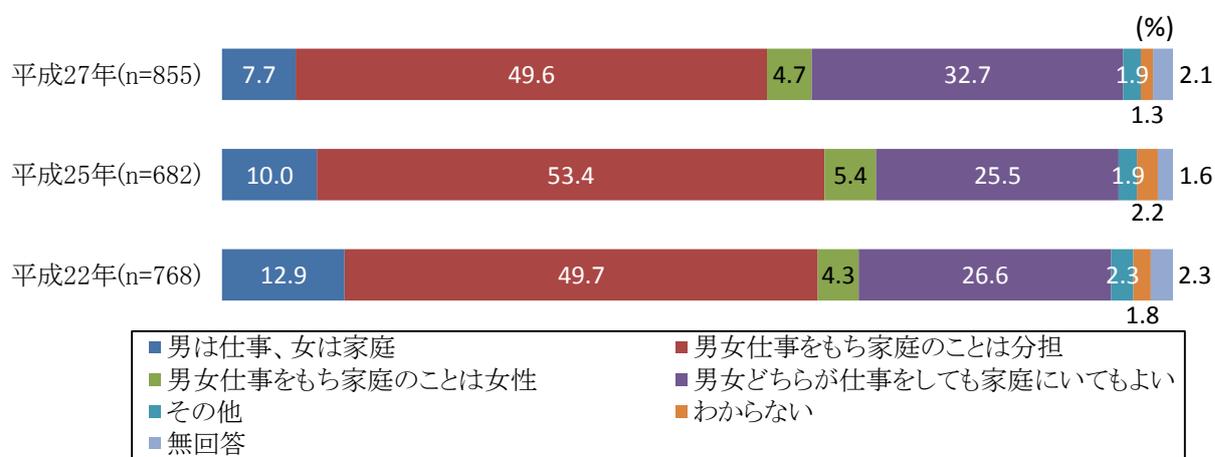
(3) 男は仕事、女は家庭という考え方

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「男女とも仕事をもち家庭のことは分担」が49.6%で最も高く、次いで、「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が32.7%、「男は仕事、女は家庭」が7.7%、「男女仕事をもち家庭のことは女性」が4.7%などの順となっている。

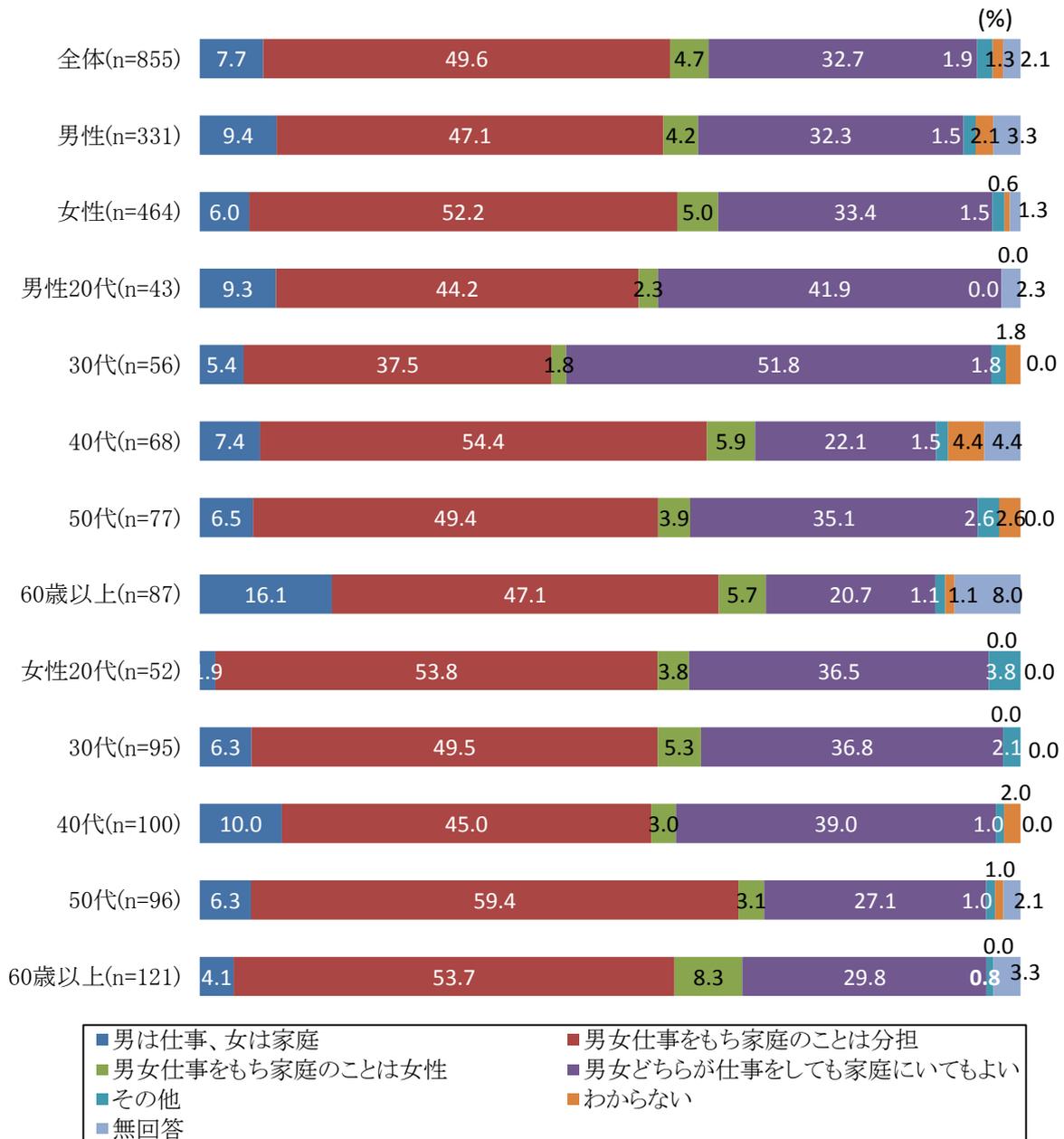
「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は減少している。一方で「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」と考える人が増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「男女とも仕事をもち家庭のことは分担」は、女性が52.2%で男性の47.1%より5.1ポイント高くなっている。一方、「男は仕事、女は家庭」は、男性が9.4%で女性の6.0%より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「男女とも仕事をもち家庭のことは分担」は、男性では40代、女性では20代・50代・60歳以上で半数を超える割合となっている。また、「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」は、30代の男性で半数を超える割合となっている。



3. 結婚・家庭生活・子育て介護について

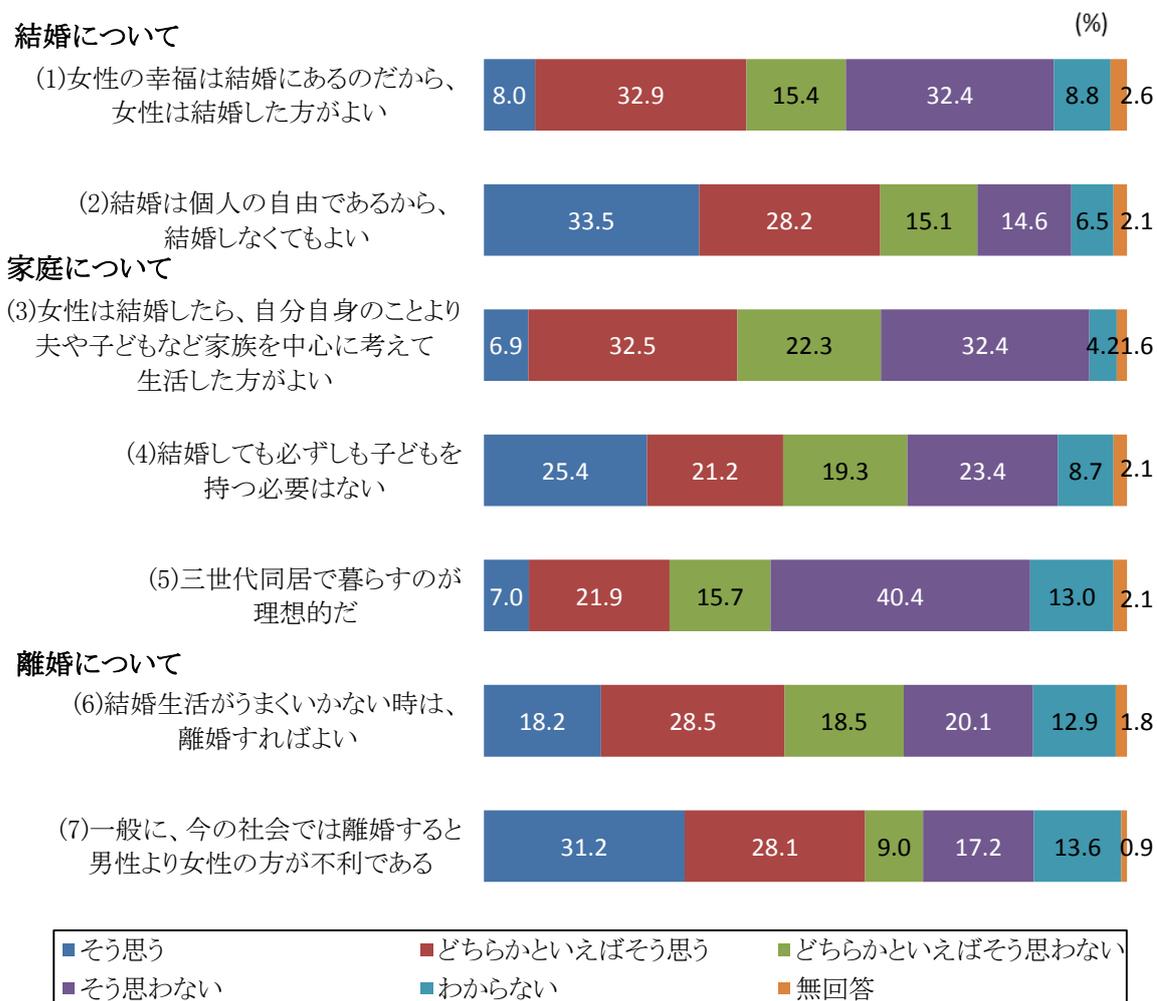
(1) 結婚・家庭・離婚についての考え

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

結婚や家庭、離婚については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が61.7%と最も高く、次いで、「一般に、今の社会では離婚すると男性よりも女性の方が不利である」の59.3%、「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」の46.7%などの順になっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が56.1%で最も高く、次いで、「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の54.7%などの順になっている。

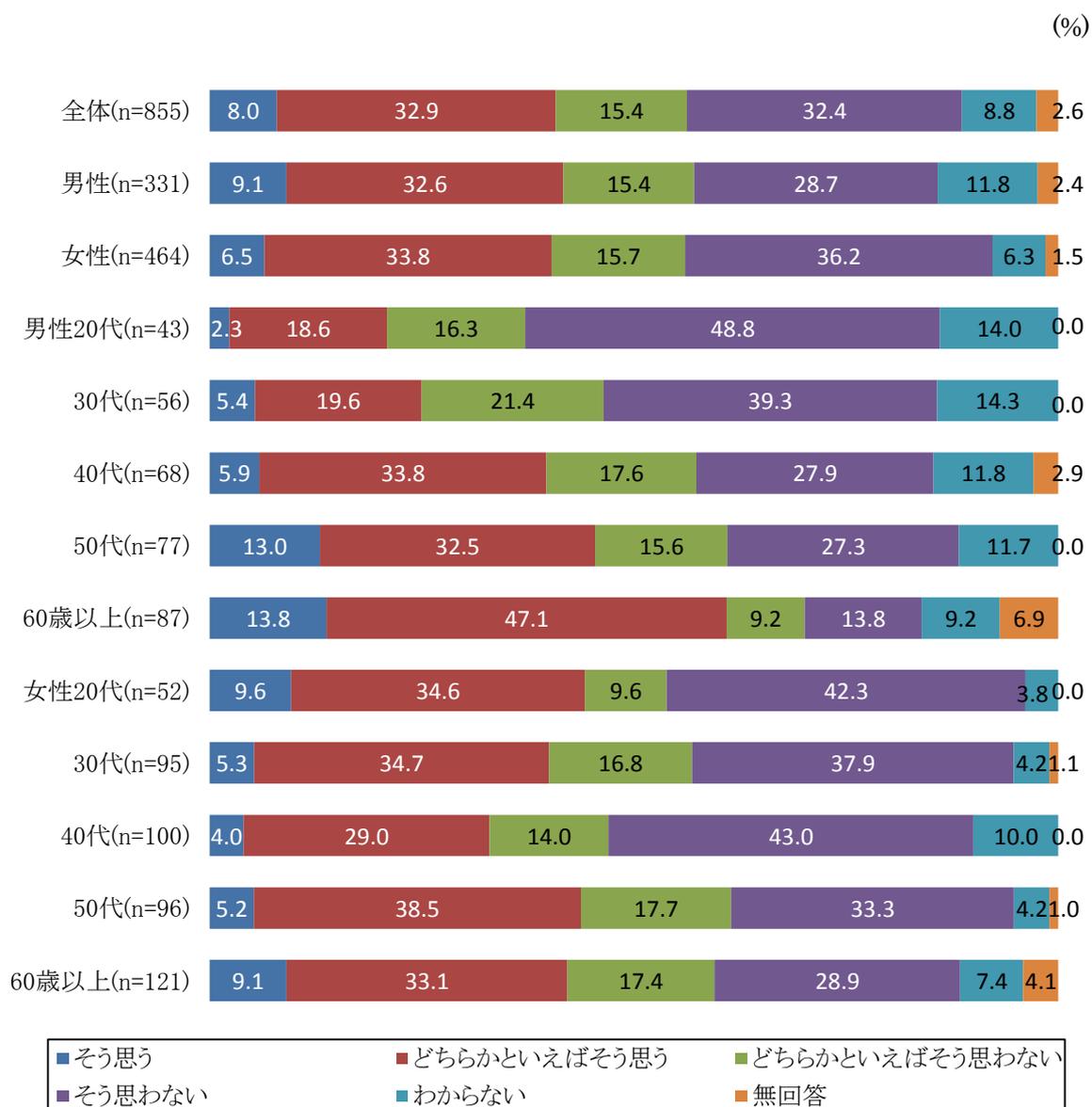


① 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい

【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は男性が41.7%で女性の40.3%より1.4ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が51.9%で男性の44.1%より7.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は男性では年代が高くなるほど割合が高く、女性では40代が低い割合になっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の20代が65.1%、30代が60.7%、女性では40代が57.0%、30代が54.7%、20代が51.9%などで高くなっている。

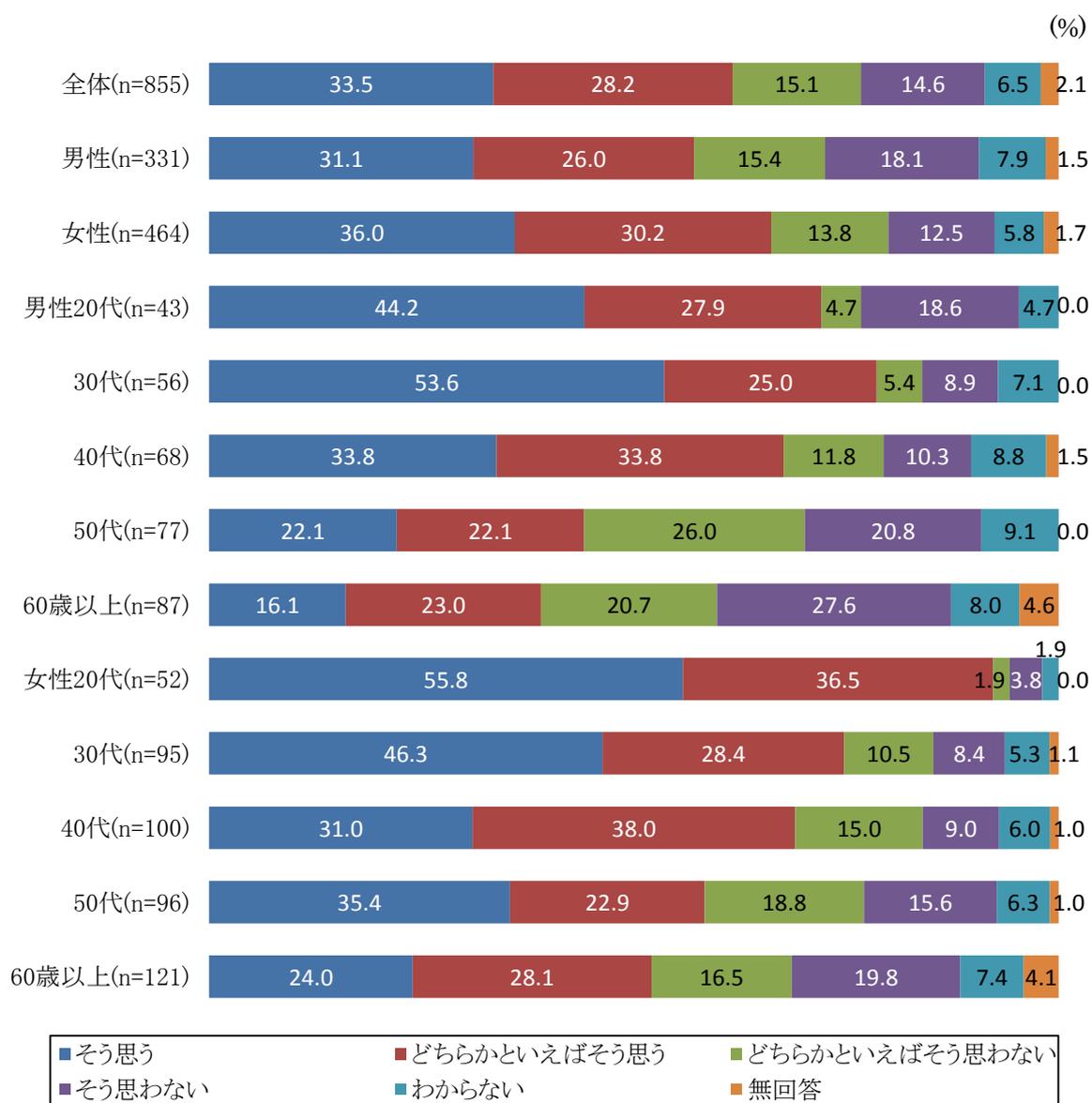


② 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい

【性・年代別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は女性が66.2%で男性の57.1%より9.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が33.5%で女性の26.3%より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う（計）』は男女ともおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性の20代で92.3%、30代で74.7%、男性では30代が78.6%、40代が67.6%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の60歳以上が48.3%、50代が46.8%、女性では60歳以上が36.3%、50代が34.4%で高くなっている。

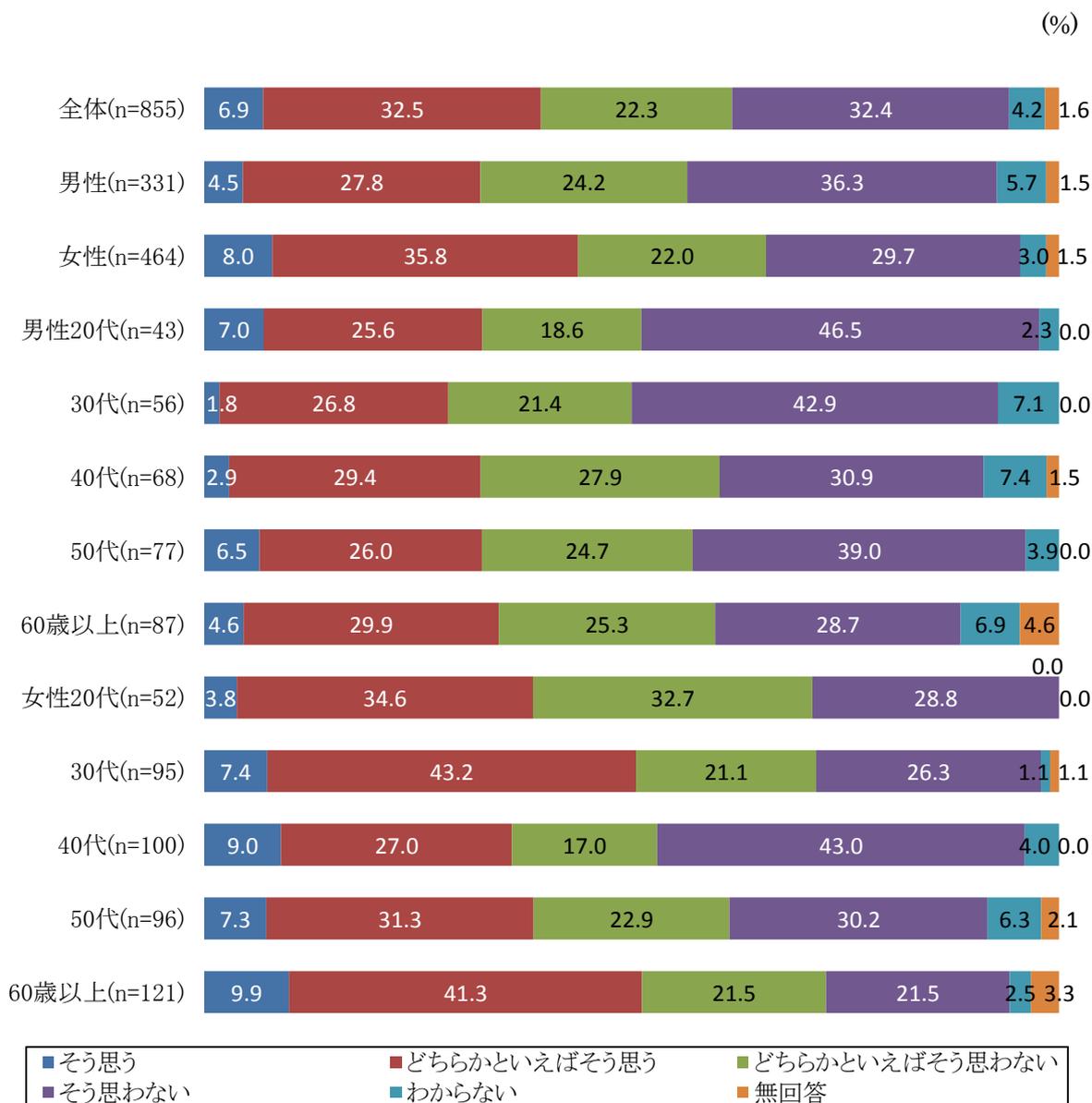


③ 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が43.8%で男性の32.3%より11.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が60.5%で女性の51.7%より8.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の60歳以上で51.2%、30代で50.6%、男性では20代が32.6%、50代が32.5%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の20代で65.1%、30代で64.3%、50代で63.7%、女性では20代が61.5%、40代が60.0%で高くなっている。

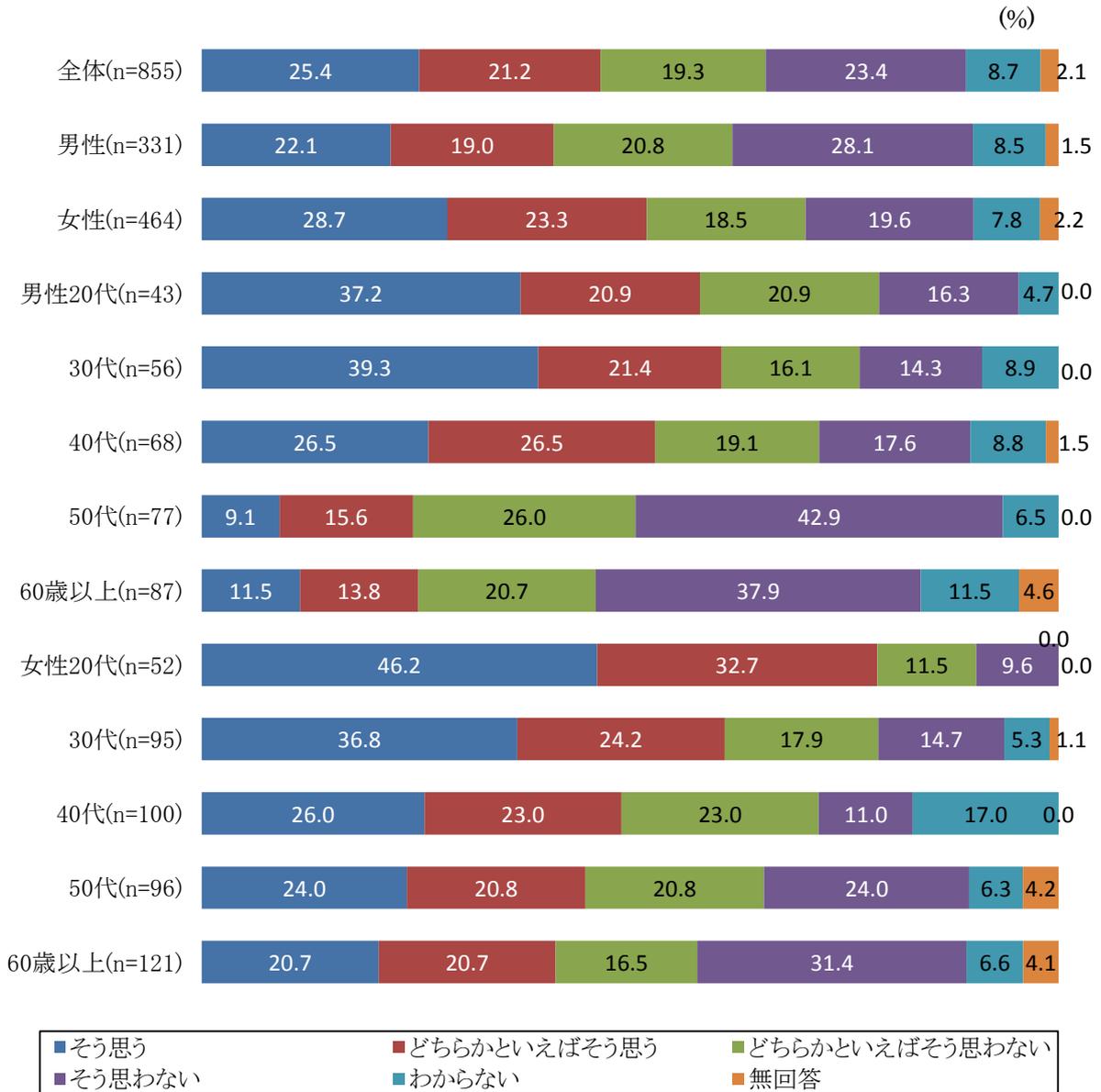


④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が52.0%で男性の41.1%より10.9ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が48.9%で女性の38.1%より10.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の20代で78.9%、30代で61.0%、男性では30代が60.7%、20代が58.1%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の50代で68.9%、60歳以上で58.6%、女性では60歳以上が47.9%、50代が44.8%で高くなっている。

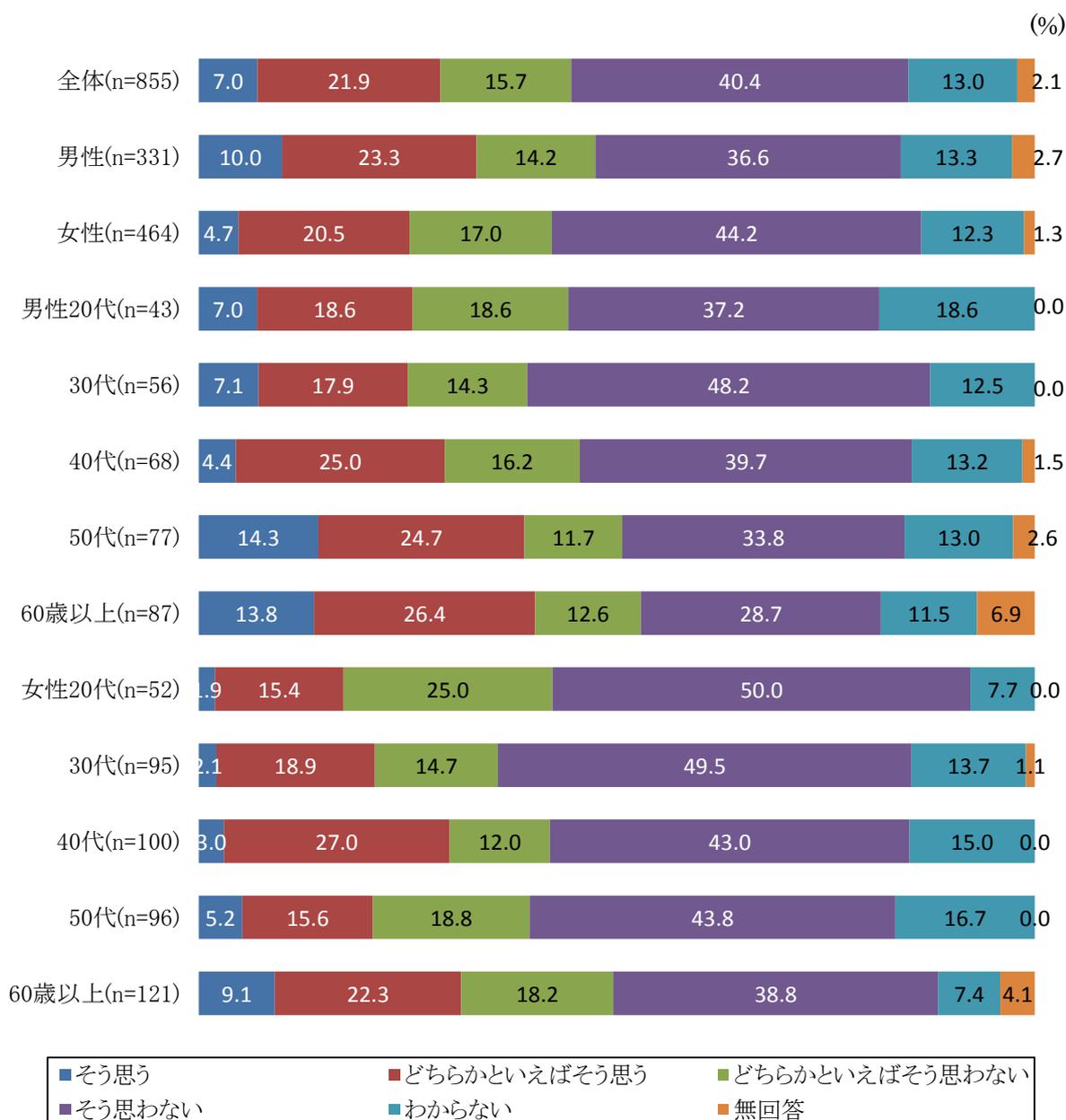


⑤ 三世帯同居で暮らすのが理想的だ

【性・年代別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は男性が33.3%で女性の25.2%より8.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が61.2%で男性の50.8%より10.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『そう思う（計）』は男性の60歳以上で40.2%、50代で39.0%、女性では60歳以上が31.4%、40代が30.0%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の30代が62.5%、40代が55.9%、20代が55.8%、女性では20代が75.0%、30代が64.2%、50代が62.6%で高くなっている。

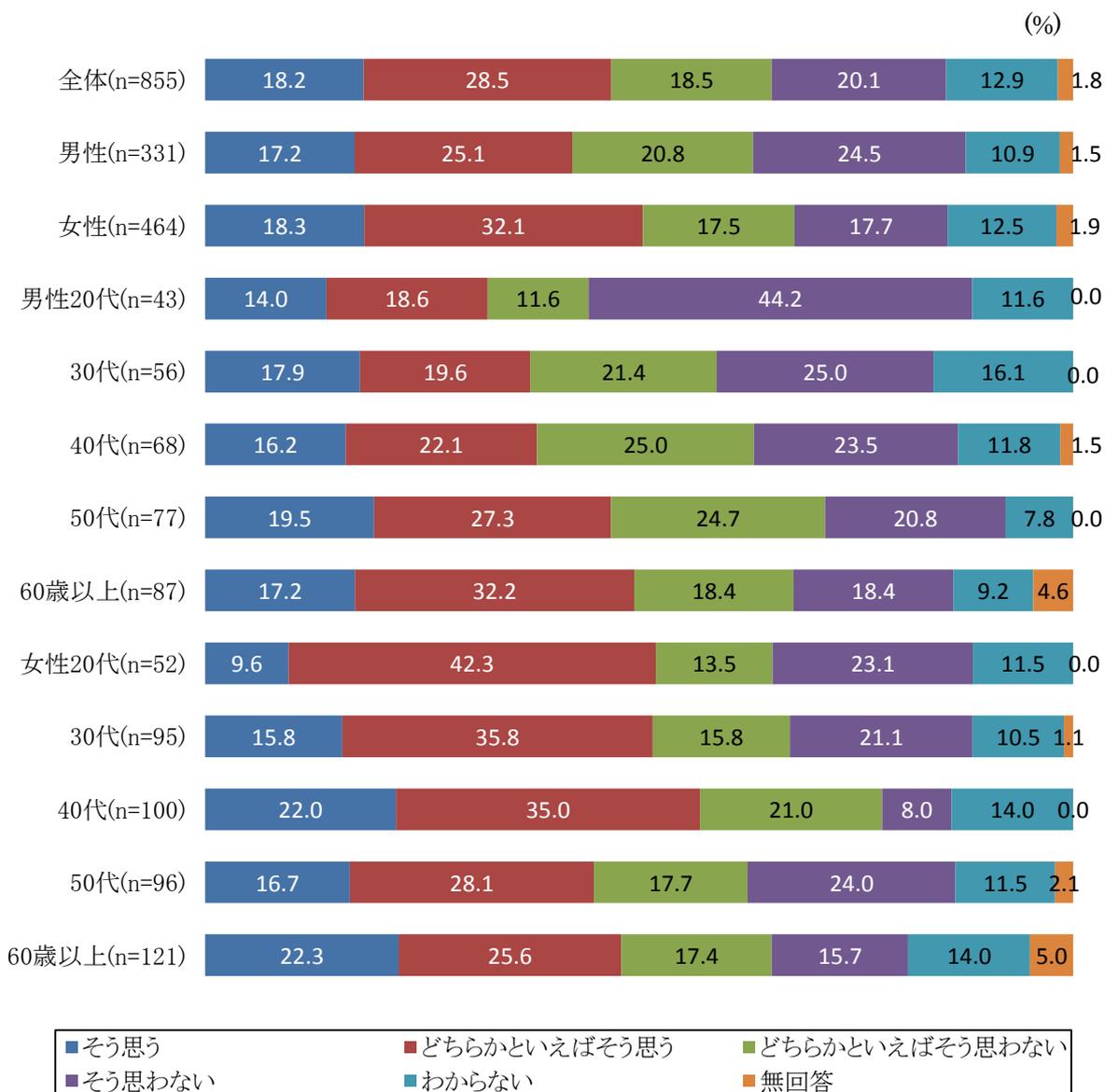


⑥ 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい

【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が50.4%で男性の42.3%より8.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が45.3%で女性の35.2%より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の40代で57.0%、20代で51.9%、30代で51.6%、男性では60歳以上が49.4%、50代が46.8%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の20代で55.8%、40代で48.5%、女性では50代が41.7%で高くなっている。



(2) 夫婦の役割分担

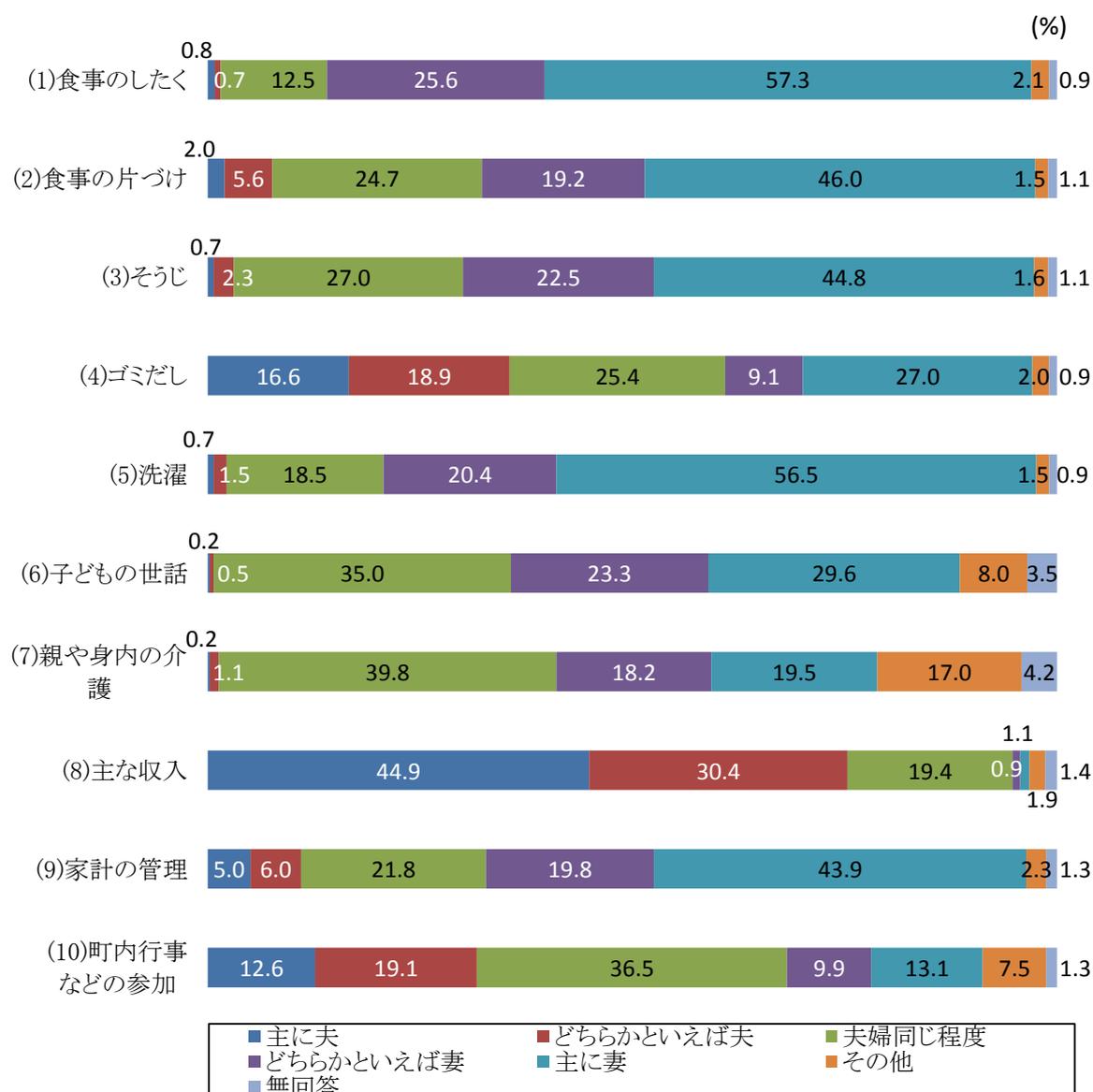
【問5】 あなたは、次の(1)～(10)について、夫婦間でどのように分担していますか。配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

【全体】

夫婦の役割分担については、「主に夫」と「どちらかといえば夫」を合わせた『夫(計)』は、「主な収入」が75.3%と最も高く、次いで、「ゴミ出し」の35.5%、「町内行事などの参加」の31.7%などの順になっている。また、「夫婦同じ程度」は「親や身内の介護」が39.8%と最も高く、次いで、「町内行事などの参加」が36.5%、「子どもの世話」が35.0%などの順になっている。

一方、「どちらかといえば妻」と「主に妻」を合わせた『妻(計)』は、「食事のしたく」が82.9%で最も高く、次いで、「洗濯」が76.9%、「そうじ」が67.3%などの順になっている。

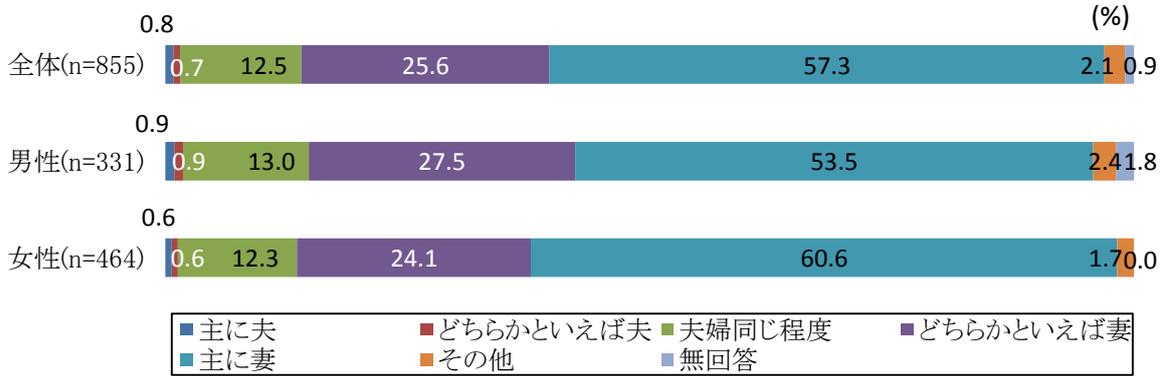
『夫(計)』と『妻(計)』を比較すると、「主な収入」と「町内行事などの参加」以外は妻の役割との割合が高くなっていて、多くの役割分担が女性に偏っている。



① 食事のしたく

【性別】

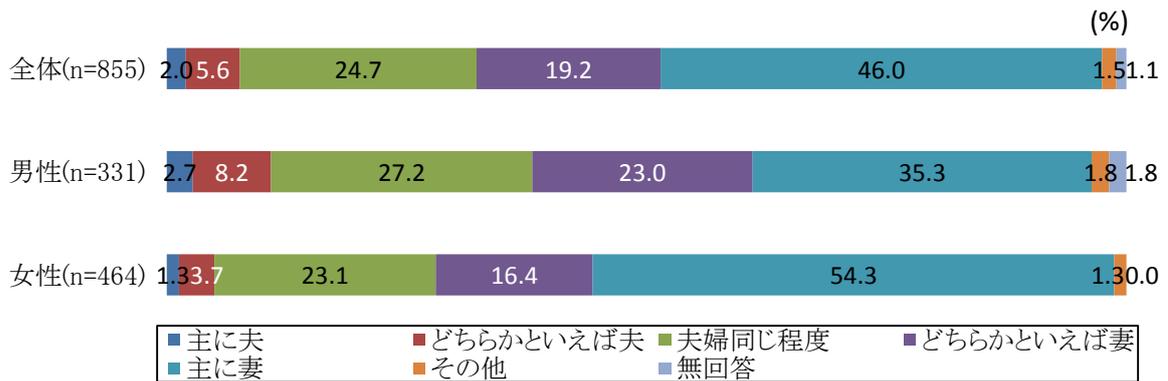
男女別でみると、大きな違いはみられない。



② 食事の後かたづけ

【性別】

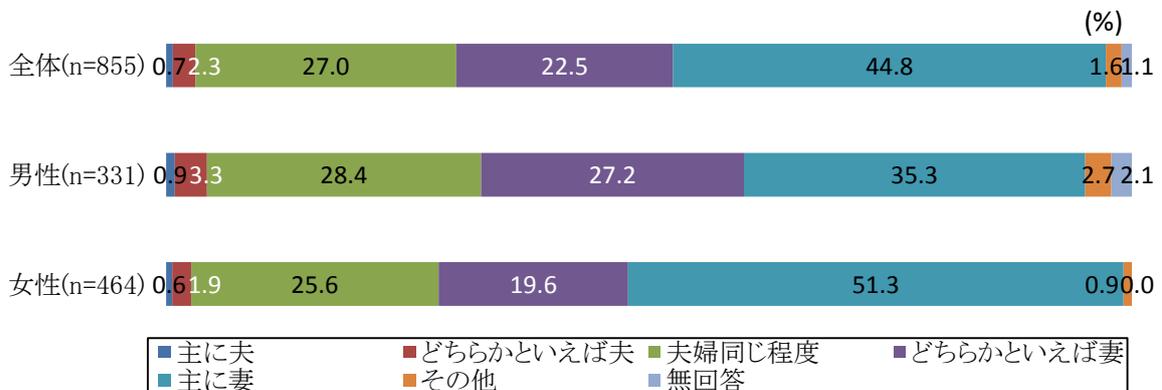
男女別でみると、『妻（計）』は女性の70.7%で男性の58.3%より12.4ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が27.2%で女性の23.1%より4.1ポイント高くなっている。



③ そうじ

【性別】

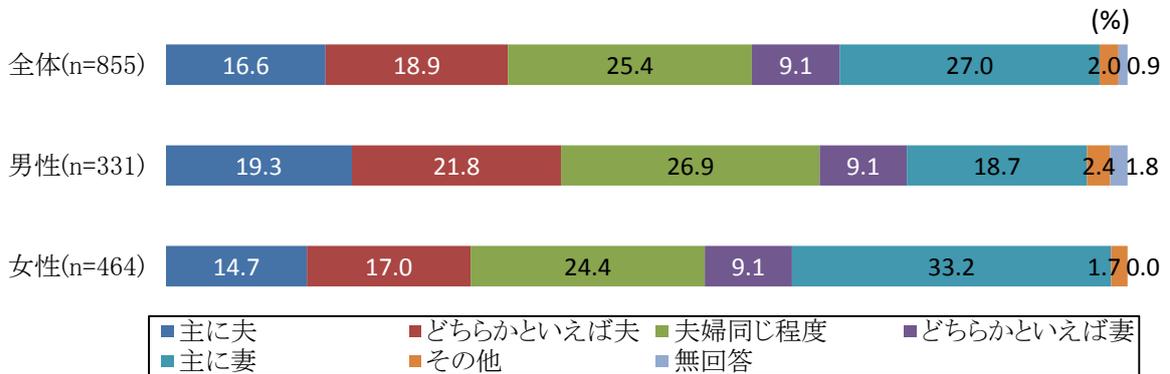
男女別でみると、『妻（計）』は女性の70.9%で男性の62.5%より8.4ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が28.4%で女性の25.6%より2.8ポイント高くなっている。



④ ゴミ出し

【性別】

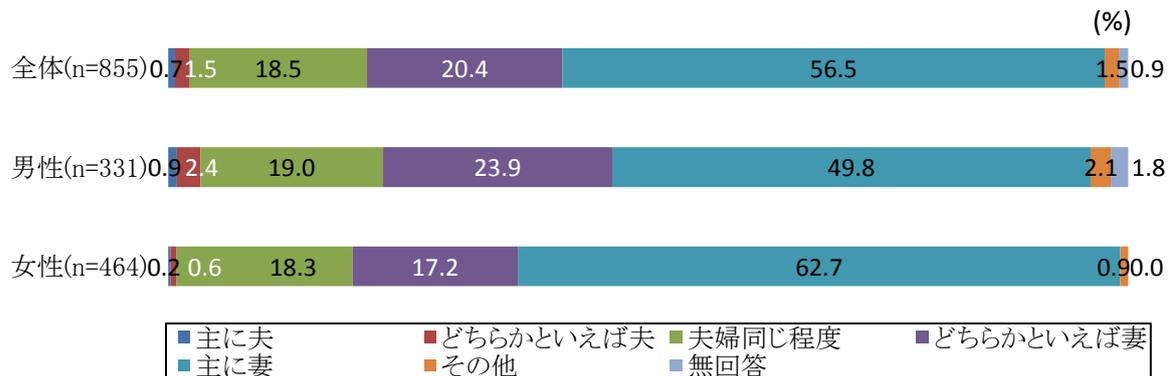
男女別でみると、『妻（計）』は女性の42.3%で男性の27.8%より14.5ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が26.9%で女性の24.4%より2.5ポイント高くなっている。



⑤ 洗濯

【性別】

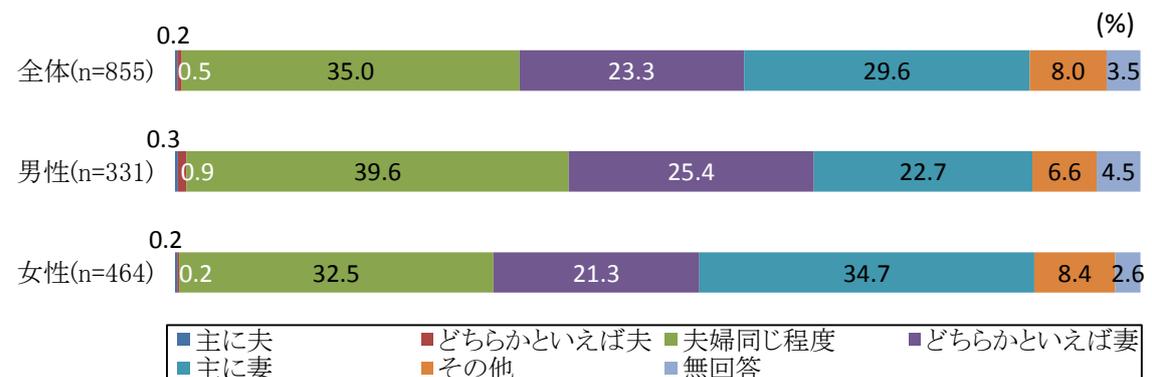
男女別でみると、『妻（計）』は女性の79.9%で男性の73.7%より6.2ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」はほぼ変わらない。



⑥ 子どもの世話

【性別】

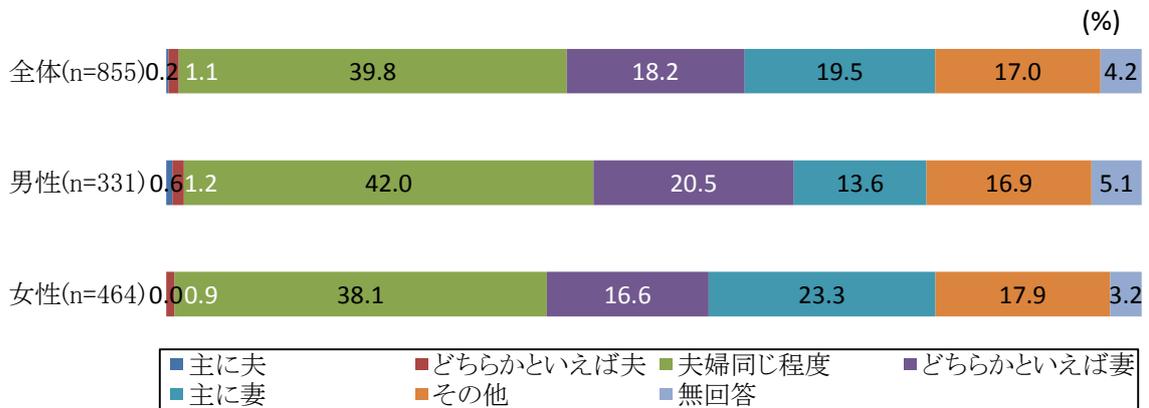
男女別でみると、『妻（計）』は女性の56.0%で男性の48.1%より7.9ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が39.6%で女性の32.5%より7.1ポイント高くなっている。



⑦ 親や身内の介護

【性別】

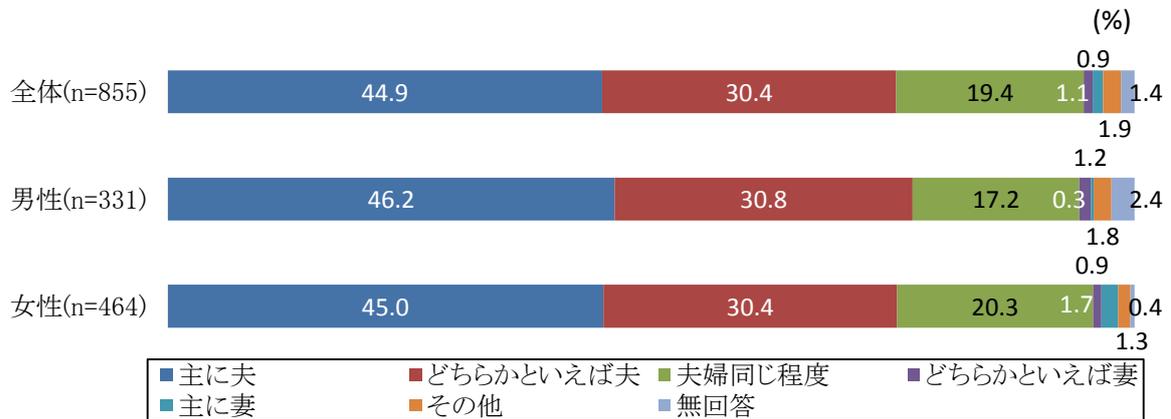
男女別でみると、「夫婦同じ程度」は男性の42.0%で女性の38.1%より3.9ポイント高くなっている。一方、『妻（計）』は女性が39.9%で男性の34.1%より5.8ポイント高くなっている。



⑧ 主な収入

【性別】

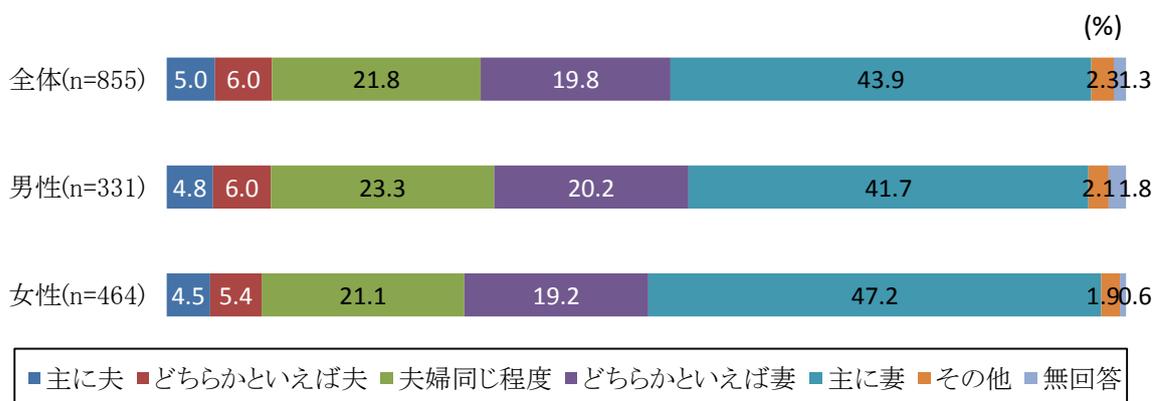
男女別でみると、大きな違いはみられない。



⑨ 家計の管理

【性別】

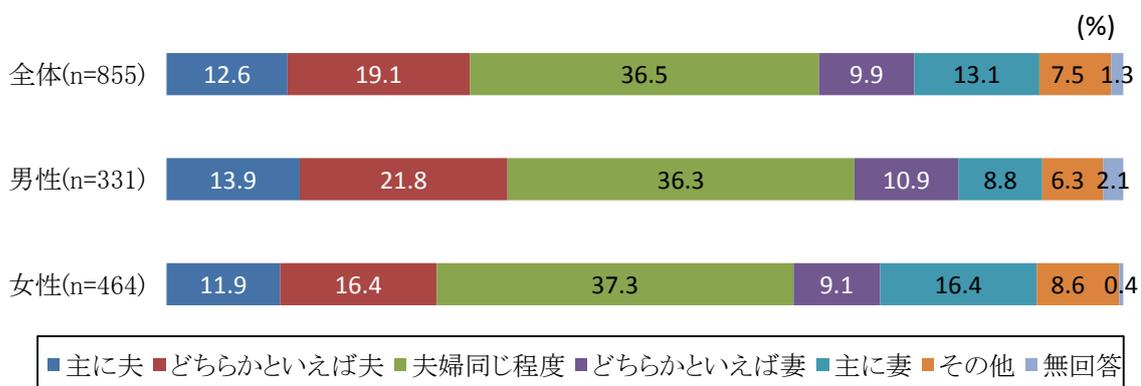
男女別でみると、『妻（計）』は女性の66.4%で男性の61.9%より4.5ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が23.3%で女性の21.1%より2.2ポイント高くなっている。



⑩ 町内行事などの参加

【性別】

男女別でみると、『夫（計）』は男性の35.7%で女性の28.3%より7.4ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は女性が37.3%で男性の36.3%より1.0ポイント高くなっている。



(3) 夫婦の役割分担の満足度

【問6】 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

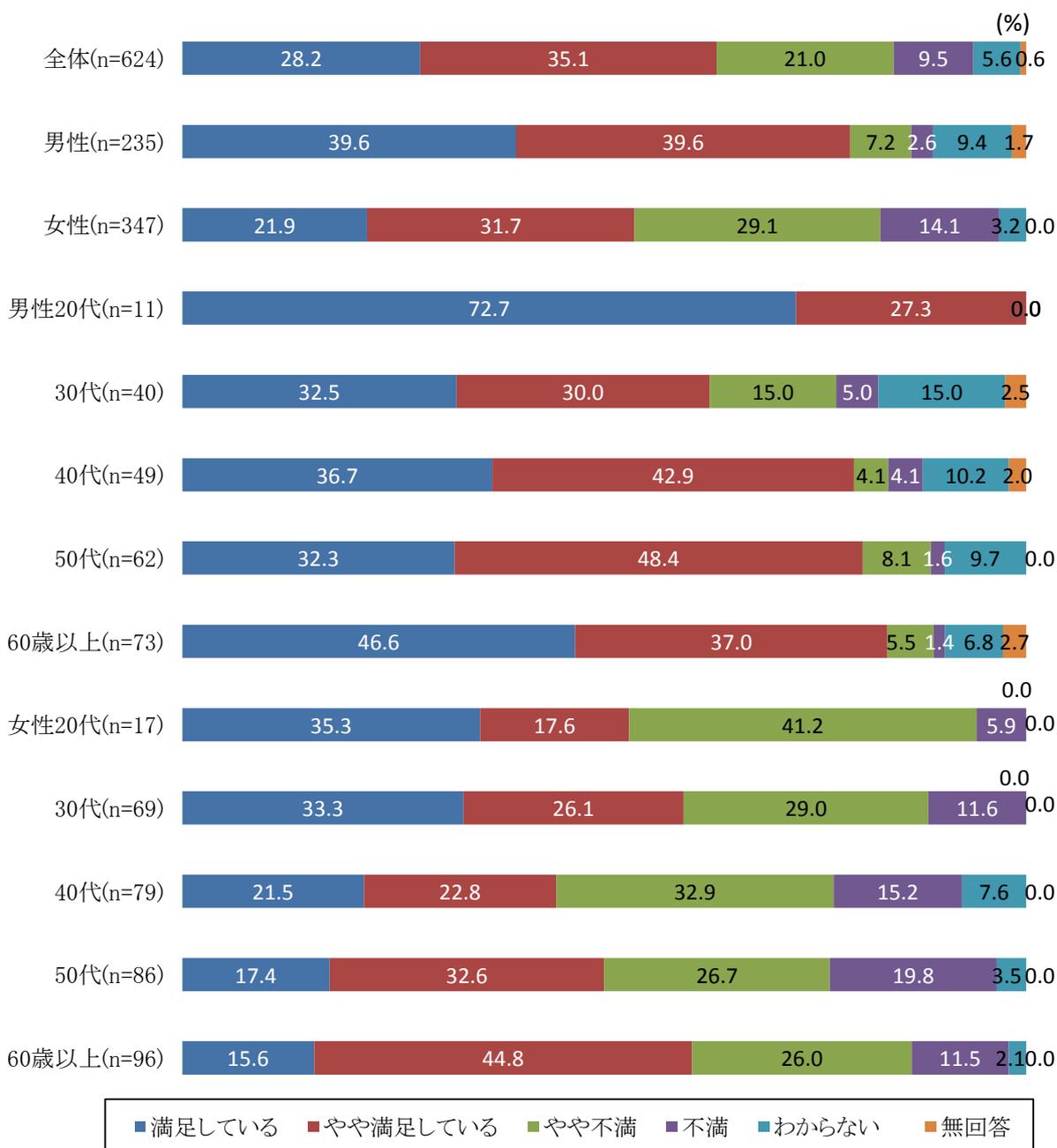
【全体】

夫婦の役割分担の現状については、「やや満足」が35.1%と最も高く、次いで、「満足」の28.2%、「やや不満」の21.0%、「不満」の9.5%の順になっている。

【性別・年代別】

男女別でみると、『満足（計）』は男性が79.2%で女性の53.6%より25.6ポイント高くなっている。一方、『不満（計）』は女性が43.2%で男性の9.8%より33.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『満足（計）』は男性では20代の100%が最も高く、20代を除く30代以上では年代が高くなるほど割合が高くなっている。一方、『不満（計）』は女性の40代が48.1%で最も高く、次いで20代が47.1%、50代が46.5%の順で高くなっている。



(4) 自分の子どもの育て方

【問7】 あなたは、自分の子どもの育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。

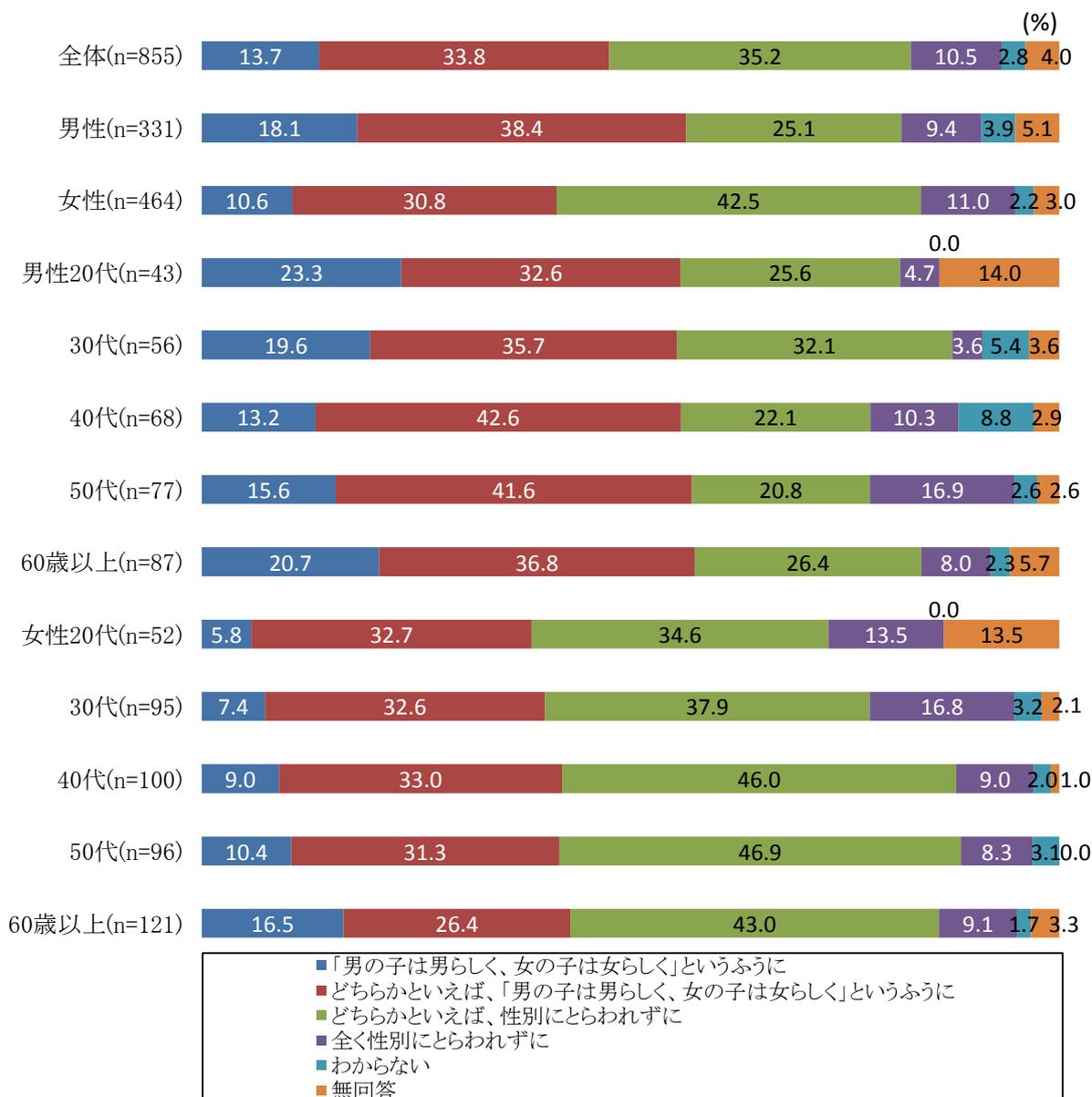
【全体】

自分の子どもの育て方については、「どちらかといえば性別にとらわれずに」が35.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえば『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに」の33.8%、「『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに」の13.7%、「全く性別にとらわれずに」の10.5%の順になっている。

【性別・年代別】

男女別でみると、『男らしく、女らしく（計）』は男性が56.5%で女性の41.4%より15.1ポイント高くなっている。一方、「性別にとらわれずに（計）」は女性が53.5%で男性の34.5%より19.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『男らしく、女らしく（計）』は男性では全ての世代で55%を超えている。一方、『性別にとらわれずに（計）』は女性の50代が55.2%で最も高く、次いで40代が55.0%で高くなっている。



(5) 父親の育児参加に対する考え

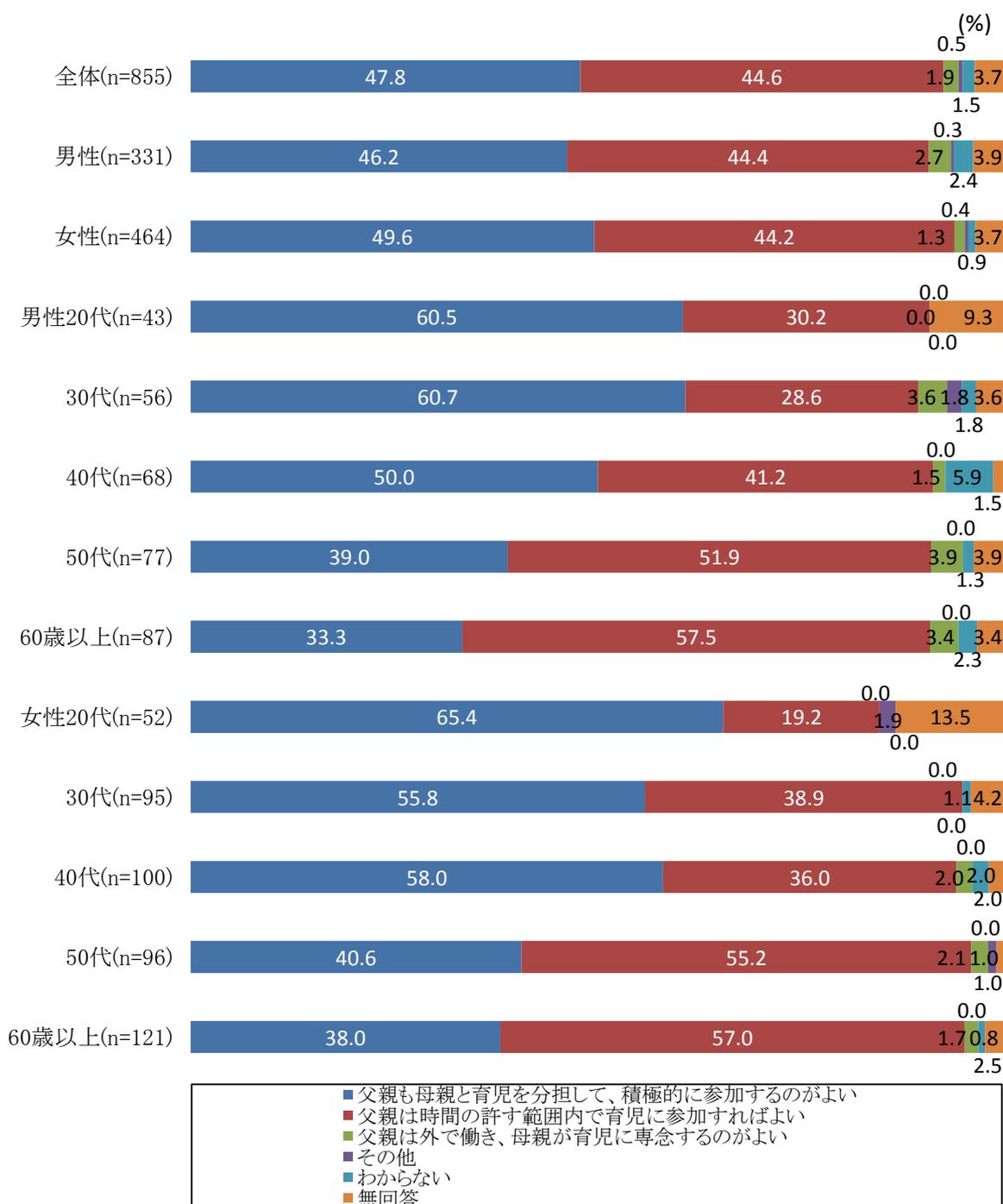
【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

【全体】

父親の育児参加については、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」が47.8%と最も高く、次いで、「父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい」の44.6%、「父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい」の1.9%などの順になっている。

【性別・年代別】

男女別でみると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」は男女ともおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性20代が65.4%、男性30代が60.7%、20代が60.5%となっている。一方、「父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい」は男女ともおおむね年代が高くなるほど割合が高くなっている。

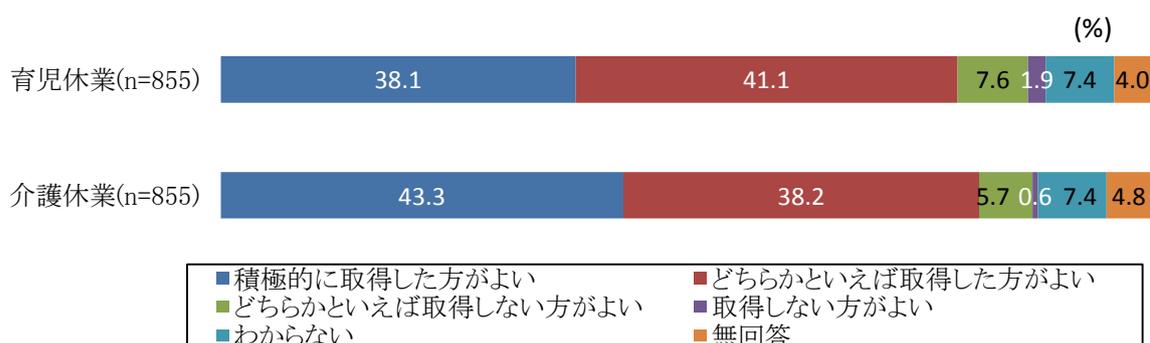


(6) 男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づく育児休業や介護休業の制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。

【全体】

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい (計)』は育児休業で79.2%、介護休業で81.5となっている。一方、「どちらかといえば取得しないほうがよい」と「取得しない方がよい」を合わせた『取得しない方がよい (計)』は育児休業で9.5%、介護休業で6.3%となっている。



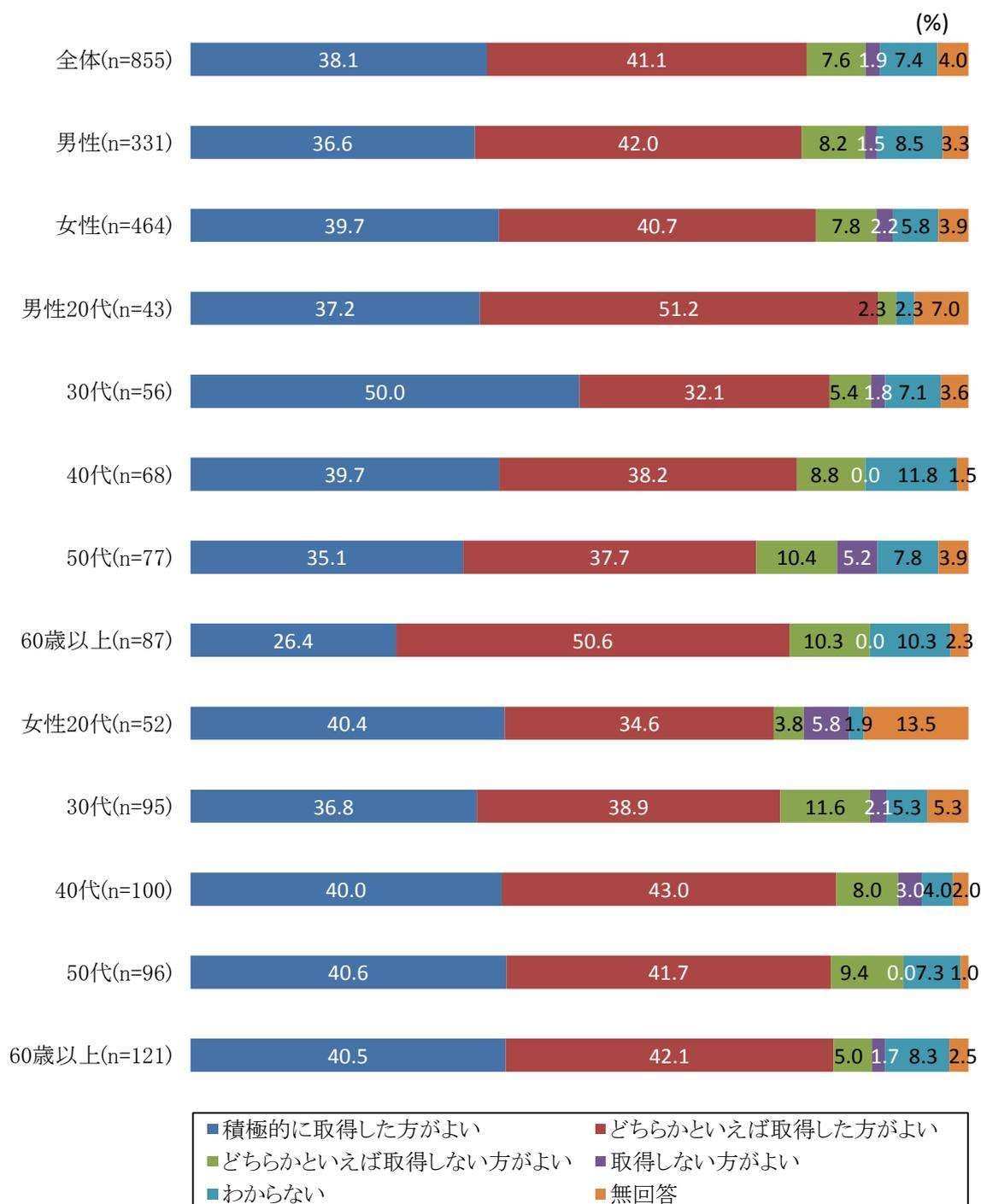
① 育児休業

【性別・年代別】

男女別でみると、大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、『取得した方がよい（計）』は男性でおおむね年代が低くなるほど割合が高くなり、20代が88.4%で最も高く、女性は40代が83.0%、60歳以上が82.6%、50代が82.3%の順で割合が高くなっている。

一方、『取得しない方がよい（計）』は男性の50代が15.6%、女性の30代が13.7%で高くなっている。



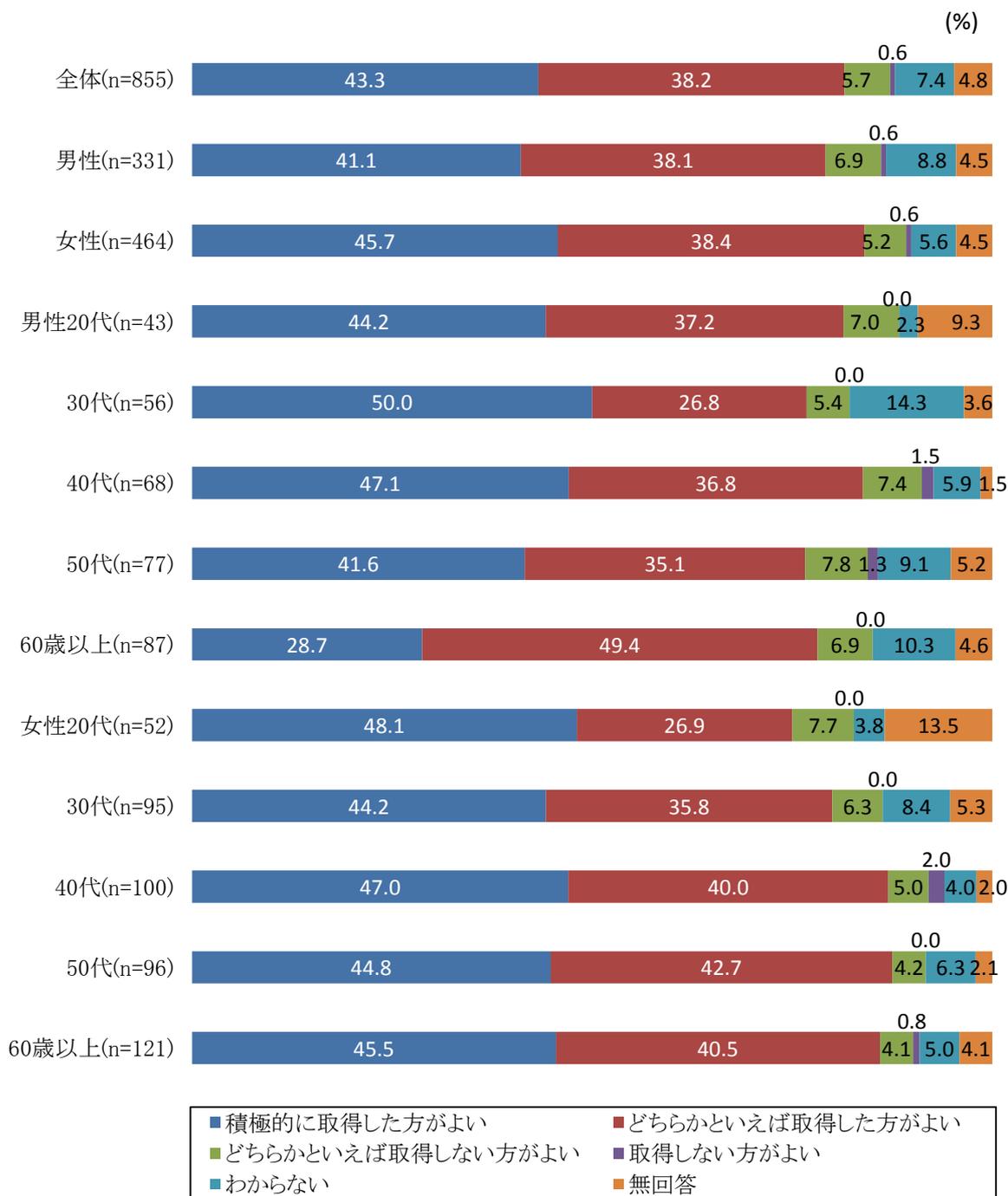
② 介護休業

【性別・年代別】

男女別でみると、大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、『取得した方がよい（計）』は女性の50代で87.4%、40代で87.0%、60歳以上で86.0%、男性の40代で83.9%と高くなっている。

一方、『取得しない方がよい（計）』は男性の50代が9.1%、40代が8.9%で高くなっている。



4. 女性と仕事について

(1) 女性が仕事を持つことについての考え

【問10】 女性が仕事を持つことについてどうお考えですか。

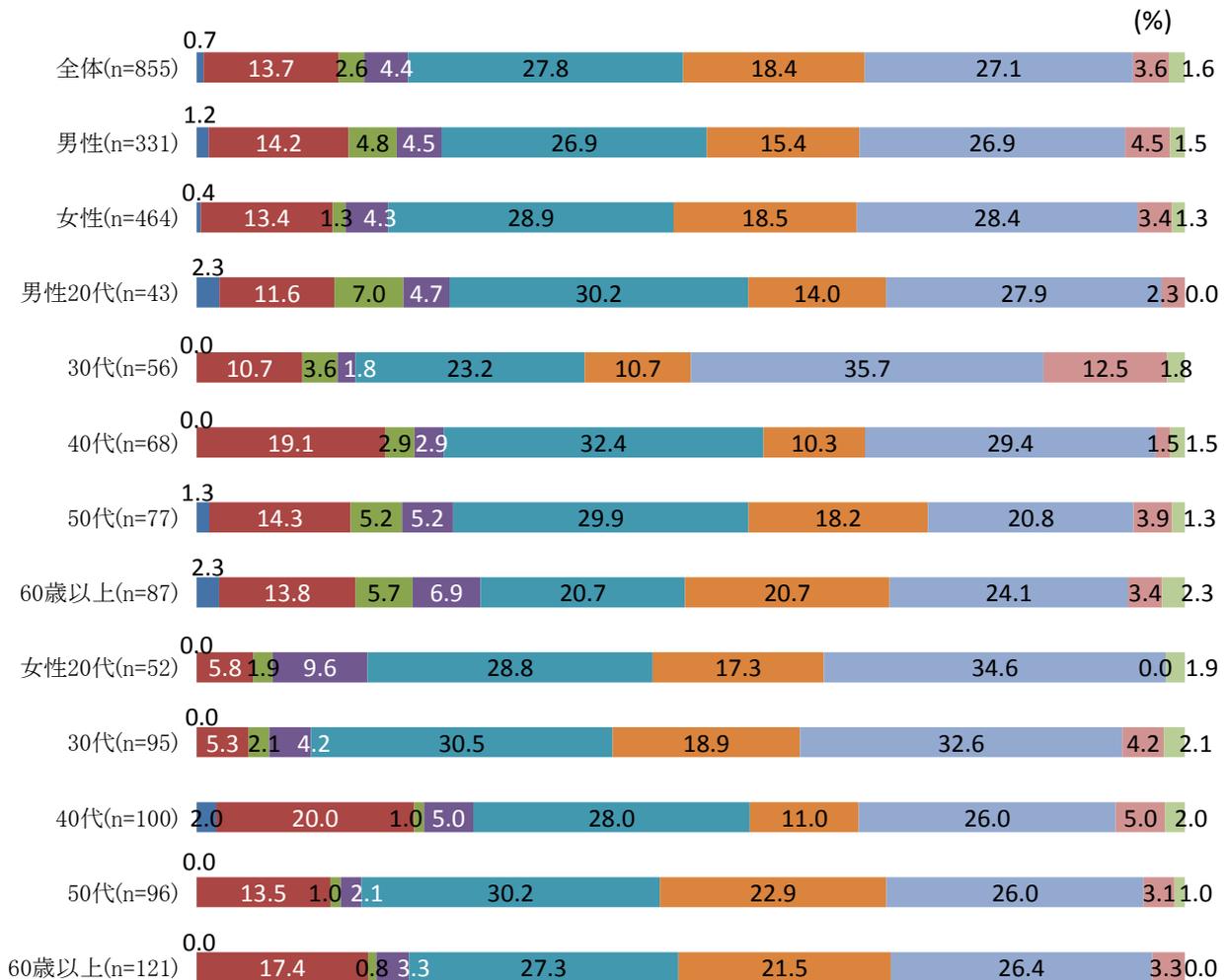
【全体】

女性が仕事を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が27.8%で最も高く、次いで、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が27.1%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の18.4%などの順となっている。

【性・年代別】

男女別でみると、大きな違いはみられないが、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」は男性が4.8%で女性の1.3%より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」は男性の30代が32.6%、女性の20代が34.6%で高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は男性の40代が32.4%、女性の30代が30.5%、男性の20代と女性の50代が30.2%で高くなっている。



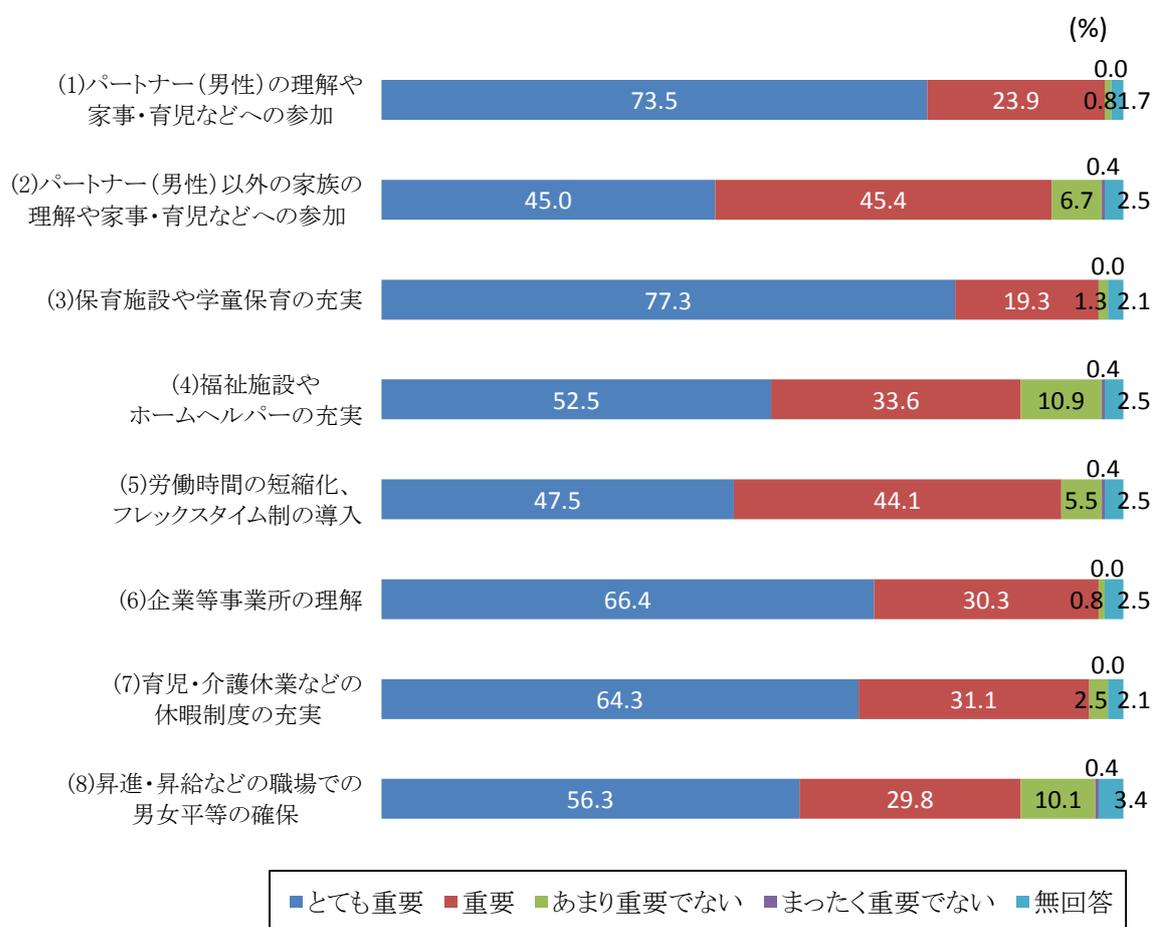
- 女性に職業をもたない方がよい
- 女性に職業をもつことにこだわらなくてよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答

(1 - 1) 女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

【問10 - 1】 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

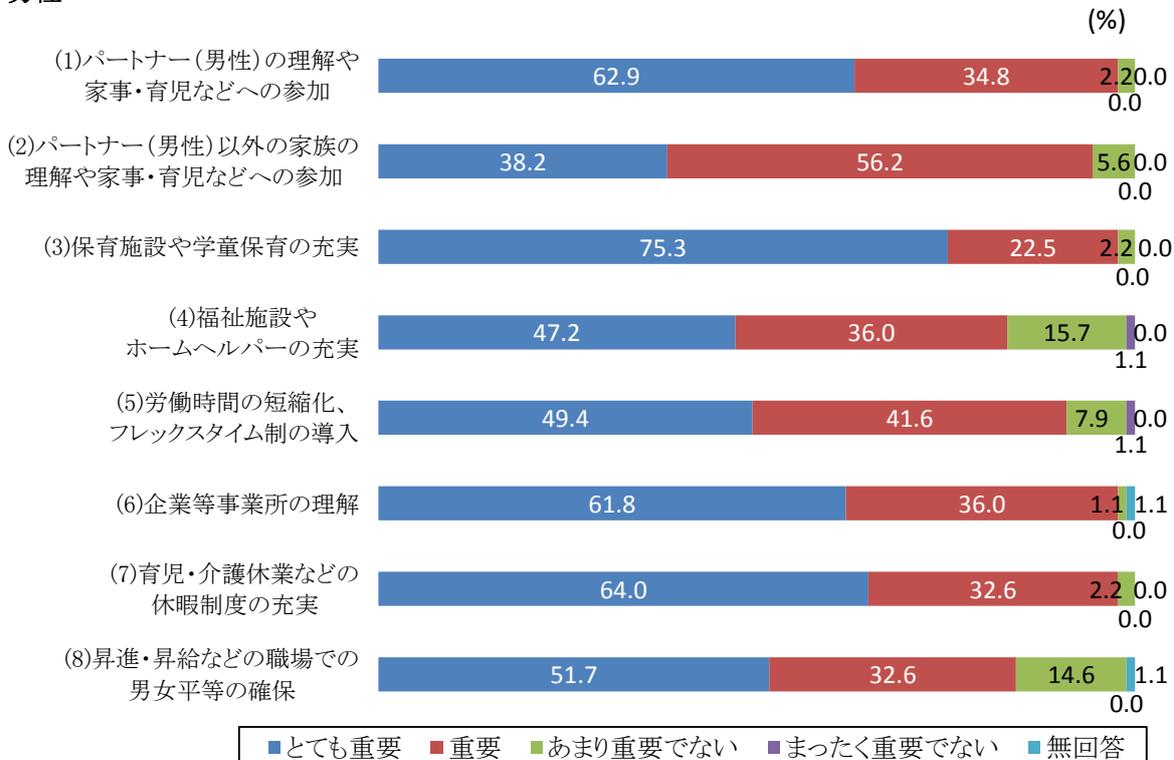
女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した238人に働き続けるために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は『保育施設や学童保育の充実』で77.3%と最も高く、次いで、『パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加』で73.5%、『企業等事業所の理解』の66.4%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要（計）』は『パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加』で97.4%と最も高く、次いで、『企業等事業所の理解』で96.7%、『保育施設や学童保育の充実』の96.6%などの順となっている。



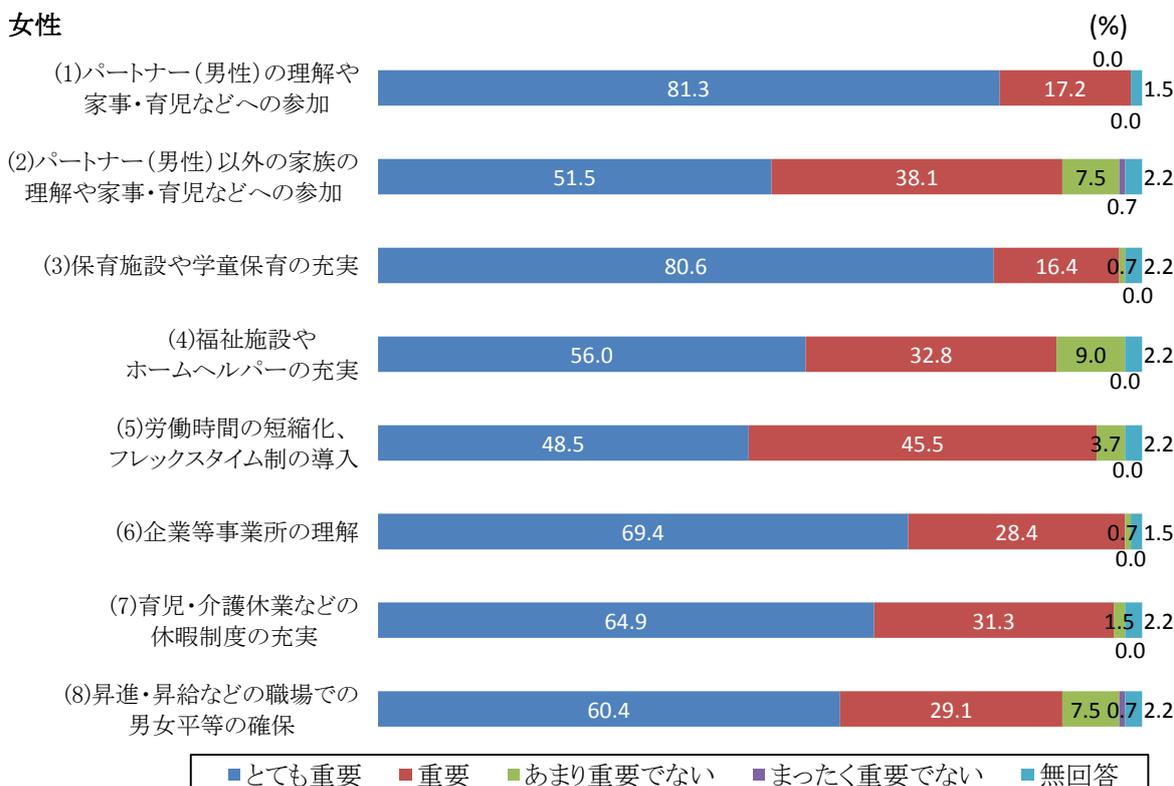
【性別】

男女別でみると、『重要（計）』は「福祉施設やホームヘルパーの充実」では女性が88.8%で男性の83.2%より5.6ポイント、「昇進・昇給などの職場での男女平等の確保」では女性が89.5%で男性の84.3%より5.2ポイント、「パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」では男性が94.4%で女性の89.6%より4.8ポイント、それぞれ高くなっている。

男性



女性

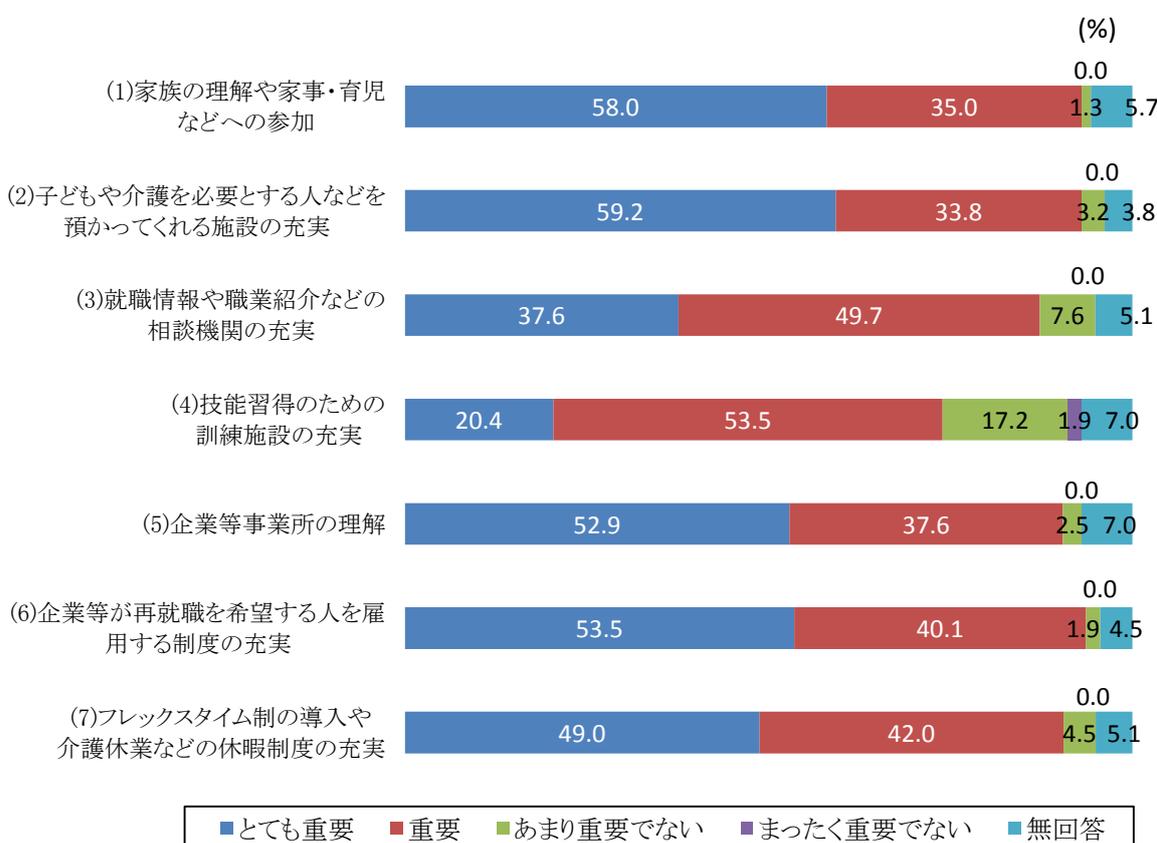


(1 - 2) 結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと

【問10 - 2】 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

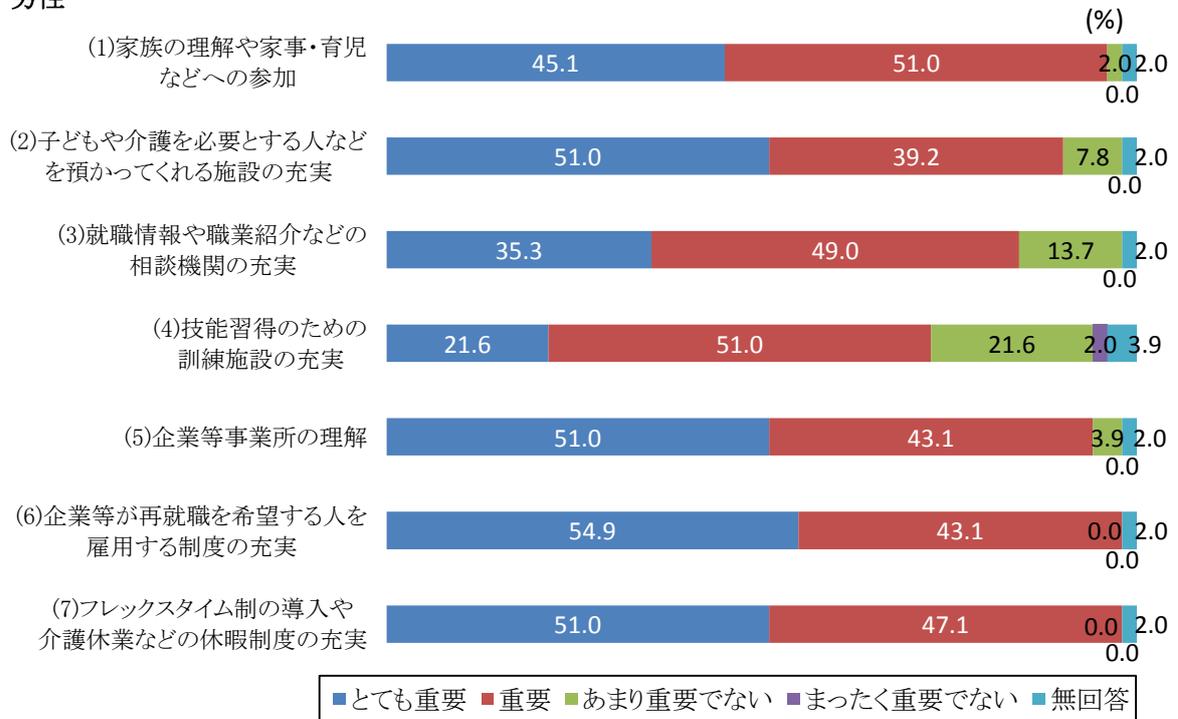
女性が仕事を持つことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した157人に再就職するために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は『子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実』で59.2%と最も高く、次いで、『家族の理解や家事・育児などへの参加』で58.0%、『企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実』の53.5%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要（計）』は『企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実』で93.6%と最も高く、次いで、『家族の理解や家事・育児などへの参加』と『子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実』の93.0%などの順となっている。一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせた『重要でない（計）』は「技能習得のための訓練施設の充実」で19.1%と最も高くなっている。



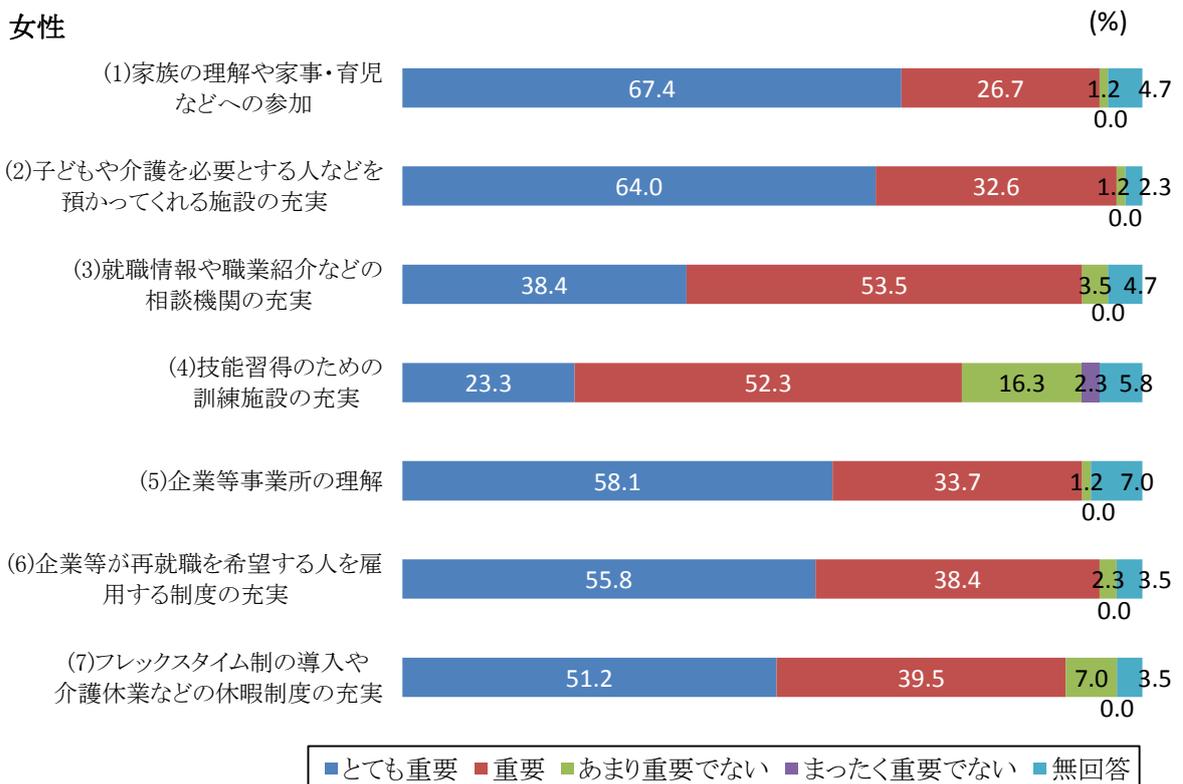
【性別】

男女別でみると、『重要（計）』は「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」では女性が91.9%で男性の84.3%より7.6ポイント、「フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」では男性が98.1%で女性の90.7%より7.4ポイント、「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」では女性が96.6%で男性の90.2%より6.4ポイント、それぞれ高くなっている。

男性



女性



5. 男女の地域・社会参画について

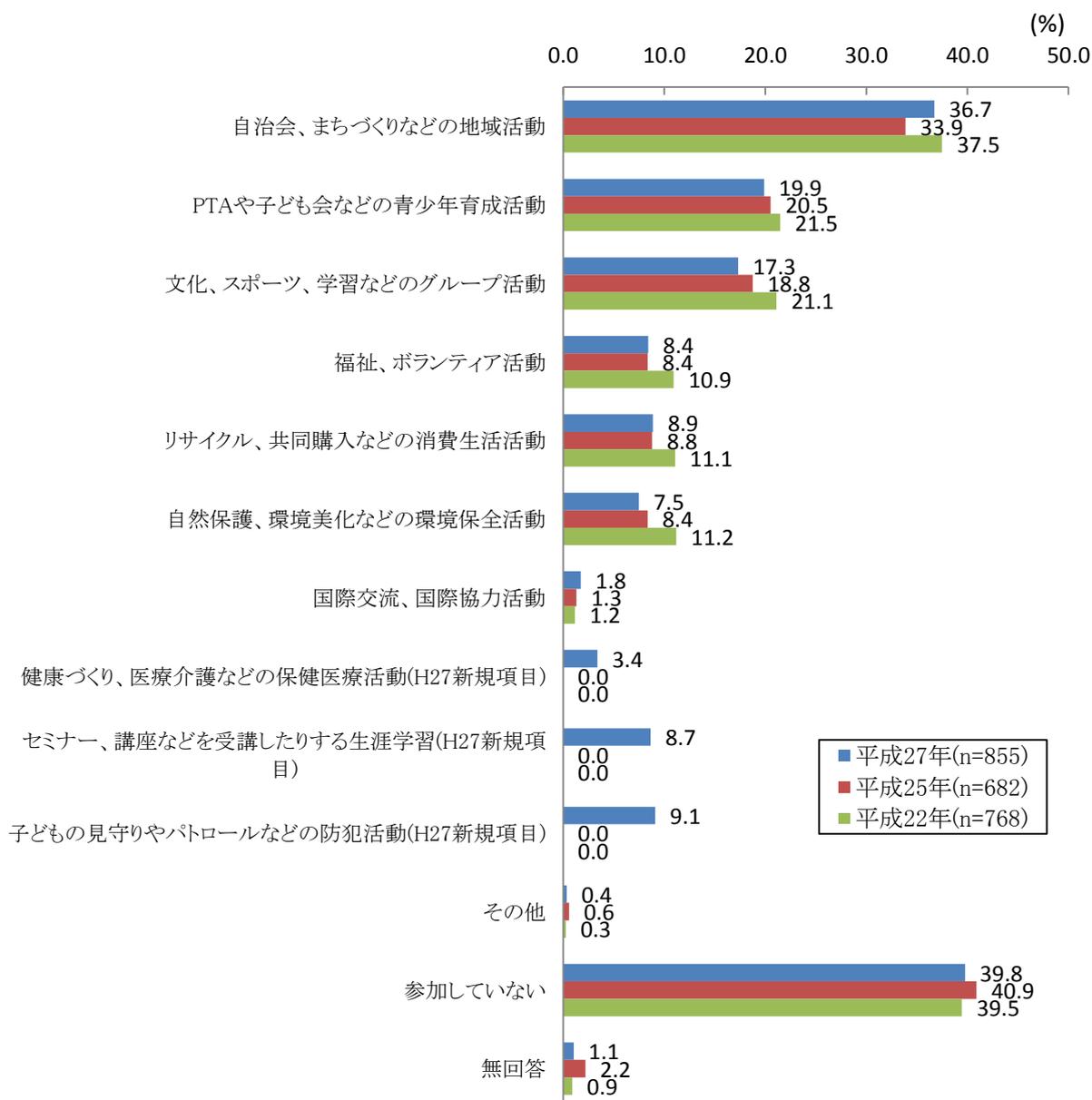
(1) 地域・社会活動への参加状況

【問11】 次にあげるような活動に参加していますか。

【全体】

地域活動の参加状況については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が36.7%で最も高く、次いで、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」が19.9%、「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」の17.3%などの順となっている。一方、「参加していない」は39.8%となっている。

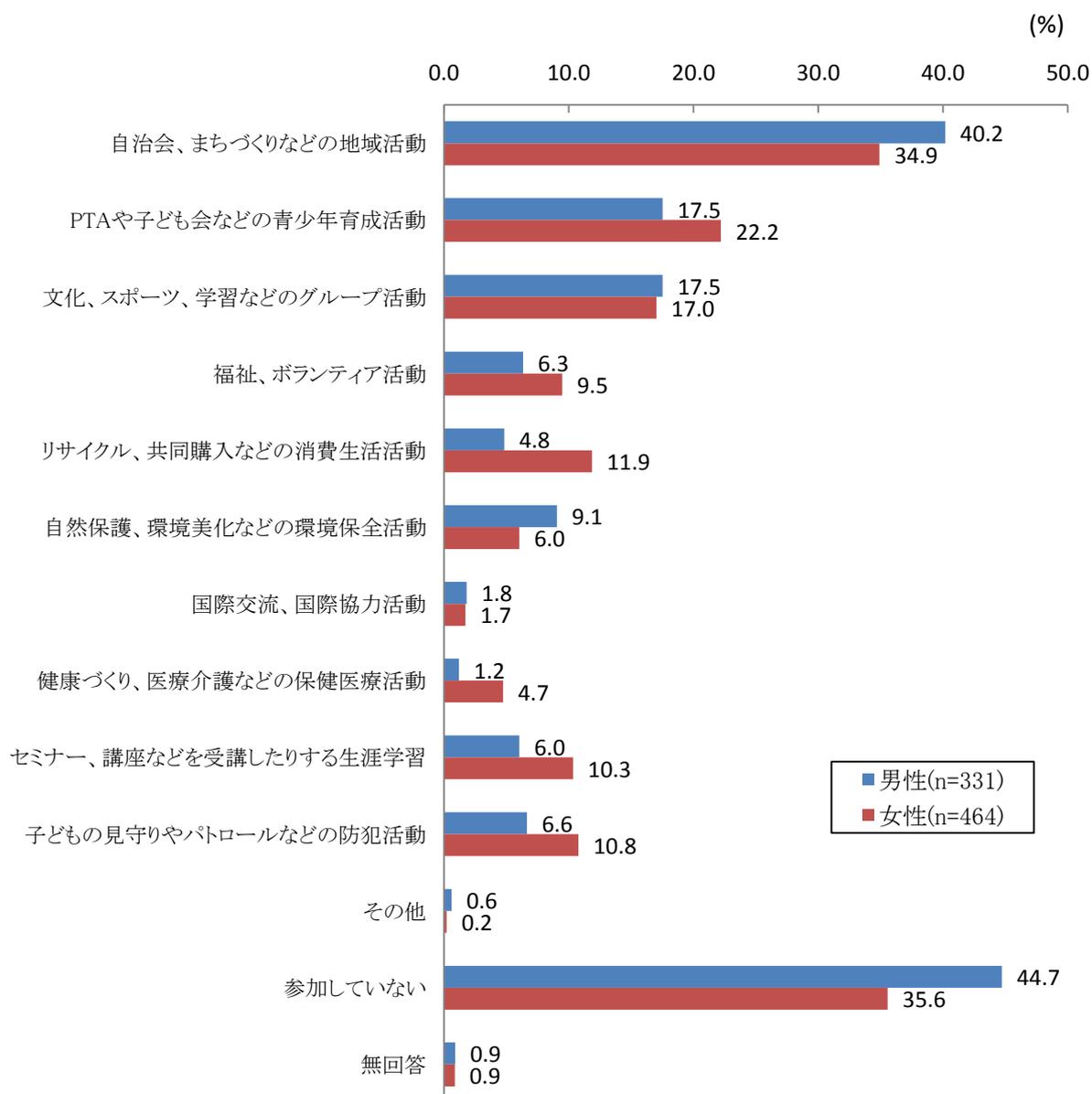
経年比較をみると、大きな変化はないものの「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」や「PTAや子ども会などの青少年育成活動」、「自然保護、環境美化などの環境保全活動」が減少傾向にある。



※ 「健康づくり、医療介護などの保健医療活動」「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習」「子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動」は平成27年度調査から追加された選択肢です。

【性別】

男女別でみると、「自治会、まちづくりなどの地域活動」は男性が40.2%で女性の34.9%より5.3ポイント、「自然保護、環境美化などの環境保全活動」は男性が9.1%で女性の6.0%より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「リサイクル、共同購入などの消費生活活動」は、女性が11.9%で男性の4.8%より7.1ポイント、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」は、女性が22.2%で男性の17.5%より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。



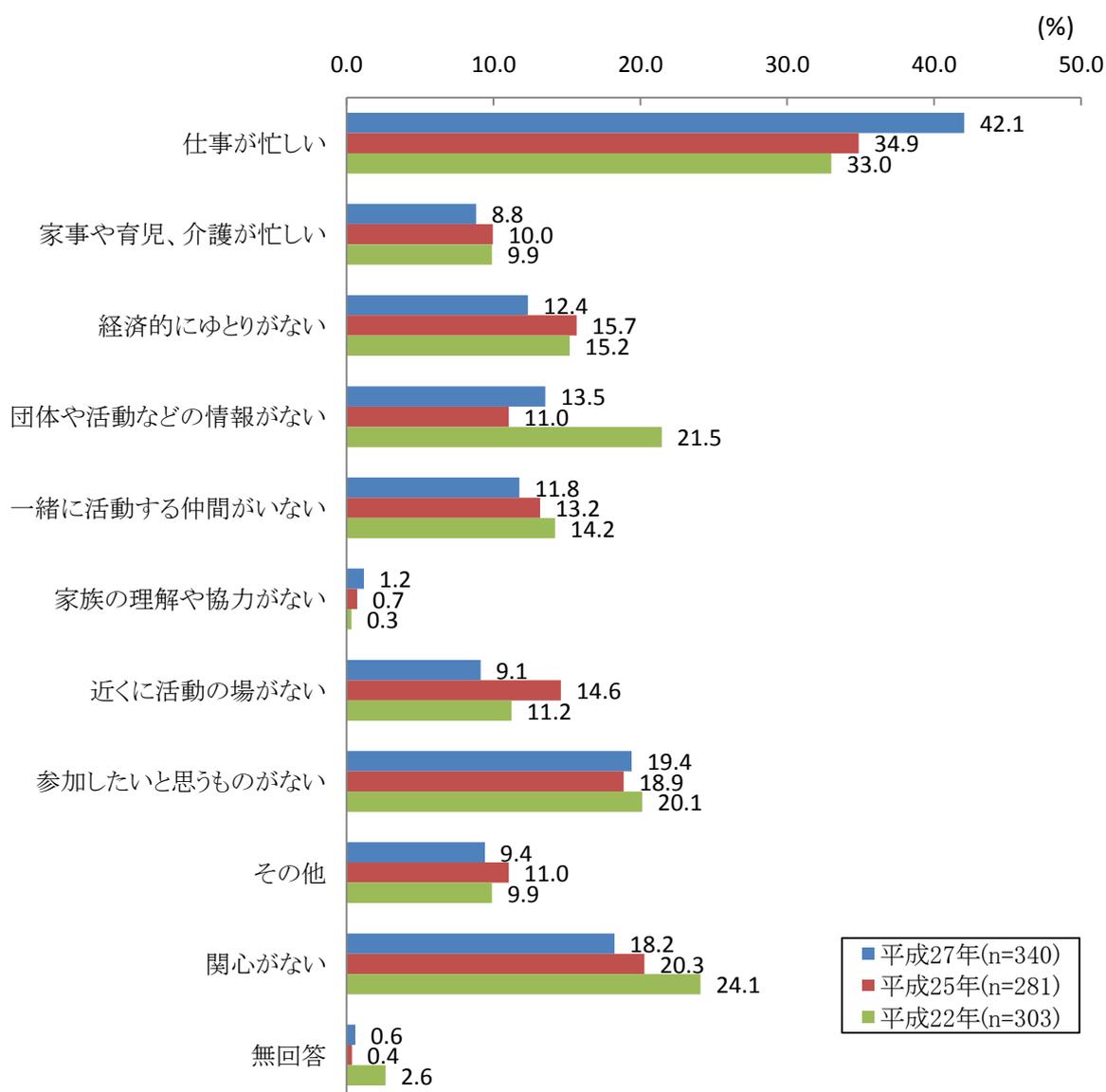
(1 - 1) 地域・社会活動に参加していない理由

【問12】 あなたが地域・社会活動に参加していないのはなぜですか。

【全体】

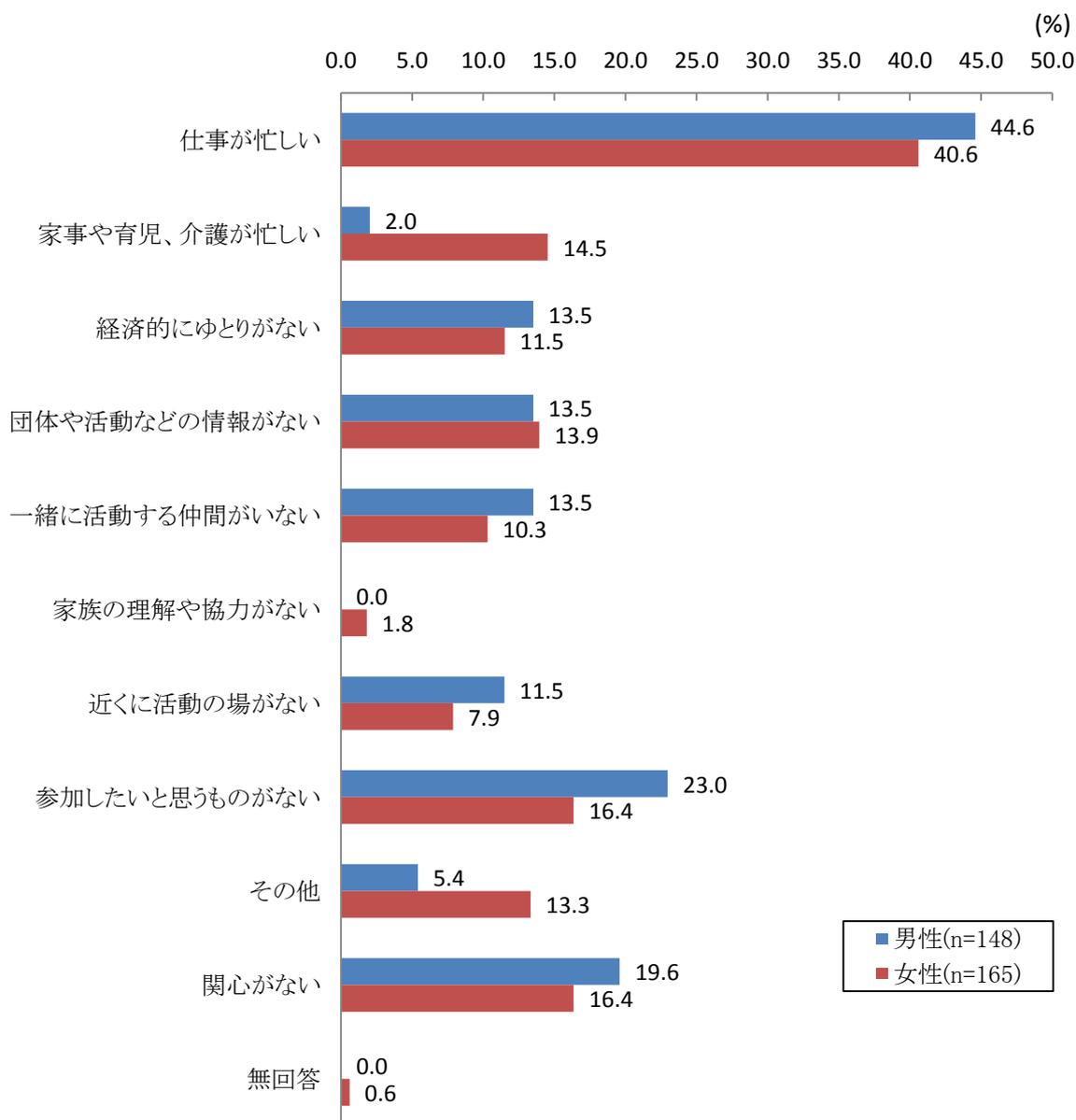
地域活動に「参加していない」と回答した340人に、参加していない理由を聞いたところ、「仕事が忙しい」が42.1%で最も高く、次いで、「参加したいと思うものがない」で19.4%、「関心がない」の18.2%、「団体や活動などの情報がない」の13.5%などの順となっている。

経年比較をみると、「仕事が忙しい」は平成22年調査以降増加傾向にあり、前回調査より7.2ポイント増加している。一方、「関心がない」、「一緒に活動する仲間がいない」、「経済的にゆとりがない」は減少傾向にあり、「近くに活動の場がない」については、前回調査より5.5ポイント減少している。



【性別】

男女別でみると、「参加したいと思うものがない」は男性が23.0%で女性の16.4%より6.6ポイント、「仕事が忙しい」は男性が44.6%で女性の40.6%より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「家事や育児、介護が忙しい」は、女性が14.5%で男性の2.0%より12.5ポイント高くなっている。



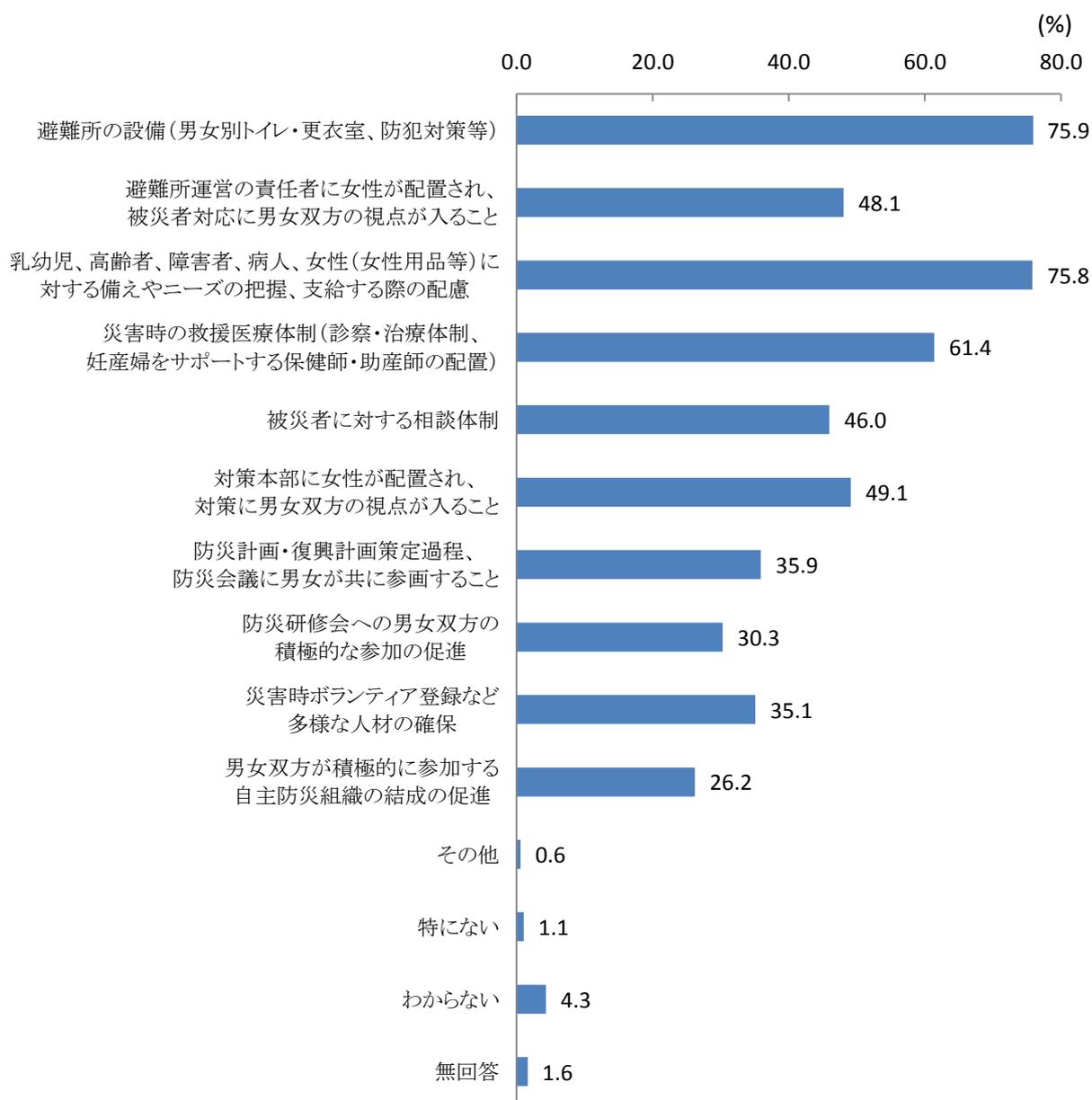
6. 男女共同参画の視点からの防災について

(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応

【問13】 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。

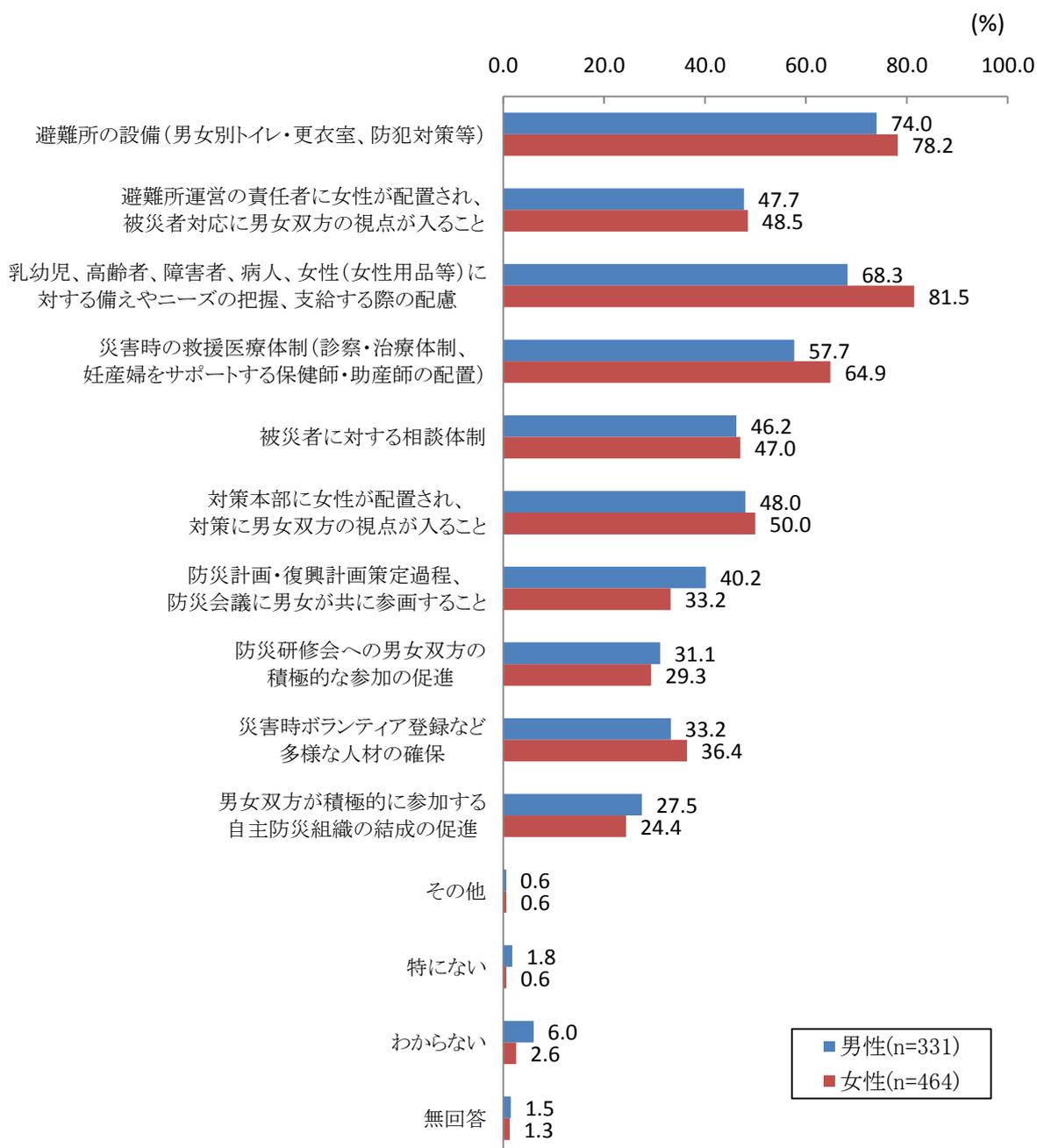
【全体】

防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要かについては、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」が75.9%で最も高く、次いで、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が75.8%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の61.4%などの順となっている。



【性別】

男女別でみると、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参画すること」は男性が40.2%で女性の33.2%より7.0ポイント高くなっている。一方、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は、女性が81.5%で男性の68.3%より13.2ポイント、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」は、女性が64.9%で男性の57.7%より7.2ポイント、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」は、女性が78.2%で男性の74.0%より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。



7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

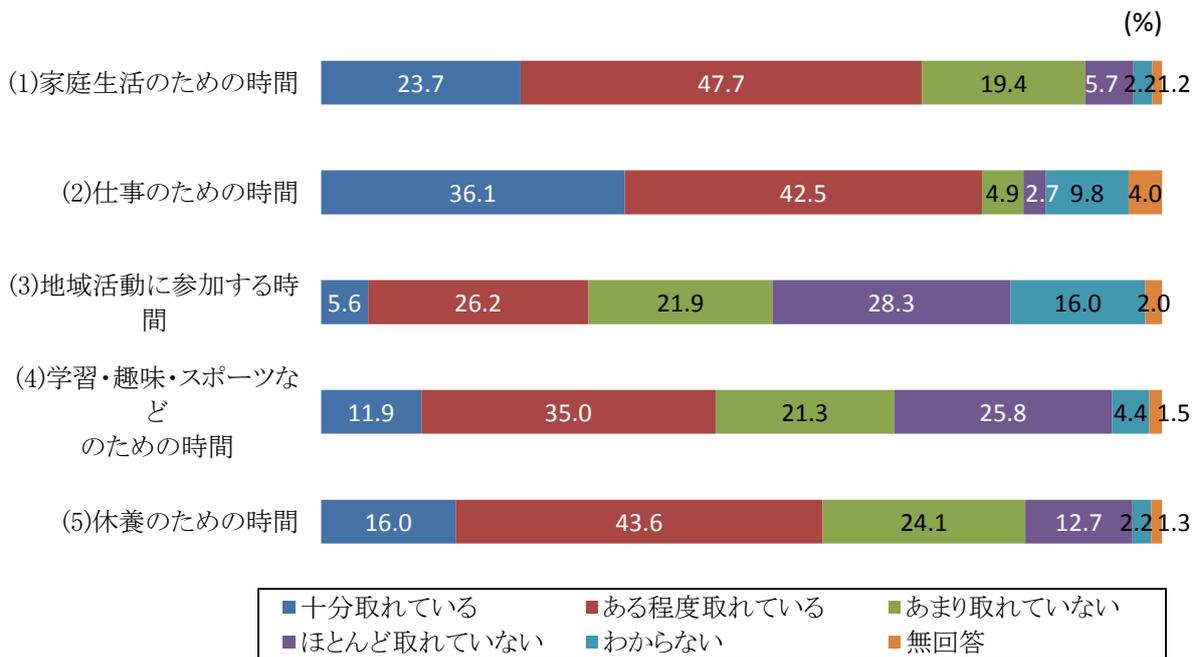
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度

【問14-1】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、満足する時間が取れていますか。

【全体】

日常生活の満足度について、「十分取れている」と「ある程度取れている」を合わせた『取れている(計)』は、「仕事のための時間」が78.6%と最も高く、次いで、「家庭生活のための時間」の71.4%、「休養のための時間」の59.6%などの順になっている。

一方、「あまり取れていない」と「ほとんど取れていない」を合わせた『取れていない(計)』は、「地域活動に参加する時間」が50.2%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の47.1%などの順になっている。

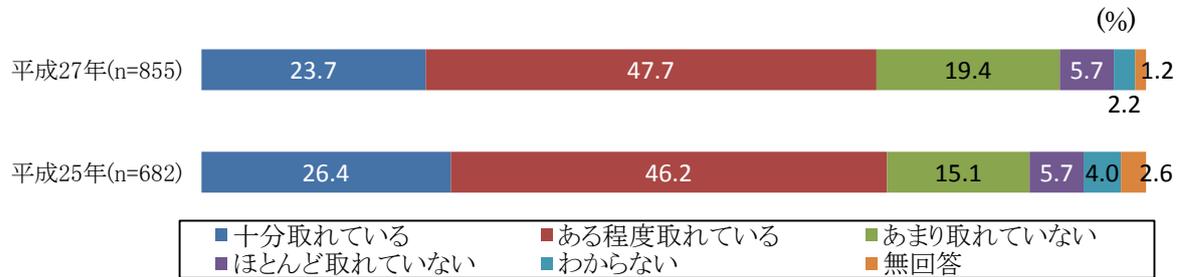


① 家庭生活のための時間

【全体】

家庭生活のための時間において「ある程度取れている」を含め「十分取れている」と感じている人の割合（以下『取れている（計）』という）は前回調査から1.2ポイント減少している。

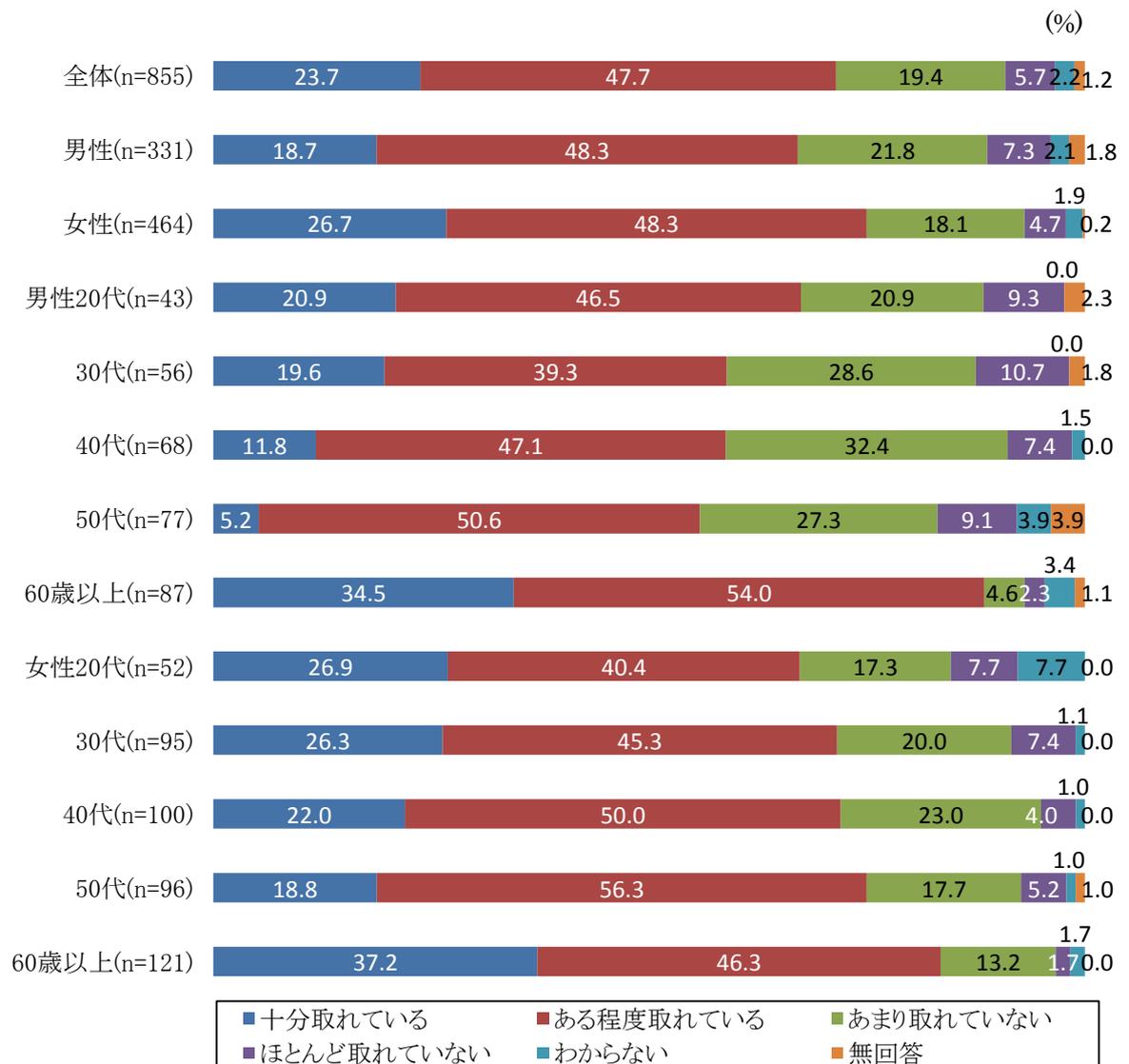
一方で、「ほとんど取れていない」を含め「あまり取れていない」と感じている人の割合（以下『取れていない（計）』という）は、前回調査から4.3ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、『取れている（計）』は男性が67.0%で女性の75.0%より8.0ポイント少なくなっている。

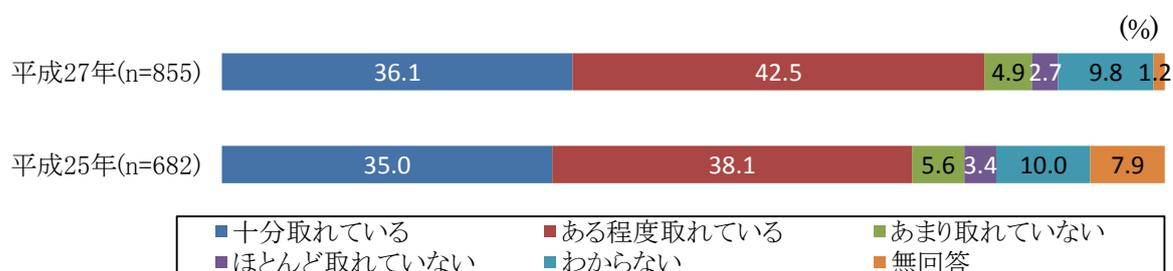
性・年代別でみると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上の年代が最も割合が高く、一方で、『取れていない（計）』は男性の40代が39.8%、女性では30代が27.4%などで高くなっている。



② 仕事のための時間

【全体】

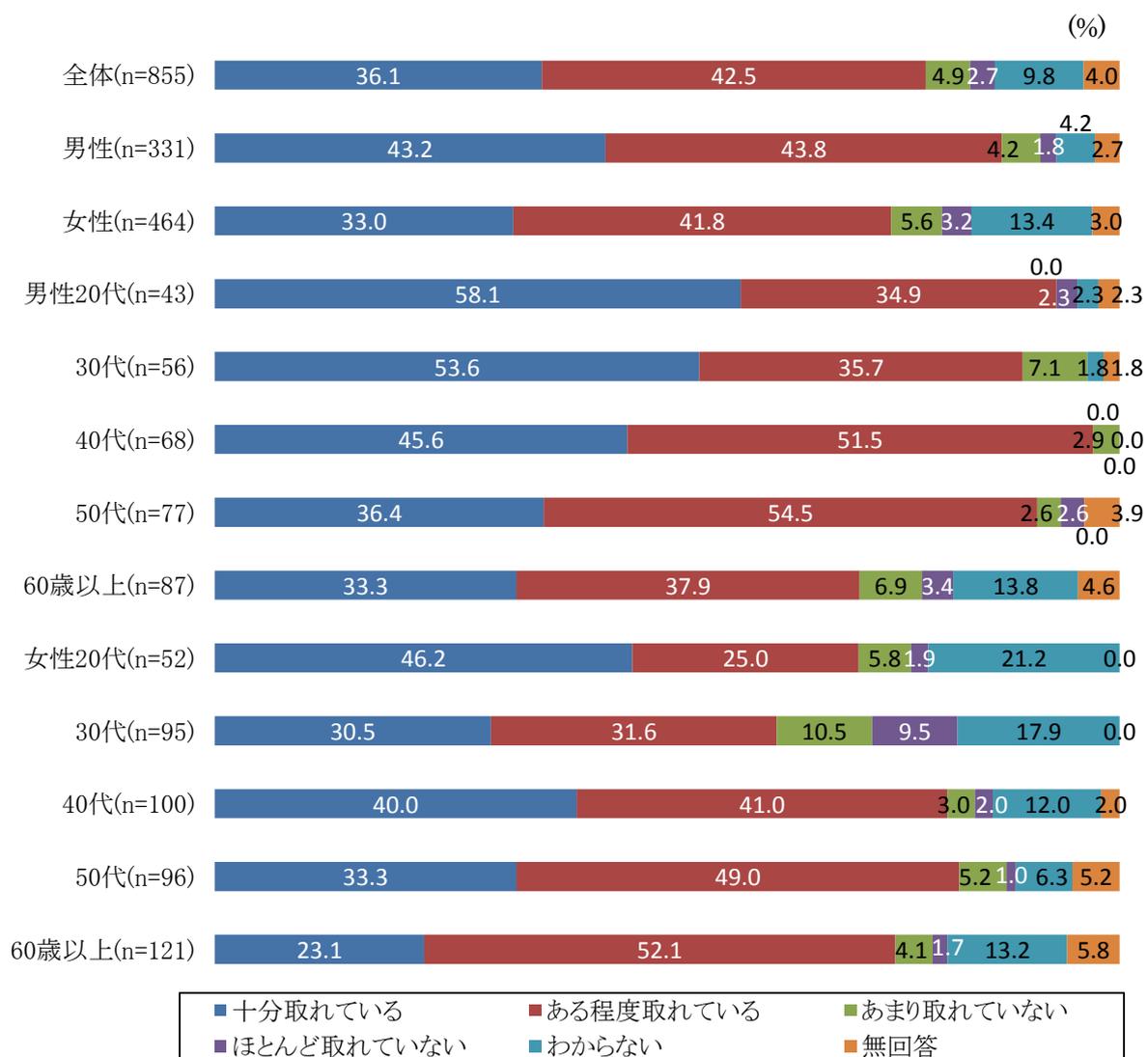
仕事のための時間において『取れている（計）』と回答した人の割合は前回調査から5.5ポイント増加している。一方で、『取れていない（計）』は、前回調査から1.4ポイント減少している。



【性・年代別】

男女別でみると、『取れている（計）』は男性が87.0%で女性の74.8%より12.2ポイント高くなっている。

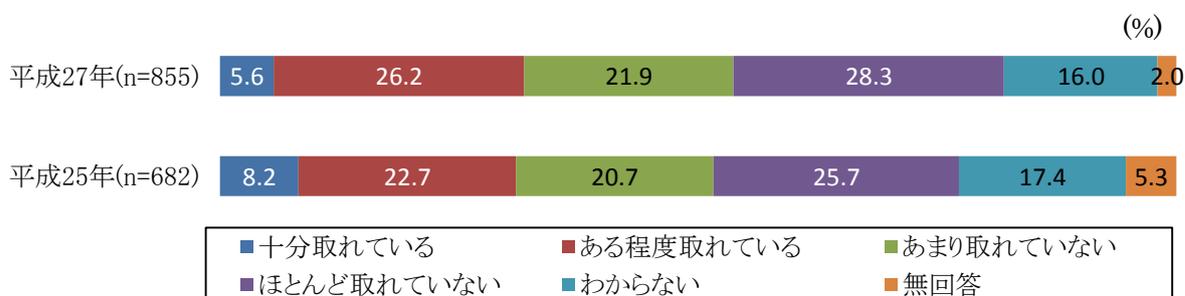
性・年代別でみると、『取れている（計）』は男性では40代が97.1%で最も割合が高く、女性では50代が82.3%で最も高くなっている。



③ 地域活動に参加する時間

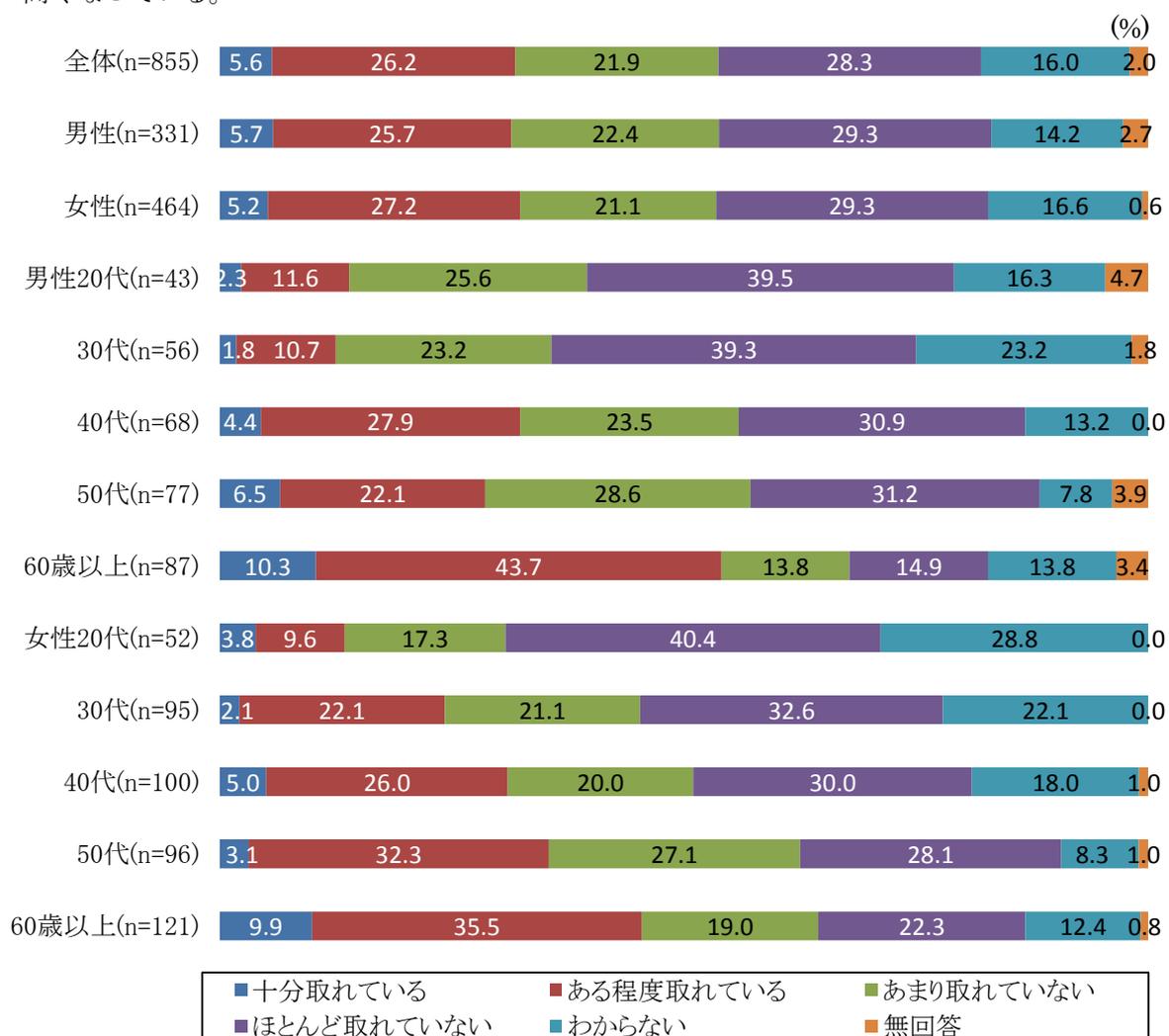
【全体】

地域活動に参加する時間において『取れている（計）』と回答した人の割合は前回調査から大きな変化は見られない一方で、『取れていない（計）』は、前回調査から3.8ポイント増加している。



【性・年代別】

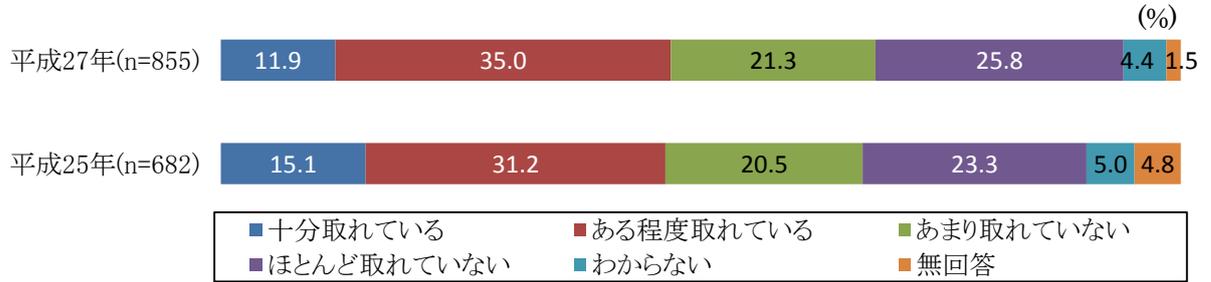
男女別でみると、『取れている（計）』は男性が31.4%、女性が32.4%と大きな差はない。
 性・年代別でみると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上の年代が最も割合が高く、一方で、『取れていない（計）』は、男性の20代が65.1%、女性の20代が57.7%などでそれぞれ高くなっている。



④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

【全体】

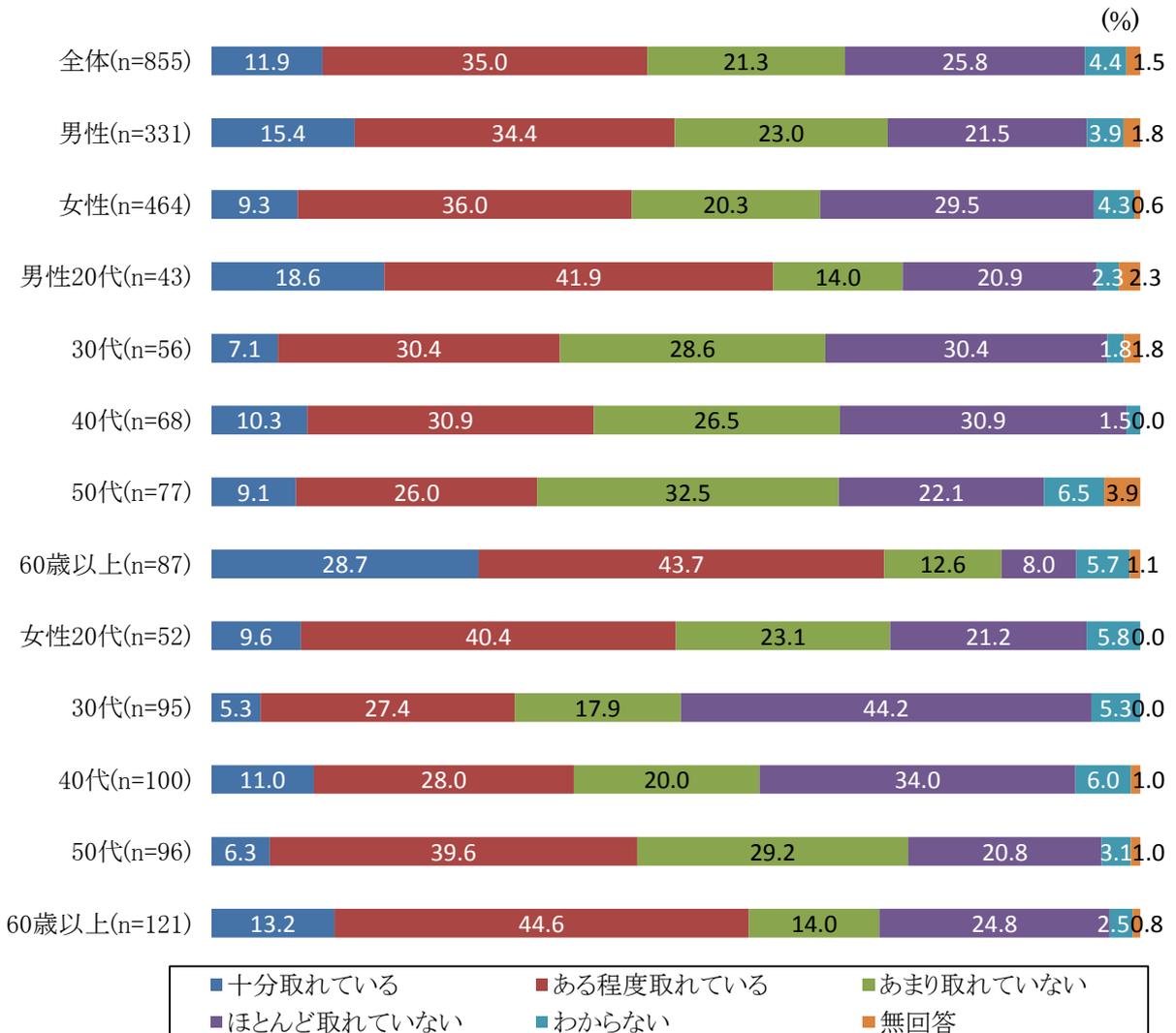
学習・趣味・スポーツなどのための時間において『取れている（計）』と回答した人の割合は前回調査から大きな変化は見られない一方で、『取れていない（計）』は、前回調査から3.3ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が49.8%で女性の45.3%より4.5ポイント高くなっている。

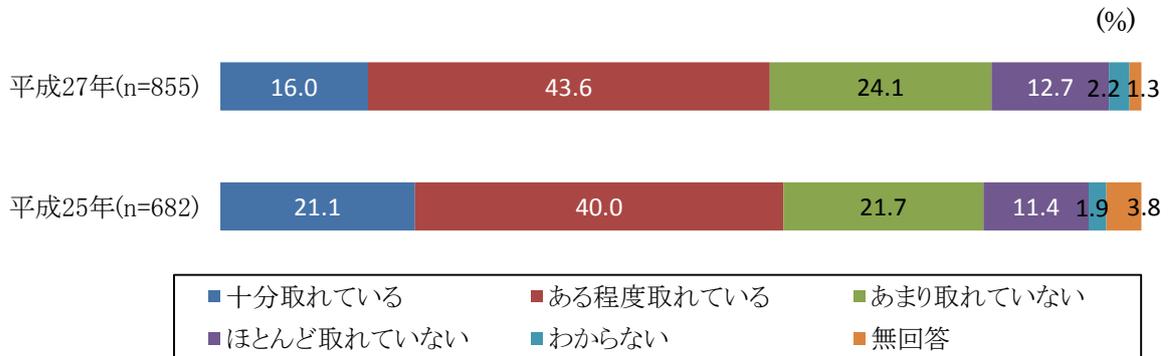
性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上の年代が最も割合が高く、一方で、『取れていない（計）』は、男性の30代が59.0%、女性の30代が62.1%などでそれぞれ高くなっている。



⑤ 休養のための時間

【全体】

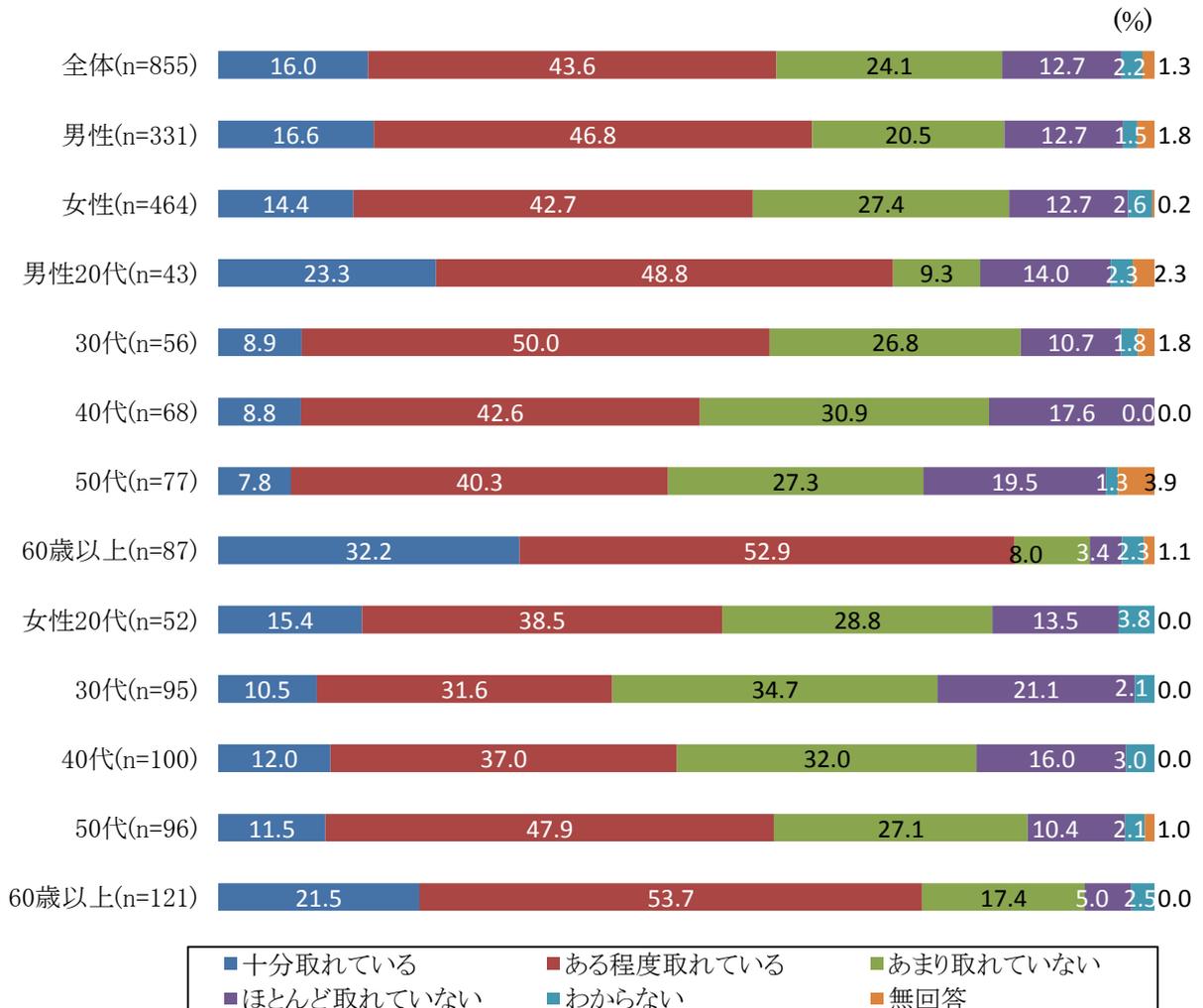
休養のための時間において『取れている（計）』と回答した人の割合は、前回調査から1.5ポイント減少している。一方で、『取れていない（計）』は、前回調査から3.7ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、『取れている（計）』は男性が63.4%で女性の57.1%より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上の年代が最も割合が高く、一方で、『取れていない（計）』は、男性の40代が48.5%、女性の30代が55.8%などでそれぞれ高くなっている。



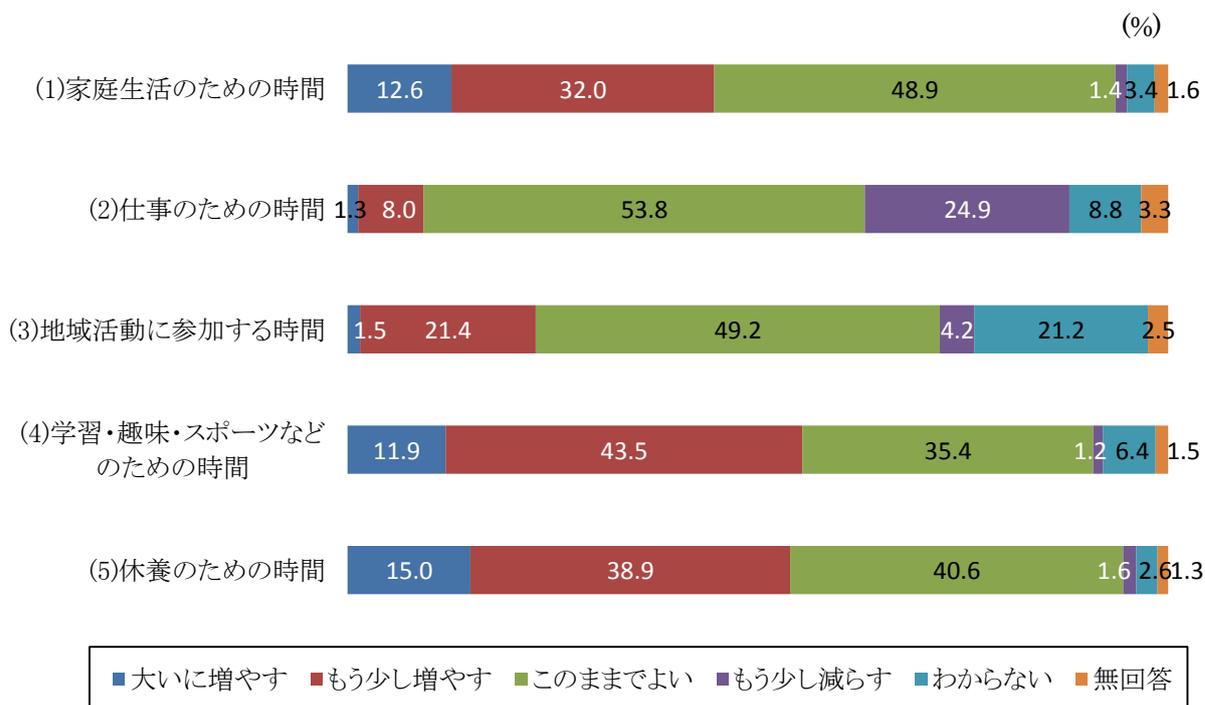
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想

【問14-2】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

【全体】

日常生活における理想の時間について、「大いに増やす」と「もう少し増やす」を合わせた『増やす(計)』は、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」が55.4%と最も高く、次いで、「休養のための時間」の53.9%、「家庭生活のための時間」の44.6%などの順になっている。

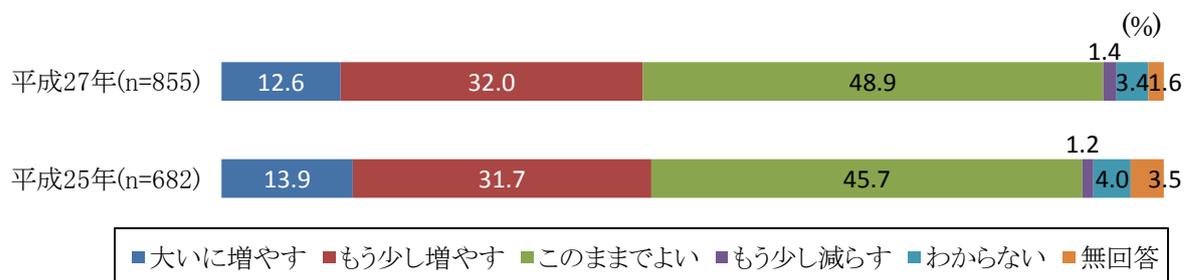
一方、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が24.9%で、全項目の中で最も高い。



① 家庭生活のための時間

【全体】

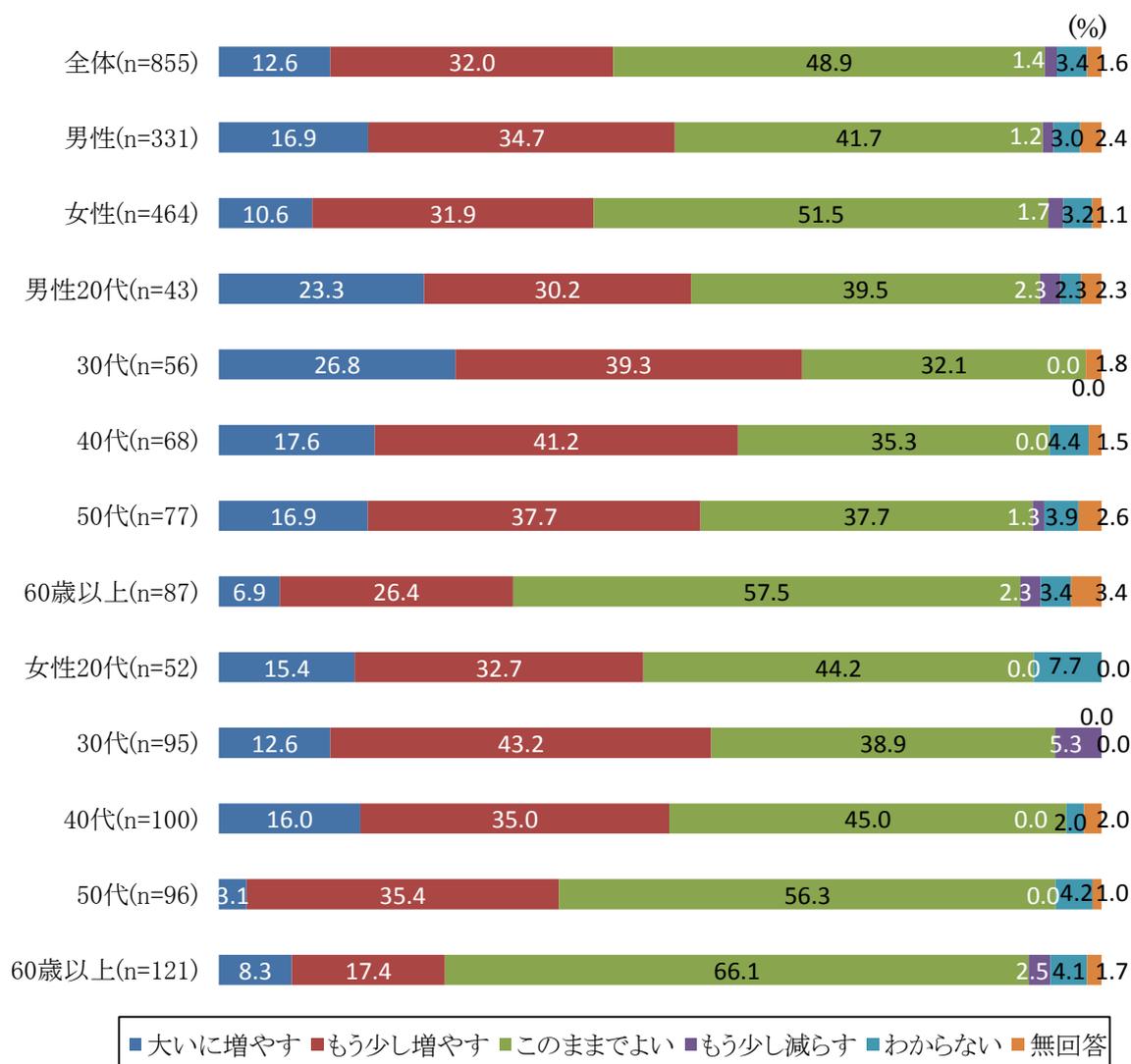
家庭生活のための時間において「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の割合は、前回調査から1.0ポイント減少しているが、大きな変化は見られない。



【性・年代別】

男女別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性が51.6%で女性の42.5%より9.1ポイント高くなっている。

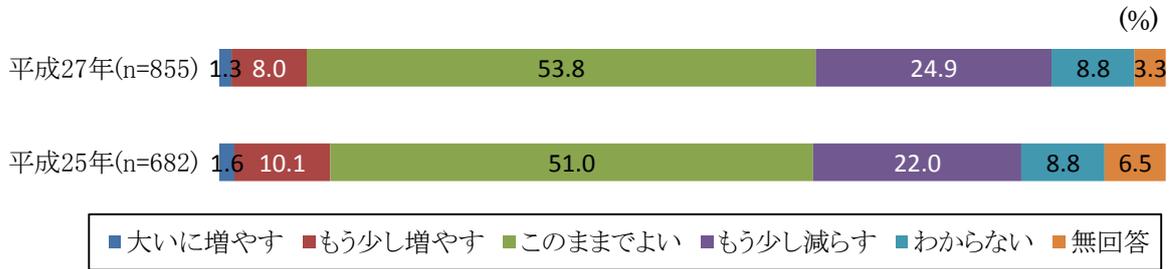
性・年代別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男女ともに30代が最も割合が高く、男性の30代が66.1%、女性の30代が55.8%となっている。



② 仕事のための時間

【全体】

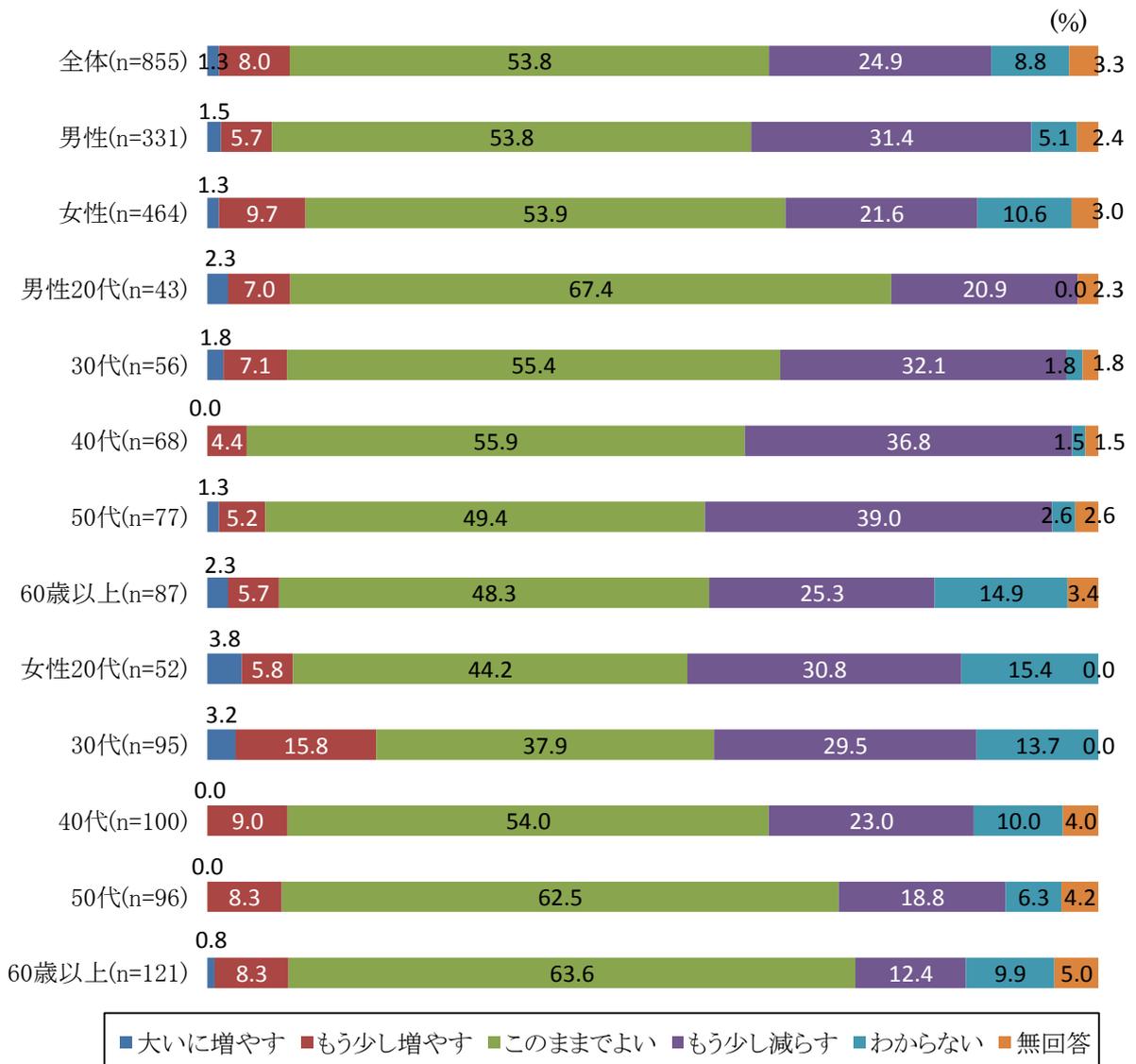
仕事のための時間において「もう少し減らす」と考える人の割合は、前回調査から2.9ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、男性が女性より9.8ポイント高くなっている。

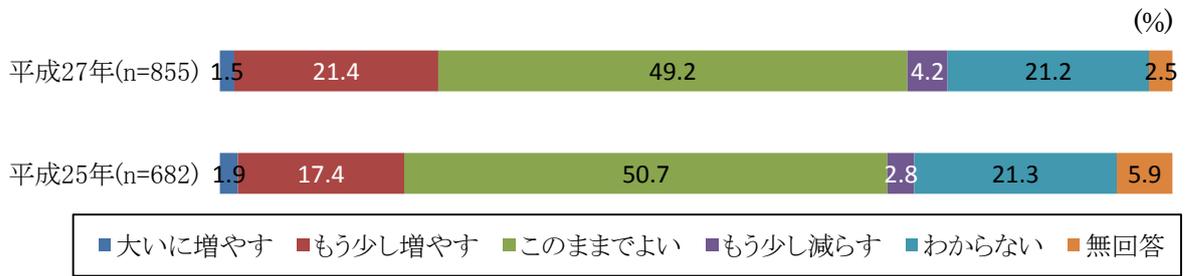
性・年代別でみると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、男性は30～50代で30%を超え、女性は20代の30.8%が最も高くなっている。



③ 地域活動に参加する時間

【全体】

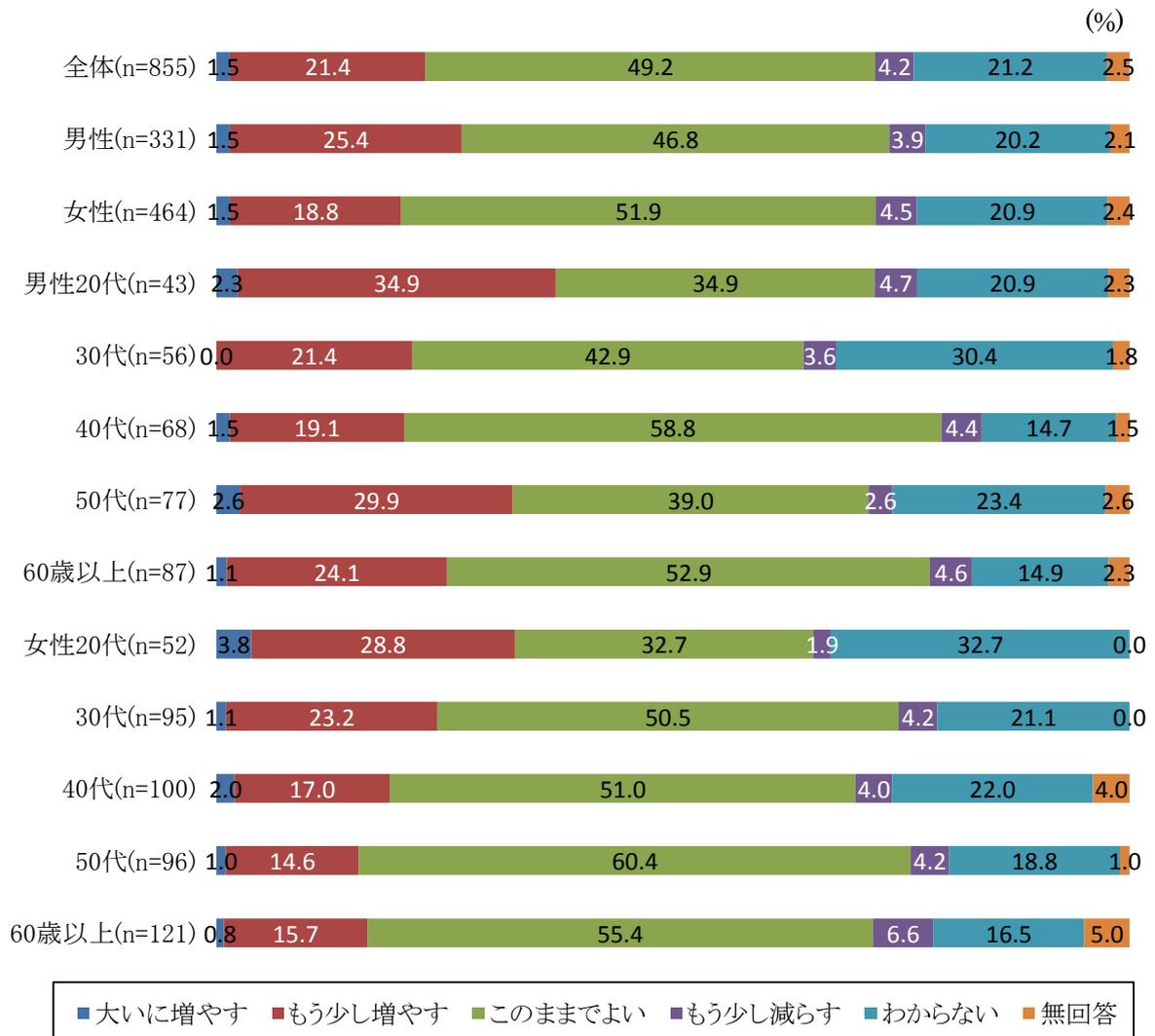
地域活動に参加する時間において「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の割合は、前回調査から3.6ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性が26.9%で女性の20.3%より6.6ポイント高くなっている。

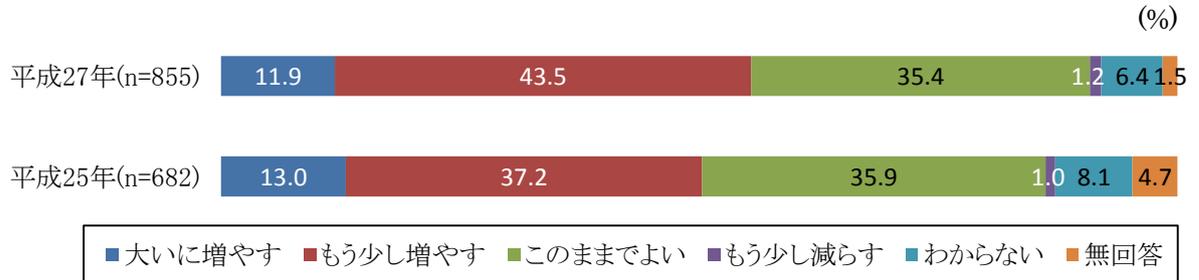
性・年代別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男女ともに20代が最も割合が高く、男性の20代が37.2%、女性の20代が32.6%となっている。



④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

【全体】

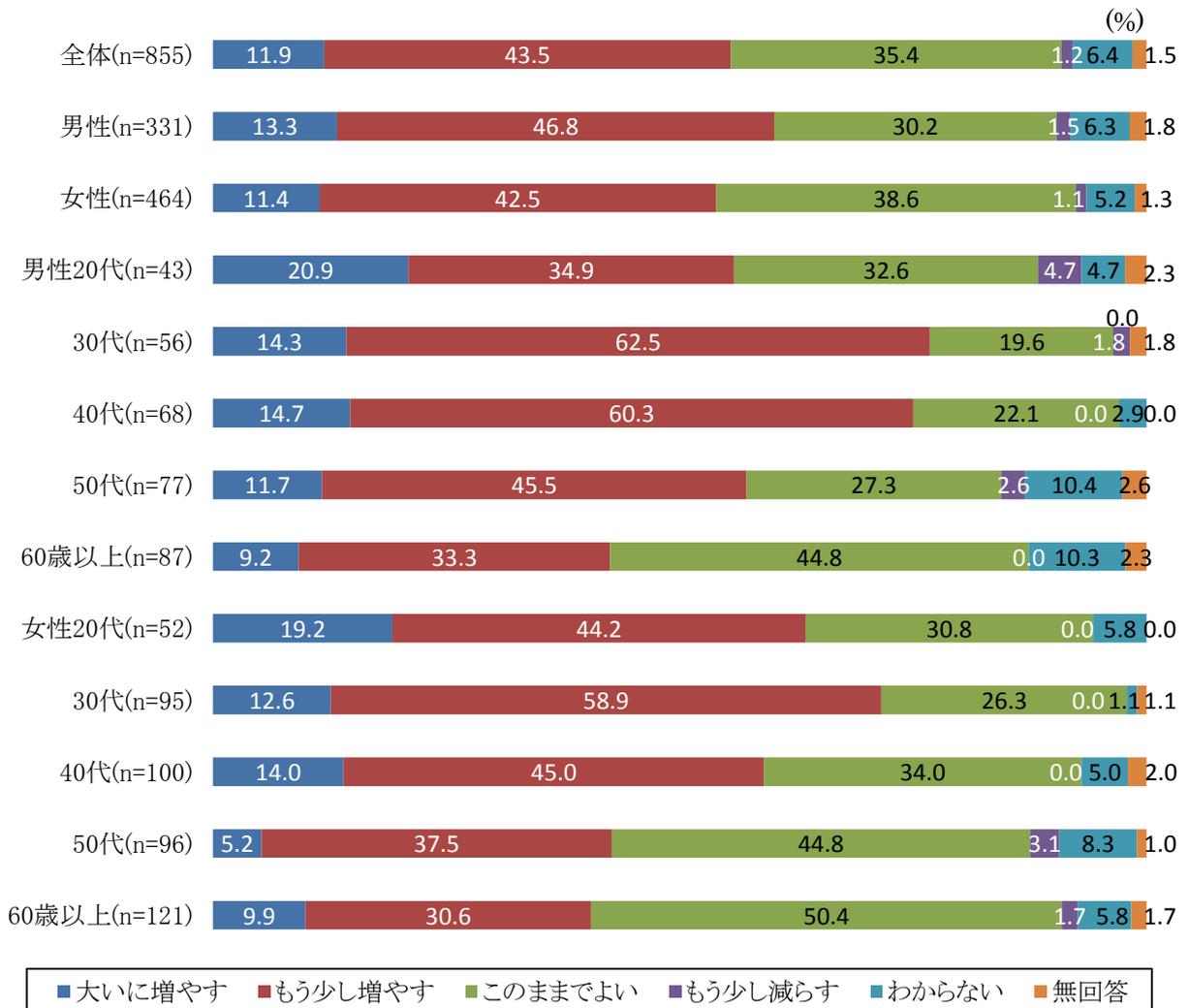
学習・趣味・スポーツなどのための時間において「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の割合は、前回調査から5.2ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性が60.1%で女性の53.9%より6.2ポイント高くなっている。

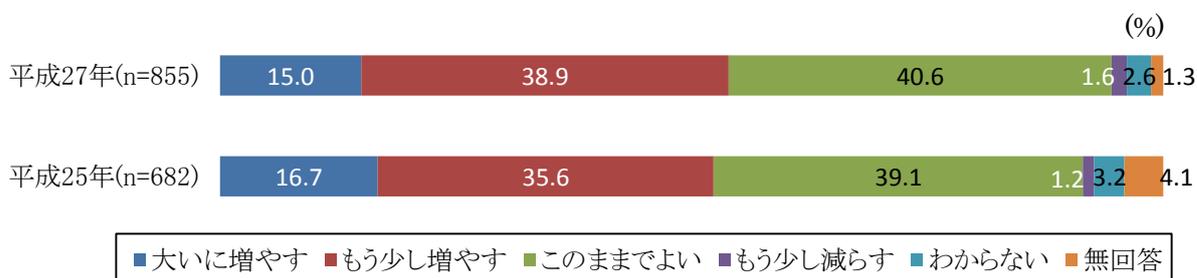
性・年代別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男女ともに30代が最も割合が高く、男性の30代が76.8%、女性の30代が71.5%となっている。



⑤ 休養のための時間

【全体】

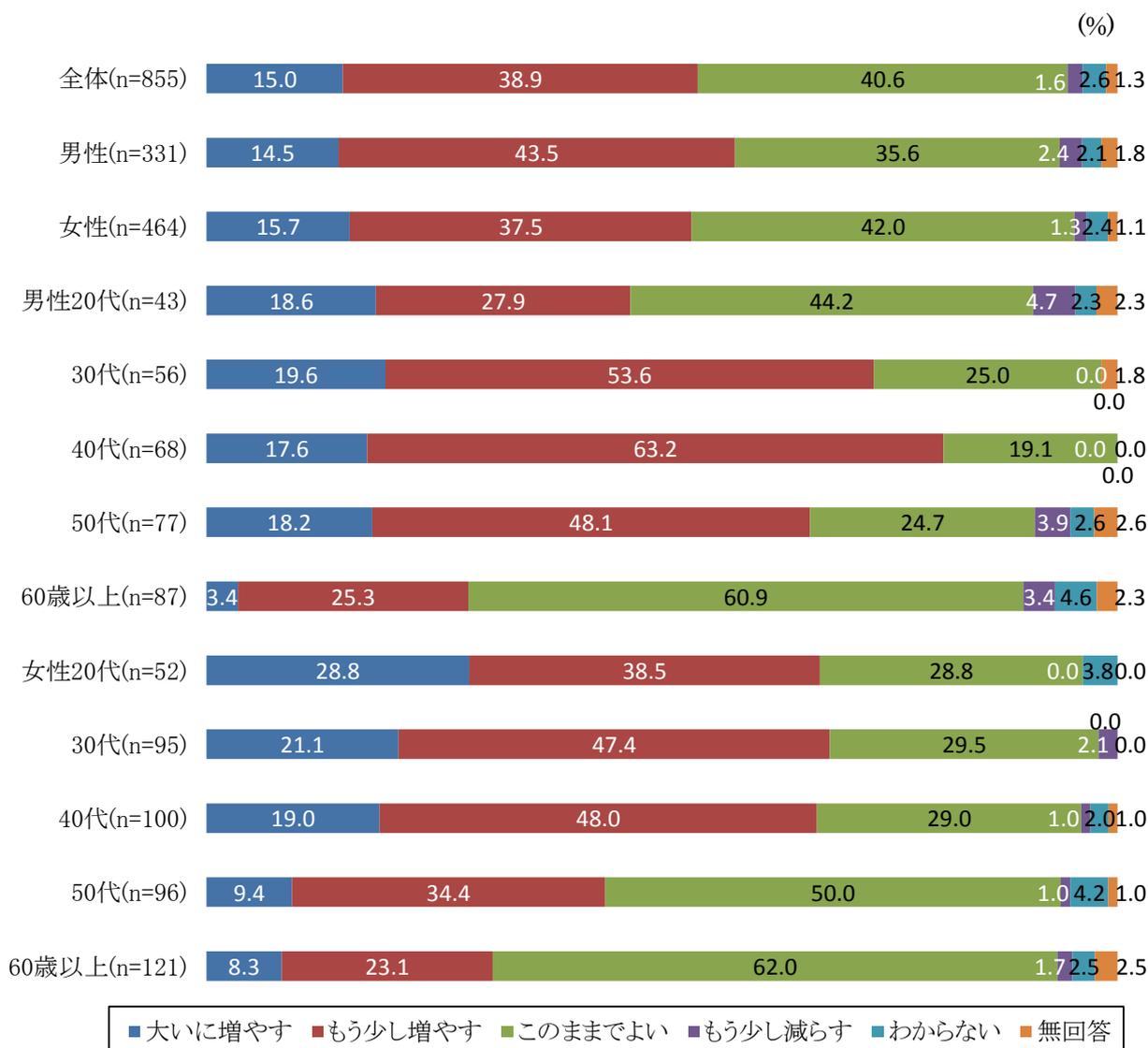
休養のための時間において「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の割合は、前回調査から1.6ポイント増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性が58.0%で女性の53.2%より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「大いに増やす」、「もう少し増やす」と考える人の合わせた割合は、男性では40代の80.8%が最も高く、女性は30代の68.5%が最も高くなっている。

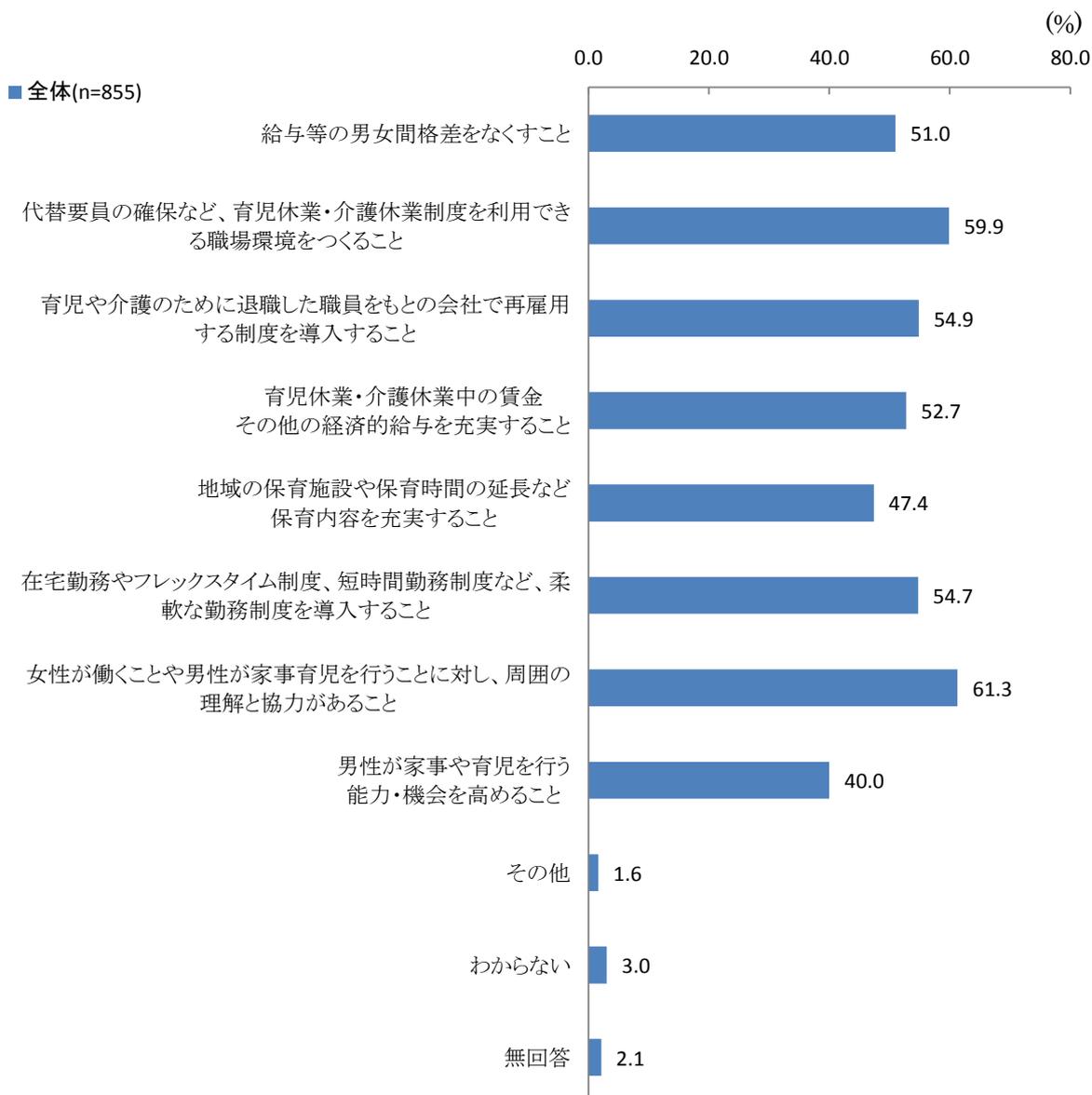


(3) 男女が仕事、家庭、地域生活を両立するために必要なこと

【問15】 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

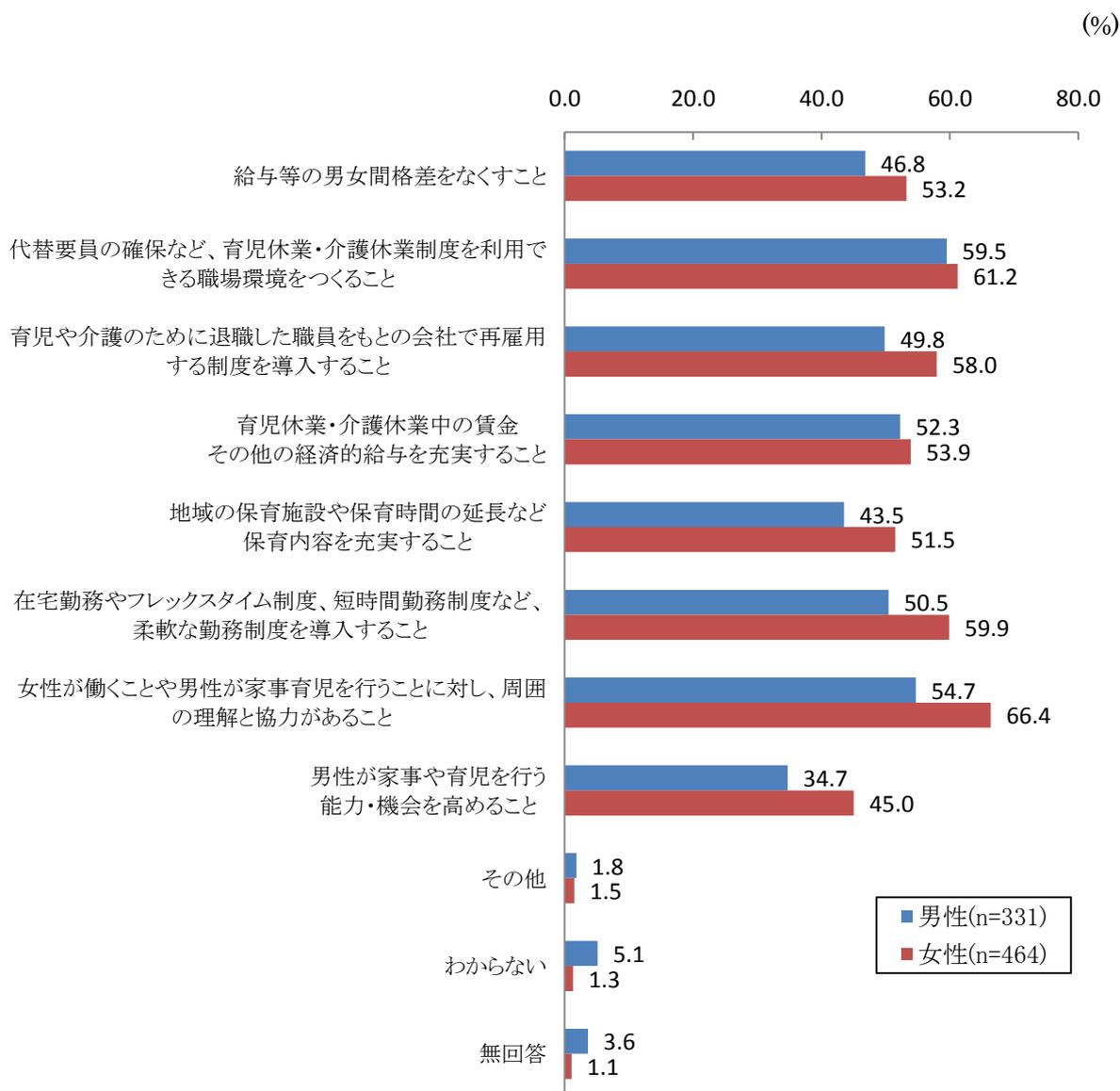
【全体】

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件について、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」が61.3%で最も高く、次いで、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が59.9%、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」54.9%などの順となっている。



【性・年代別】

性別でみると、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」は、女性が66.4%で男性の54.7%より11.7ポイント、「男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること」は、女性が45.0%で男性の34.7%より10.3ポイント、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は、女性が59.9%で男性の50.5%より9.4ポイント、それぞれ高くなっている。



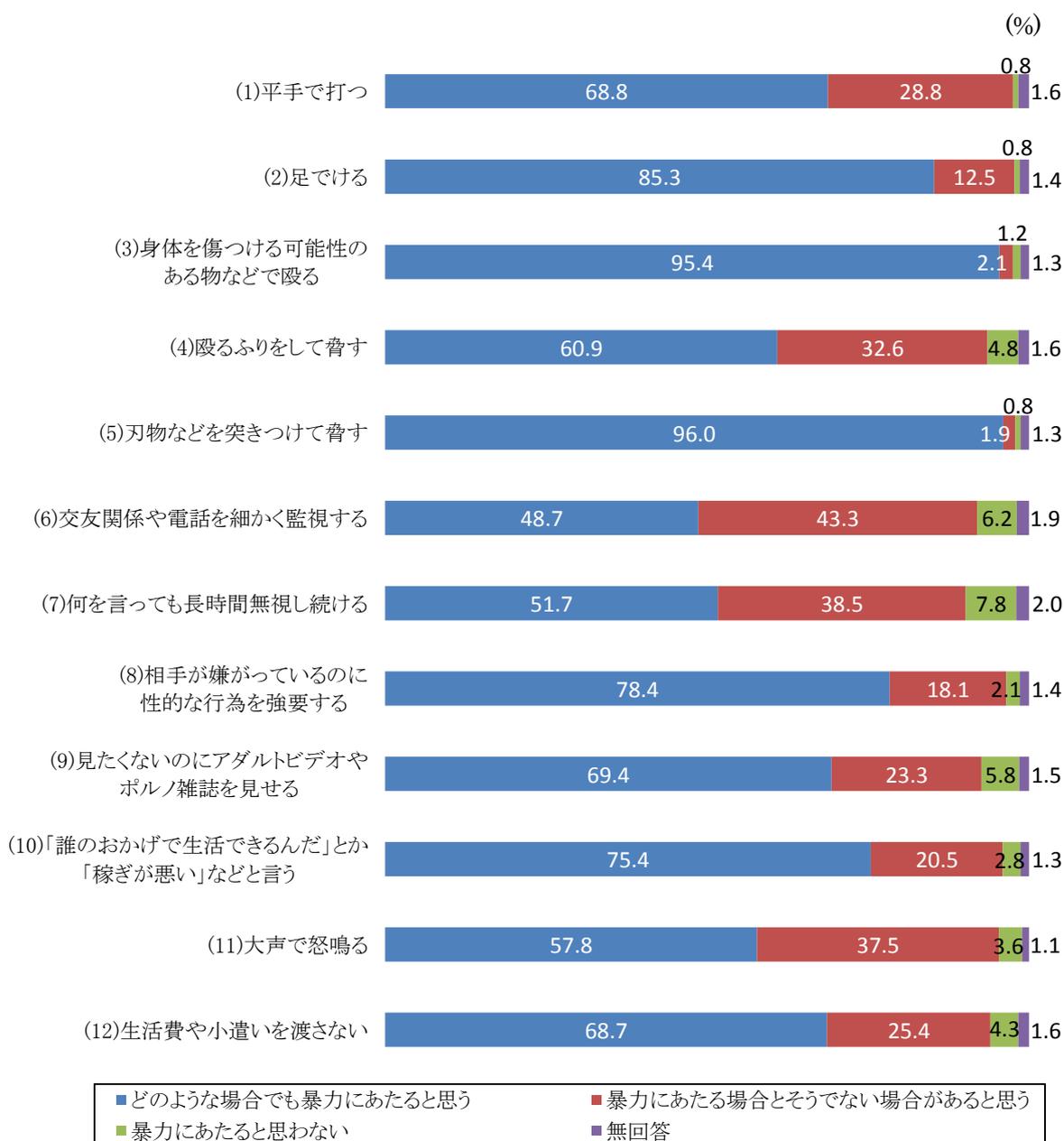
8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて

(1) 配偶者・パートナー間の暴力

【問16】 次の(1)～(12)のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。

【全体】

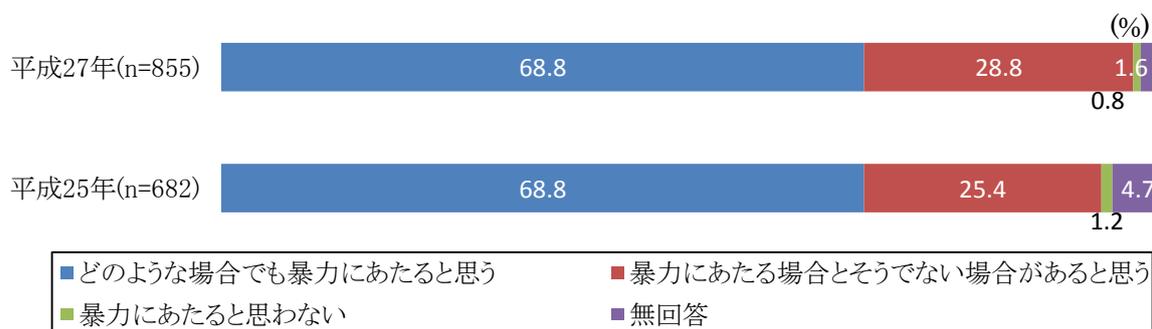
配偶者・パートナー・恋人間での暴力に対する考えについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は“刃物などを突きつけて脅す”で96.0%と最も高く、次いで、“身体を傷つける可能性のある物などで殴る”が95.4%、“足でける”が85.3%などの順になっている。また、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は、“交友関係や電話を細かく監視する”で43.3%と最も高く、次いで、“何を言っても長時間無視し続ける”が38.5%、“大声で怒鳴る”が37.5%などの順になっている。



① 平手で打つ

【経年比較】

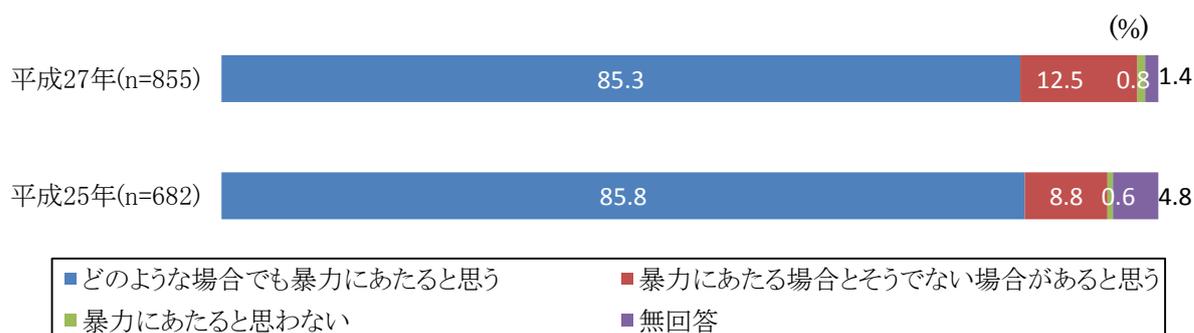
平手で打つについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査と変わらず、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は前回調査から3.4ポイント増加している。



② 足でける

【経年比較】

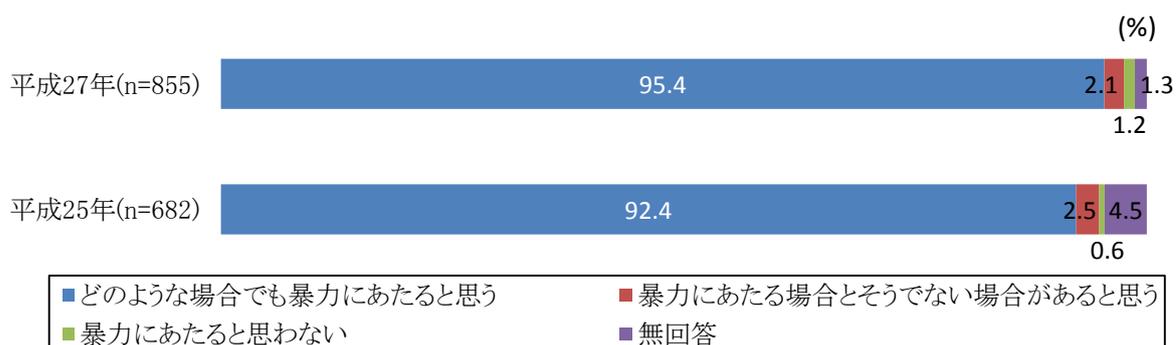
足でけるについて、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は前回調査から3.7ポイント増加している。



③ 身体を傷つける可能性のある物などで殴る

【経年比較】

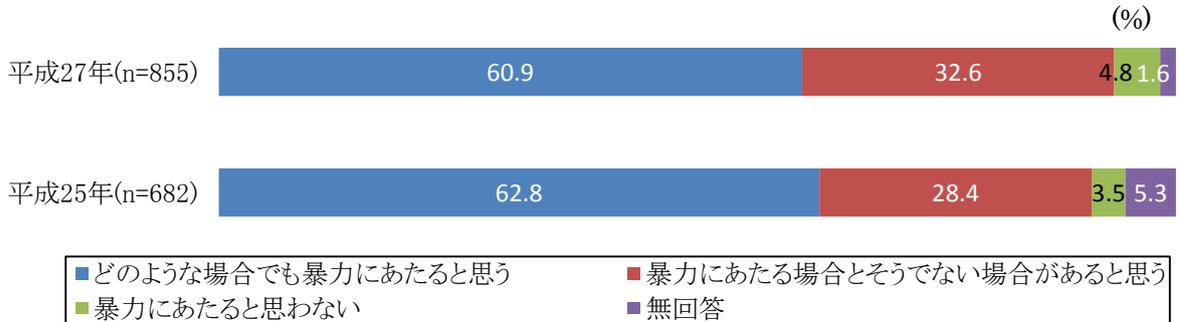
身体を傷つける可能性のある物などで殴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から3ポイント増加している。



④ 殴るふりをして脅す

【経年比較】

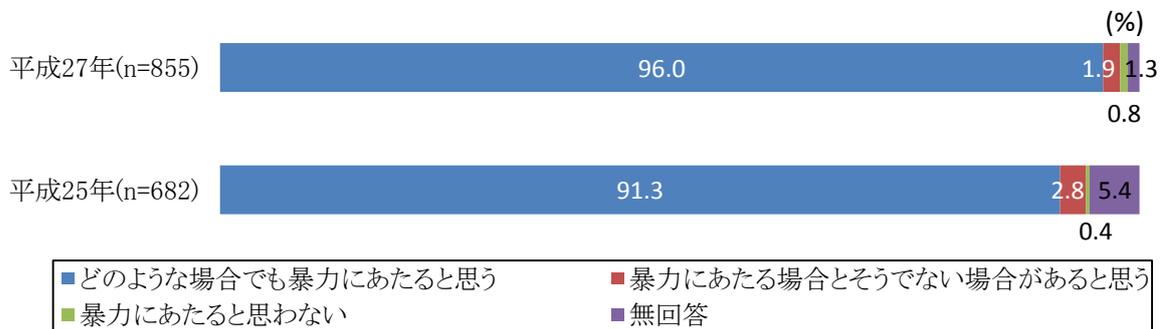
殴るふりをして脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から1.9ポイント減少し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は前回調査から4.2ポイント増加している。



⑤ 刃物などを突きつけて脅す

【経年比較】

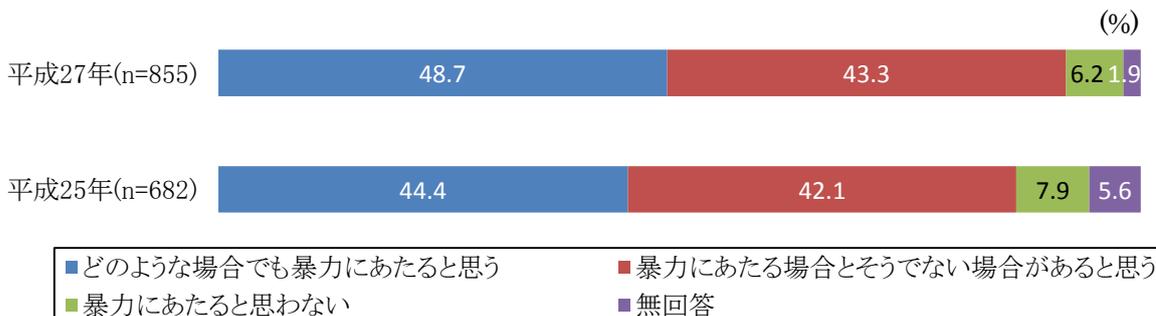
刃物などを突きつけて脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から4.7ポイント増加している。



⑥ 交友関係や電話を細かく監視する

【経年比較】

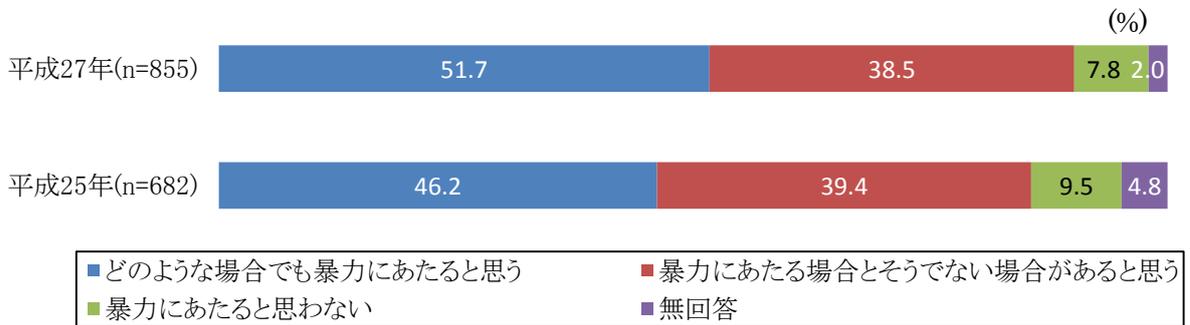
交友関係や電話を細かく監視するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から4.3ポイント増加している。



⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

【経年比較】

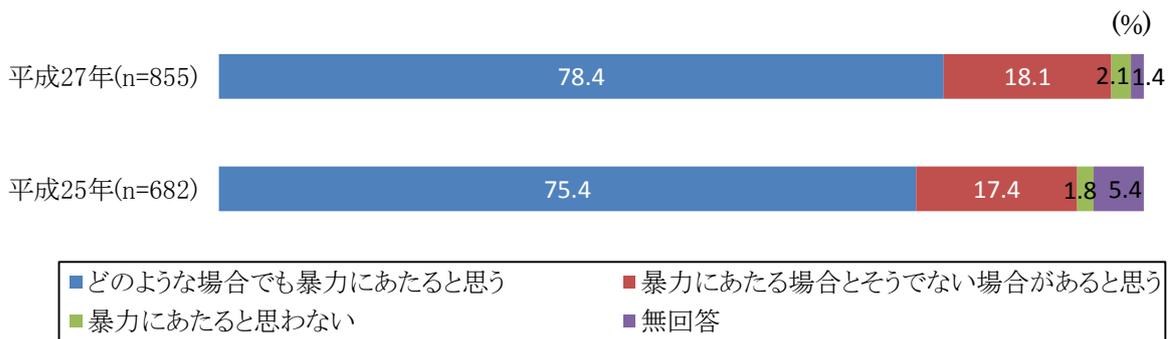
何を言っても長時間無視し続けるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 5.5 ポイント高くなっている。



⑧ 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する

【経年比較】

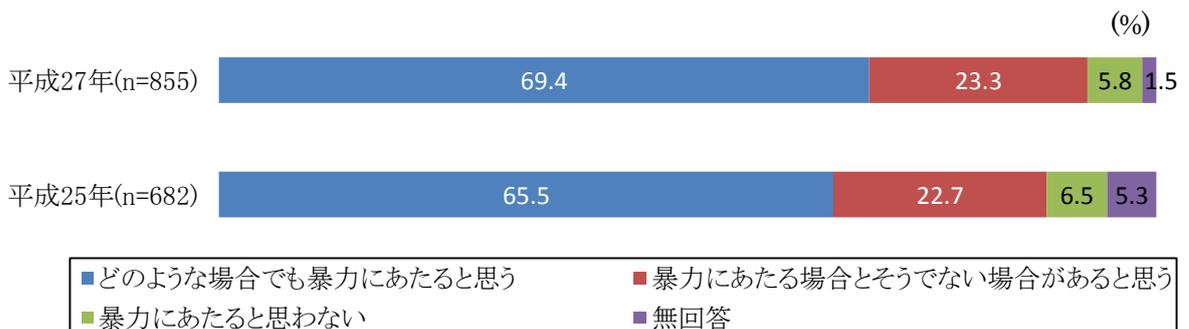
相手が嫌がっているのに性的な行為を強要するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 3.0 ポイント増加している。



⑨ 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

【経年比較】

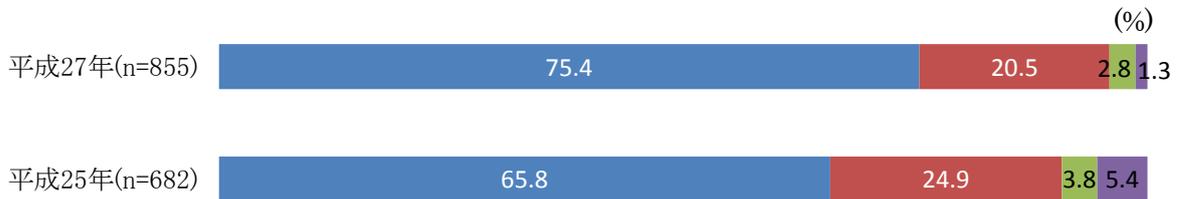
見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 3.9 ポイント増加している。



⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う

【経年比較】

何を言っても長時間無視し続けるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 5.5 ポイント高くなっている。



⑪ 大声で怒鳴る

【経年比較】

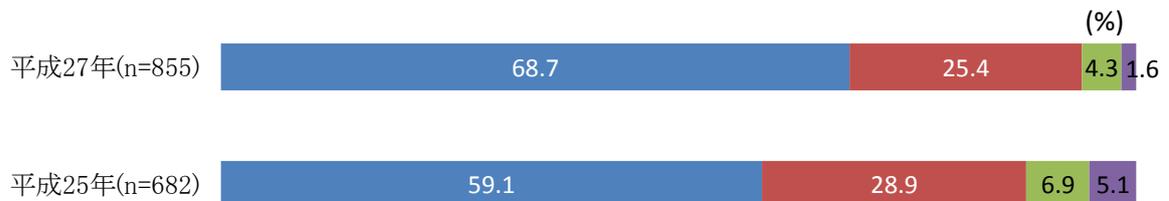
大声で怒鳴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 5.0 ポイント増加している。



⑫ 生活費や小遣いを渡さない

【経年比較】

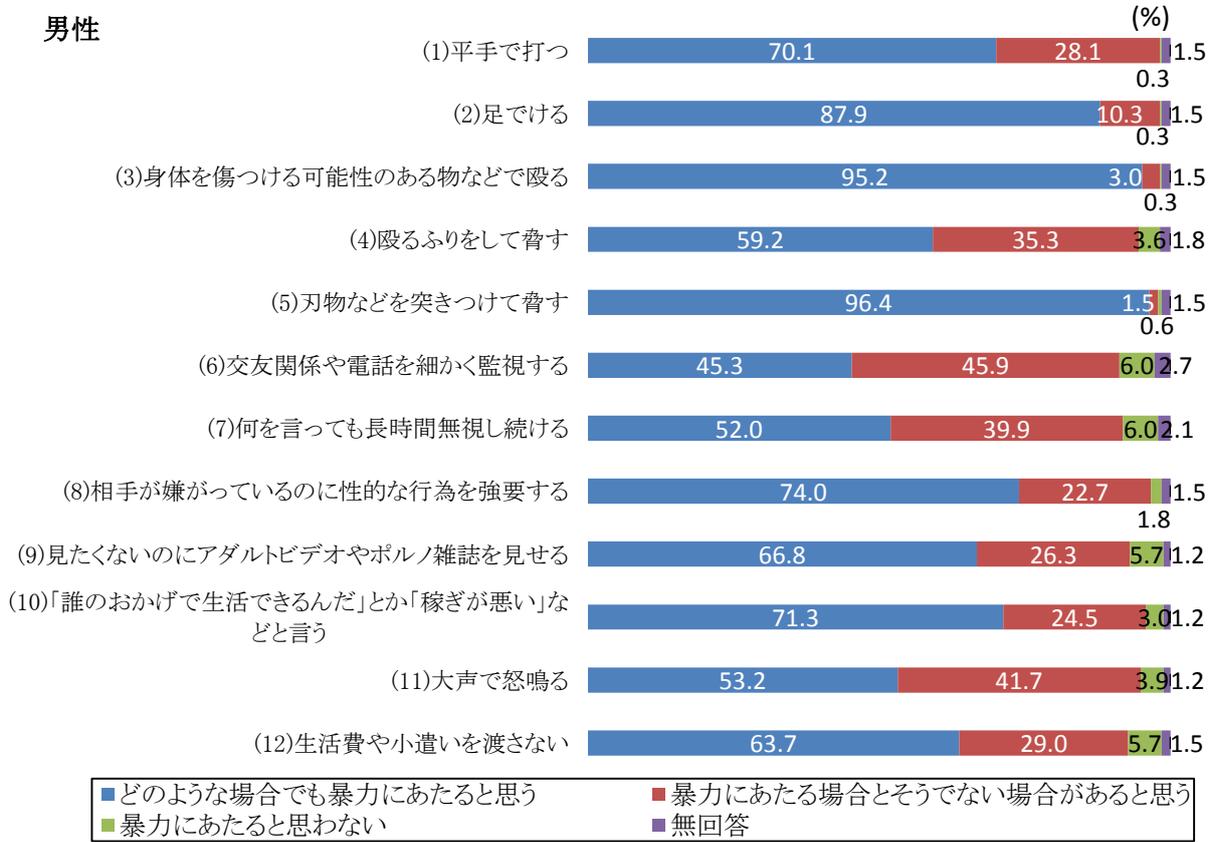
生活費や小遣いを渡さないについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査から 9.6 ポイント増加している。



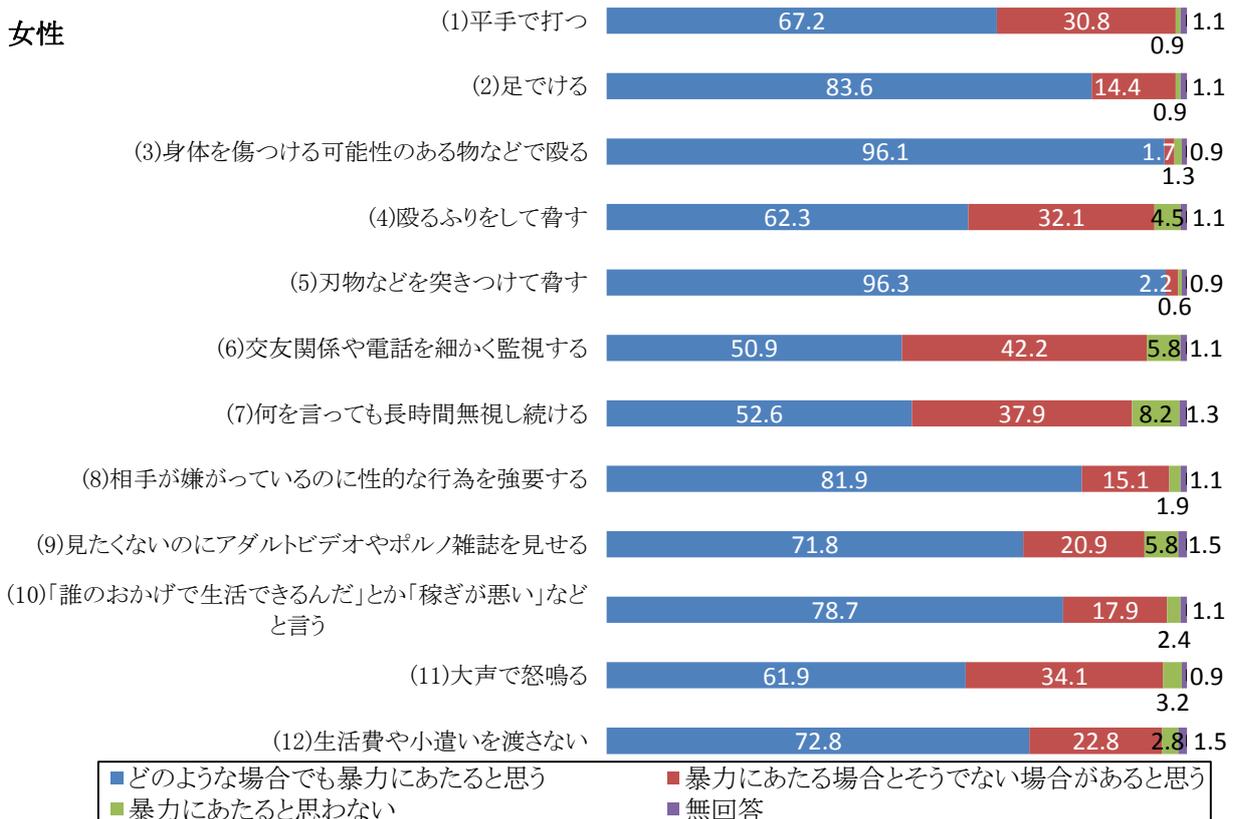
【性別】

性別でみると、「どのような場合でも暴力にあたる」は12項目中9項目で女性が男性より高く、「小遣いや生活費を渡さない」では、女性が72.8%で男性の63.7%より9.1ポイント、「大声で怒鳴る」では、女性が61.9%で男性の53.2%より8.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性が女性より高くなっている残りの3項目は、「足でける」では、男性が87.9%で女性の83.6%より4.3ポイント高くなっている。

男性



女性

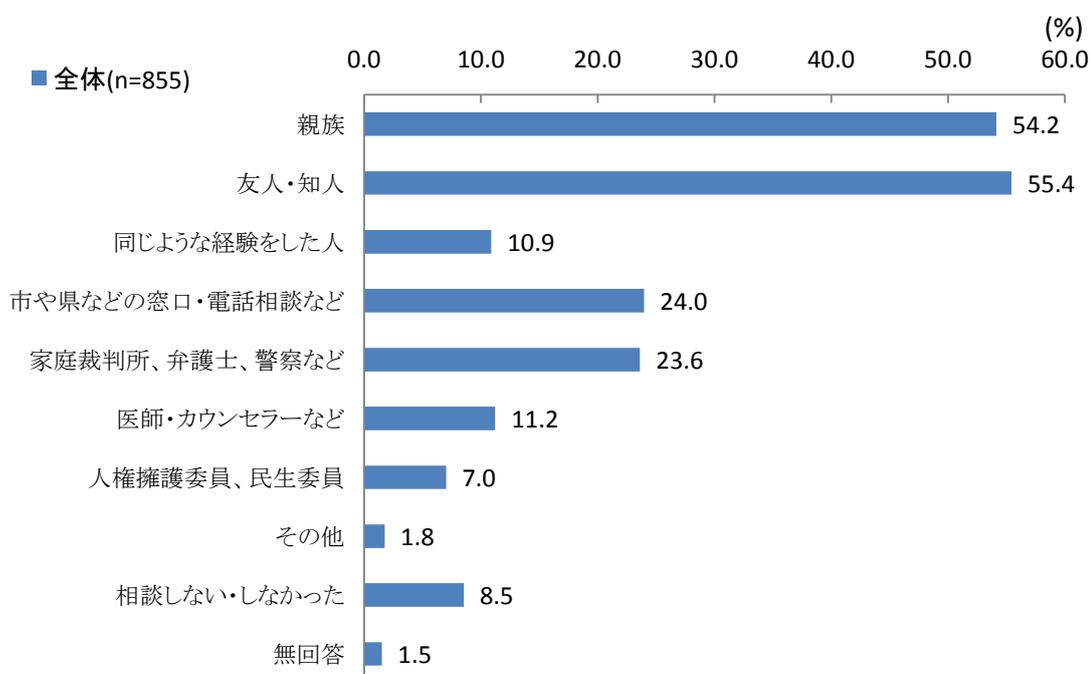


(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先

【問17-1】 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

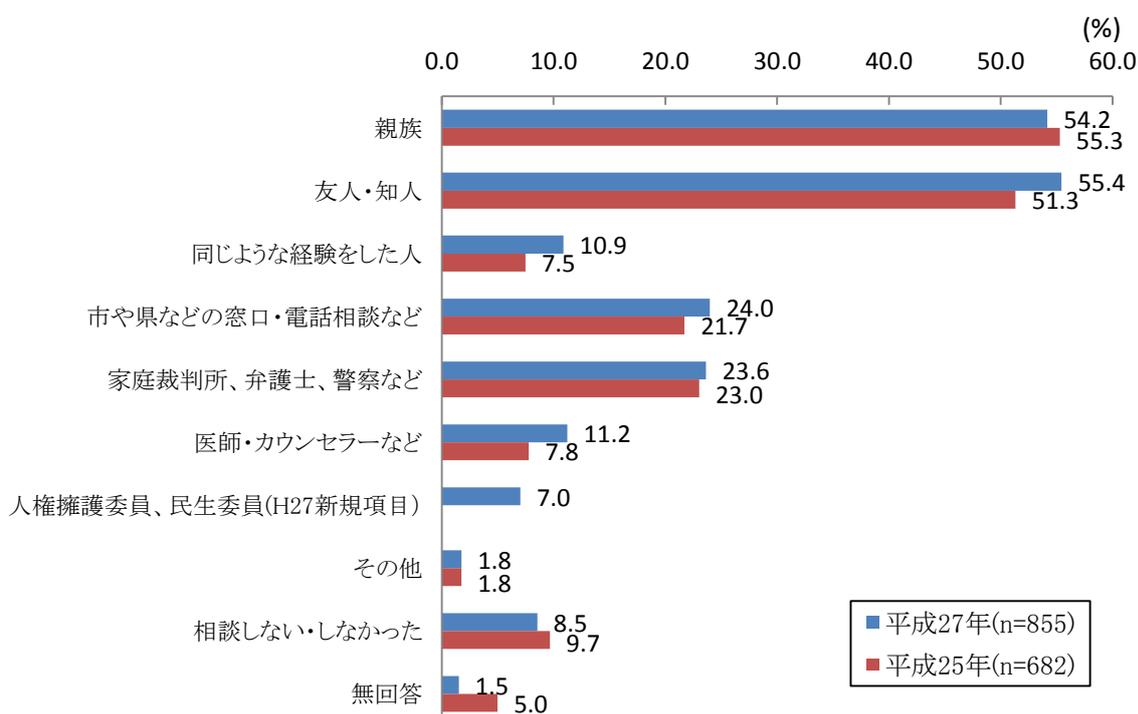
【全体】

DVの相談先について、「友人・知人」が55.4%で最も高く、次いで、「親族」が54.2%となっている。



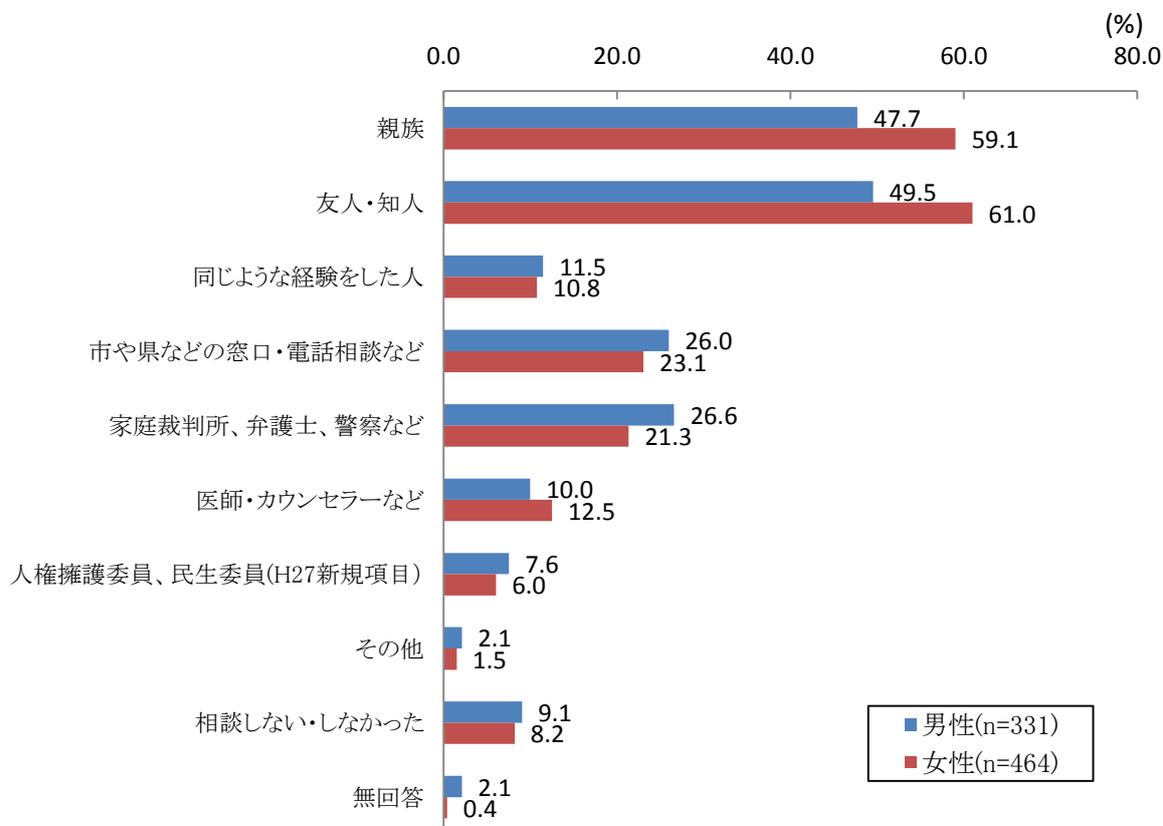
【経年比較】

経年比較をみると、「友人・知人」は前回調査から4.1ポイント増加している。



【性別】

性別でみると、「友人・知人」は女性が61.0%で男性の49.5%より11.5ポイント、「親族」は女性が59.1%で男性の47.7%より11.4ポイント、それぞれ高くなっている。



(2-1) 暴力について相談しなかった理由

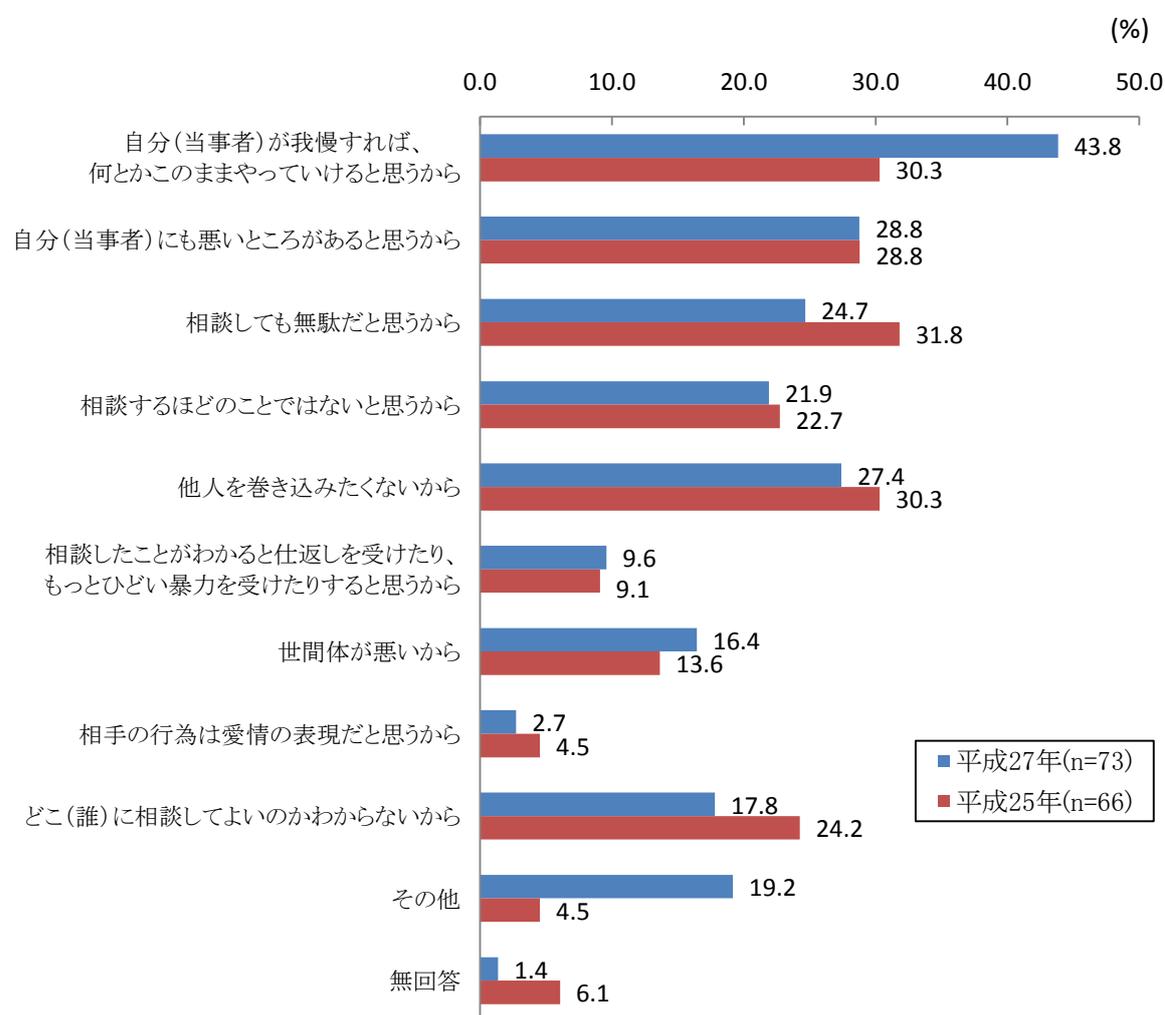
【問17-2】 <問17-1で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>
相談しない・しなかったのはなぜですか。

【全体】

暴力を相談しない理由について、「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」が43.8%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思うから」が28.8%、「他人を巻き込みたくないから」が27.4%などの順になっている。

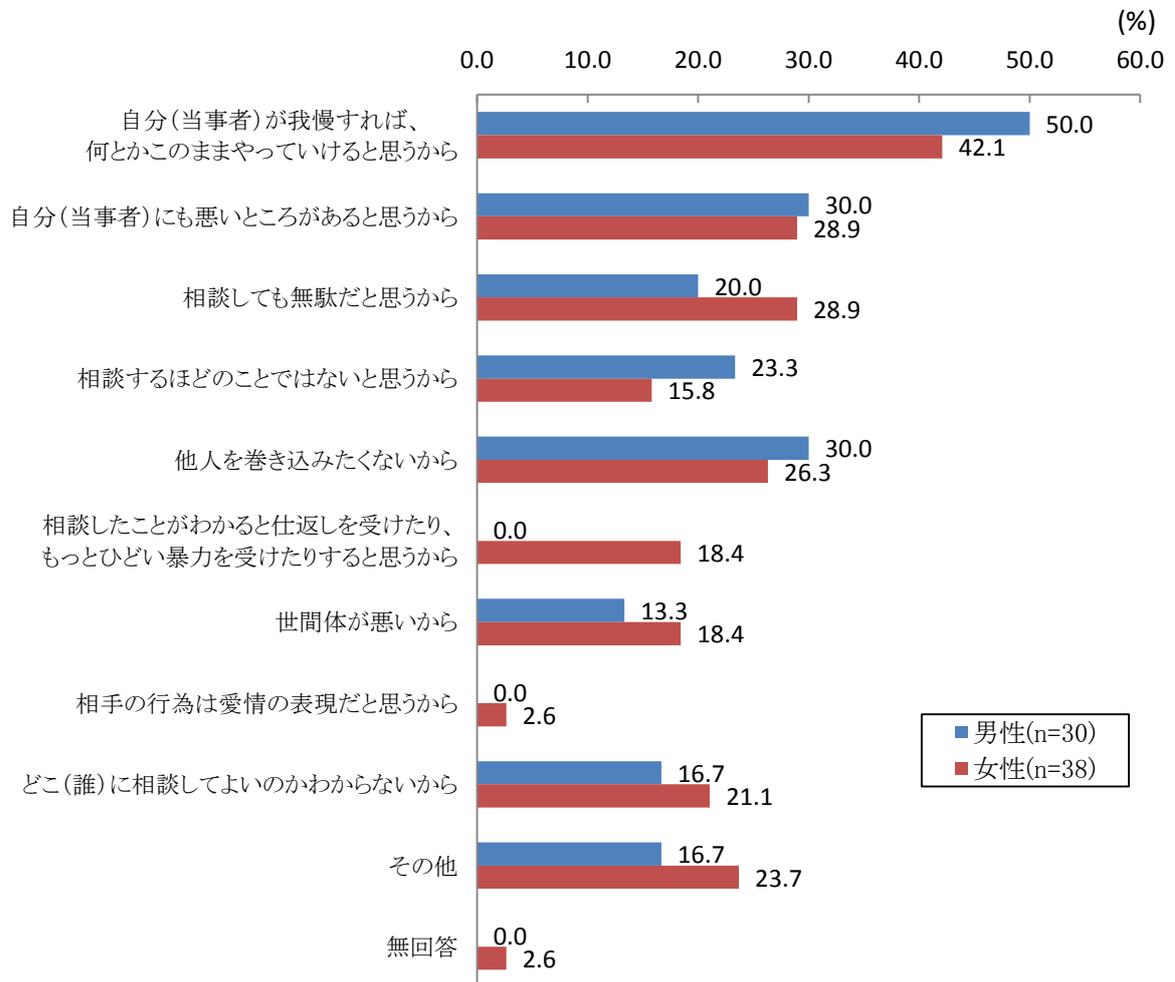
【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」は13.5ポイント、「その他」は14.7ポイント、それぞれ増加している。



【性別】

性別でみると、「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」は男性が50.0%で女性の42.1%より7.9ポイント高くなっている。一方、「相談しても無駄だと思うから」は女性が28.9%で男性の20.0%より8.9ポイント高くなっている。



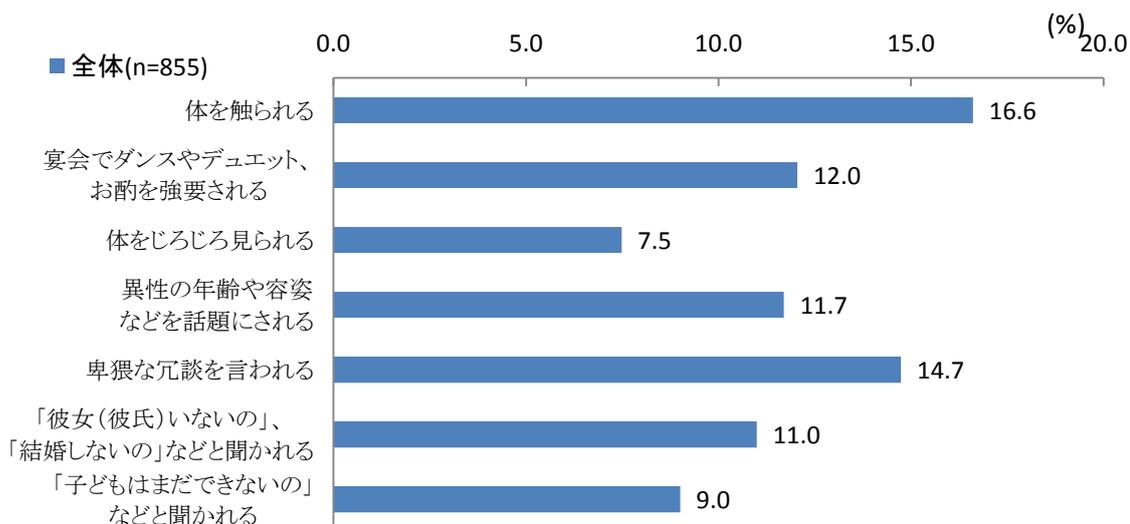
(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること

【問18】 次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。

①職場

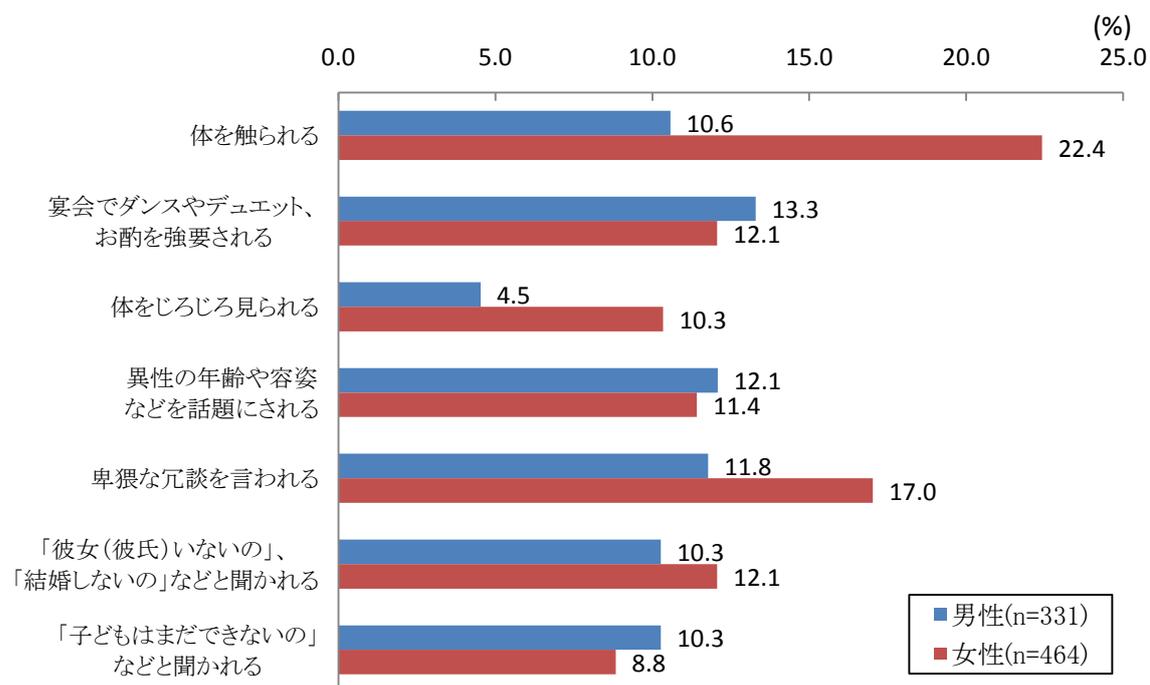
【全体】

職場においてセクハラだと感ずることについて、「体を触られる」は16.6%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は14.7%、「宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される」は12.0%などの順になっている。



【性別】

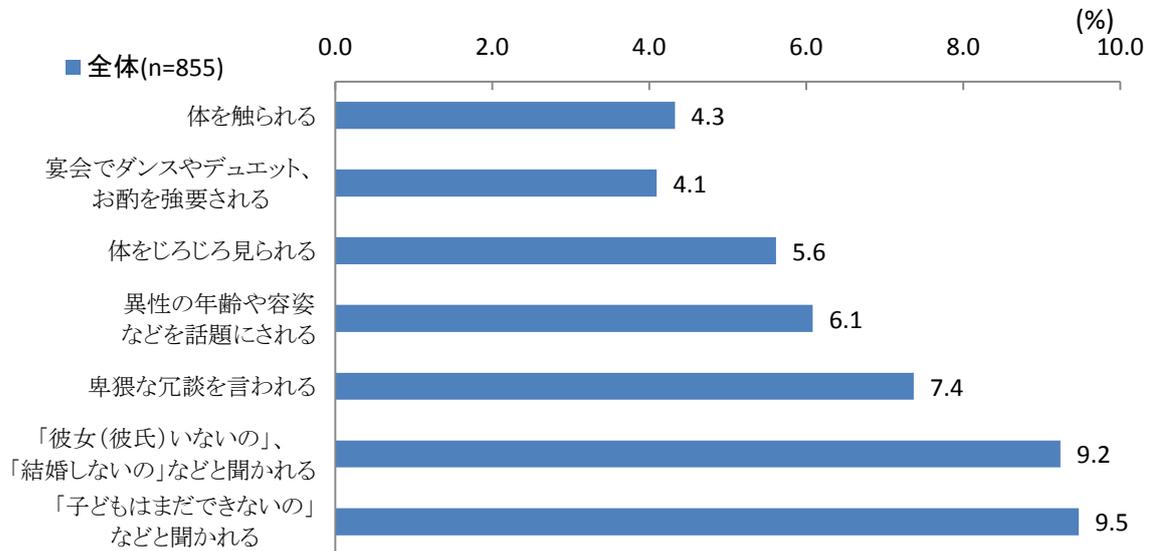
性別でみると、「体を触られる」は女性が22.4%で男性の10.6%より11.8ポイント、「体をじろじろ見られる」は女性が10.3%で男性の4.5%より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「子どもはまだできないの」などと聞かれる」は男性が10.3%で女性の8.8%より1.5ポイント高くなっている。



②地域

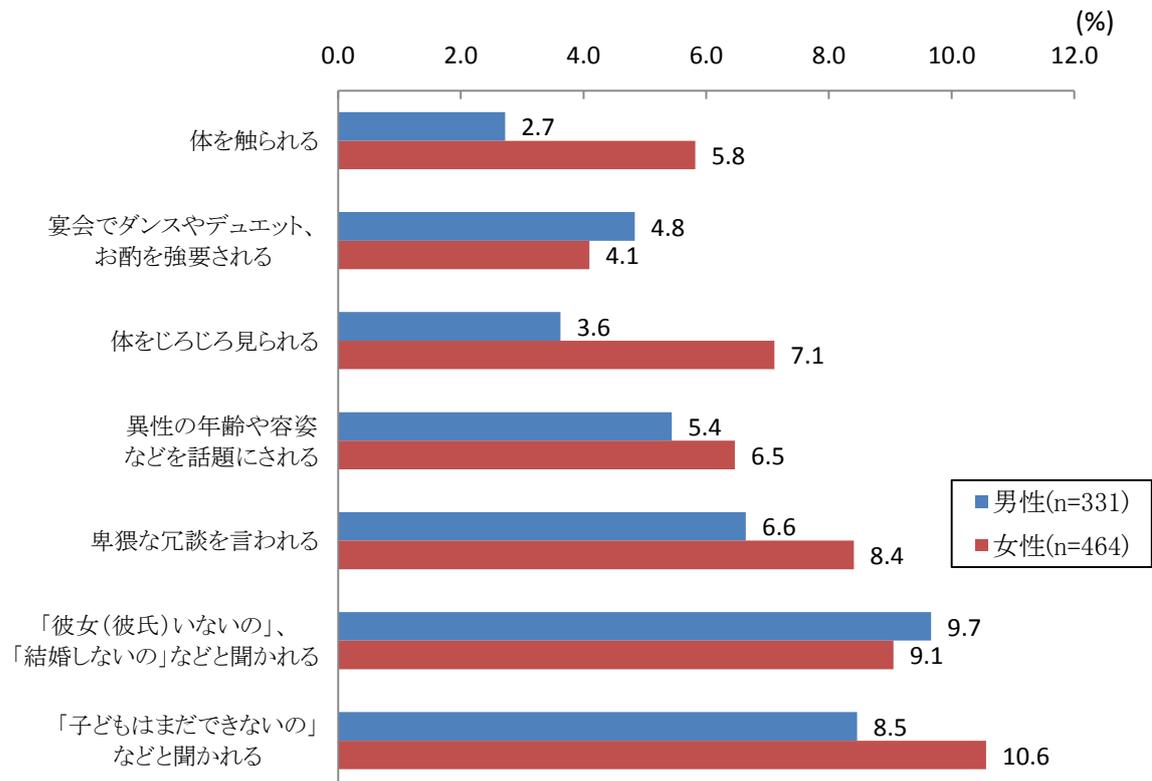
【全体】

地域においてセクハラだと感じることにについて、「子どもはまだできないの」などと聞かれる」は9.5%と最も高く、次いで、「彼女(彼氏)いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる」は9.2%、「卑猥な冗談を言われる」は7.4%などの順になっている。



【性別】

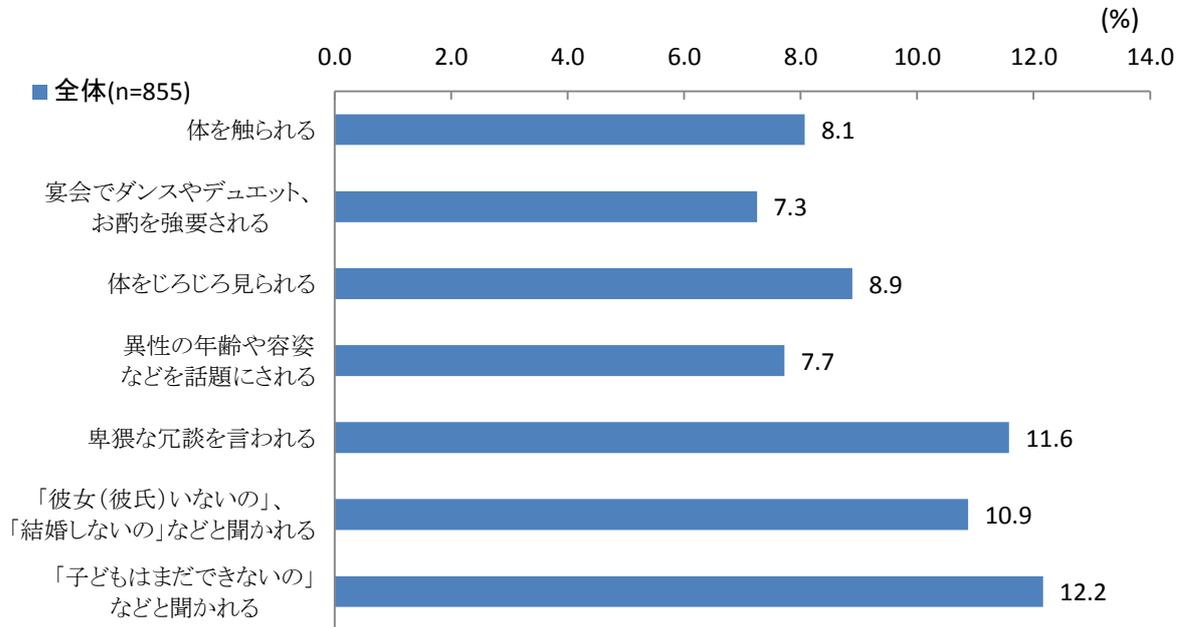
性別でみると、「体をじろじろ見られる」は女性が7.1%で男性の3.6%より3.5ポイント、「体を触られる」は女性が5.8%で男性の2.7%より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される」と「彼女(彼氏)いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる」の2項目は、女性より男性の方がセクハラだと感じている割合が高くなっている。



③その他

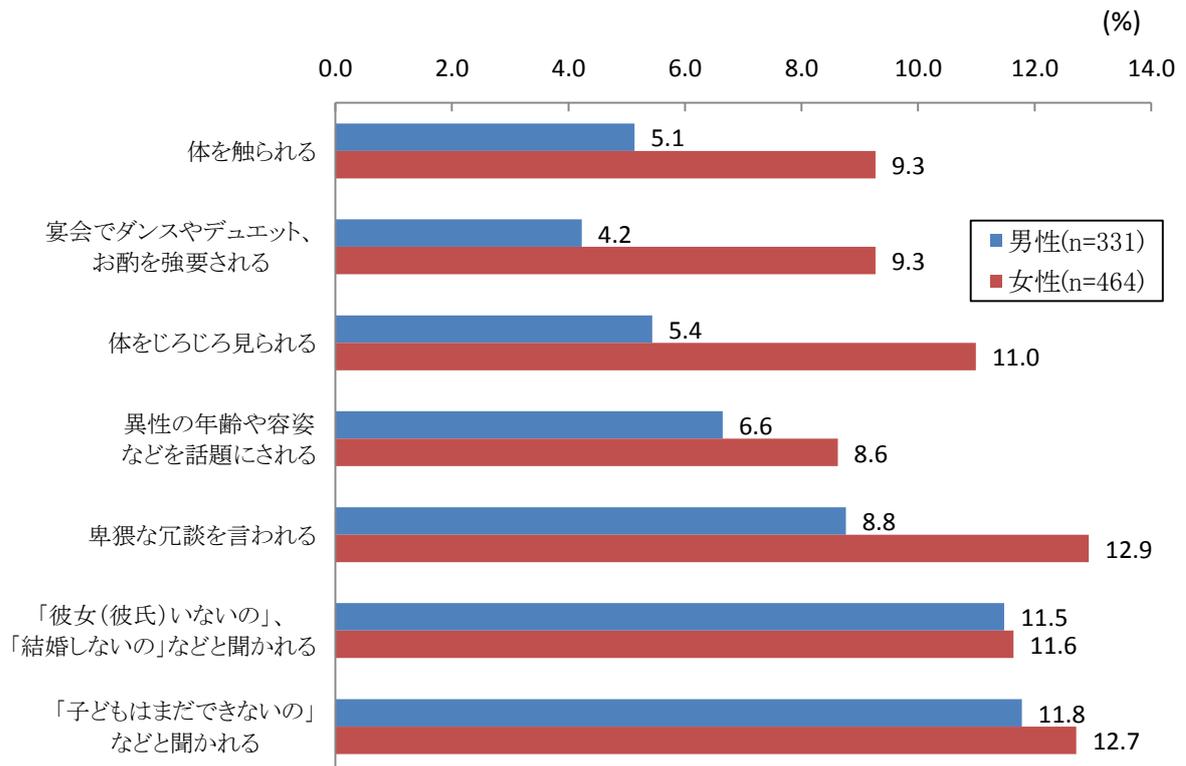
【全体】

その他においてセクハラだと感じることについて、「子どもはまだできないの」などと聞かれる」は12.2%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は11.6%、「彼女（彼氏）いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる」は10.9%などの順になっている。



【性別】

性別でみると、「体をじろじろ見られる」は女性が11.0%で男性の5.4%より5.6ポイント、「宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される」は女性が9.3%で男性の4.2%より5.1ポイント、それぞれ高くなっている。



9. 男女共同参画を推進するための取組について

(1) 市が力を入れるべき取組

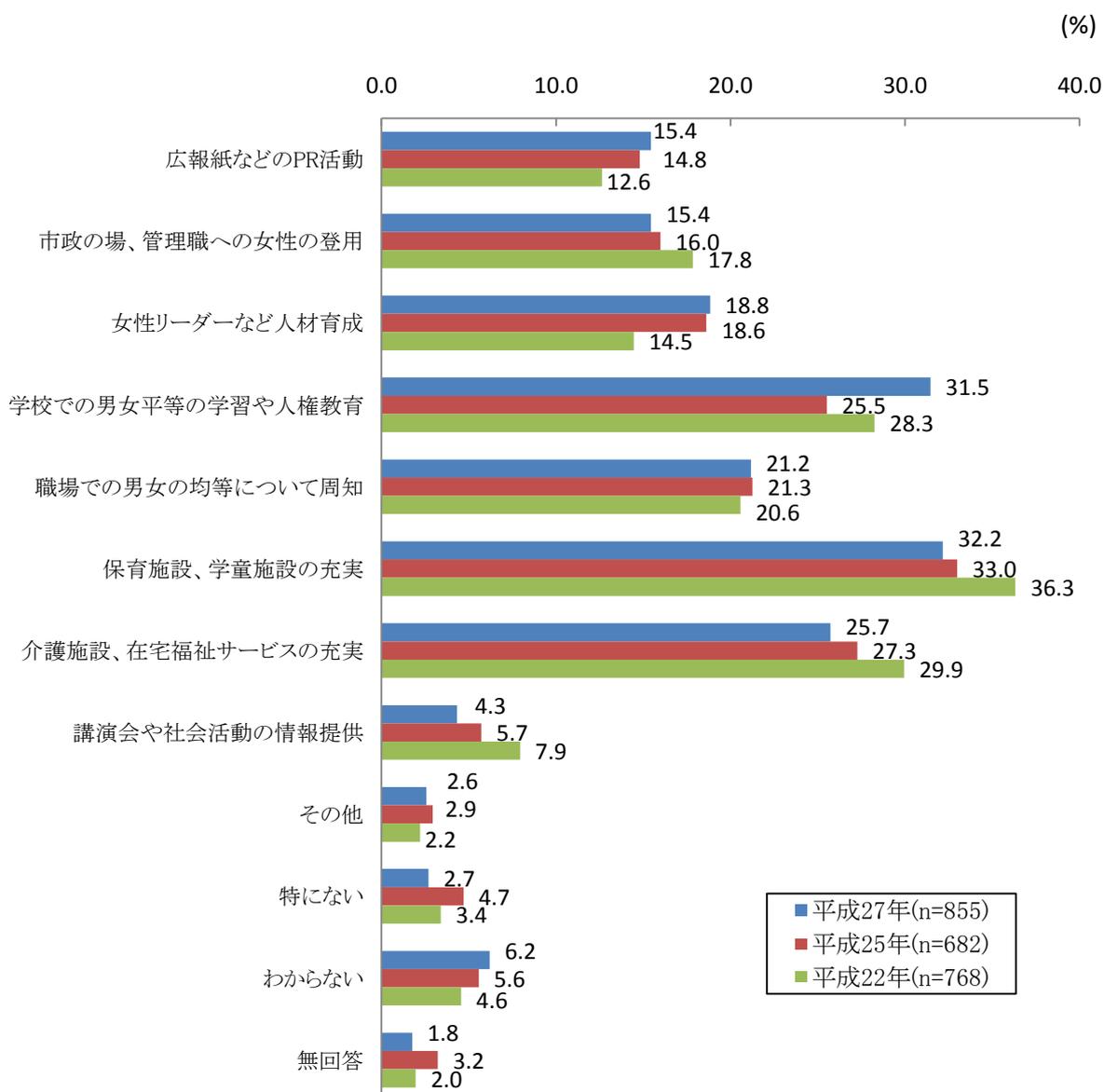
【問 19】 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

【全体】

市が今後力を入れていくべきことについて、「保育施設、学童施設の充実」は32.2%と最も高く、次いで、「学校での男女平等の学習や人権教育」は31.5%、「介護施設、在宅福祉サービスの充実」は25.7%などの順になっている。

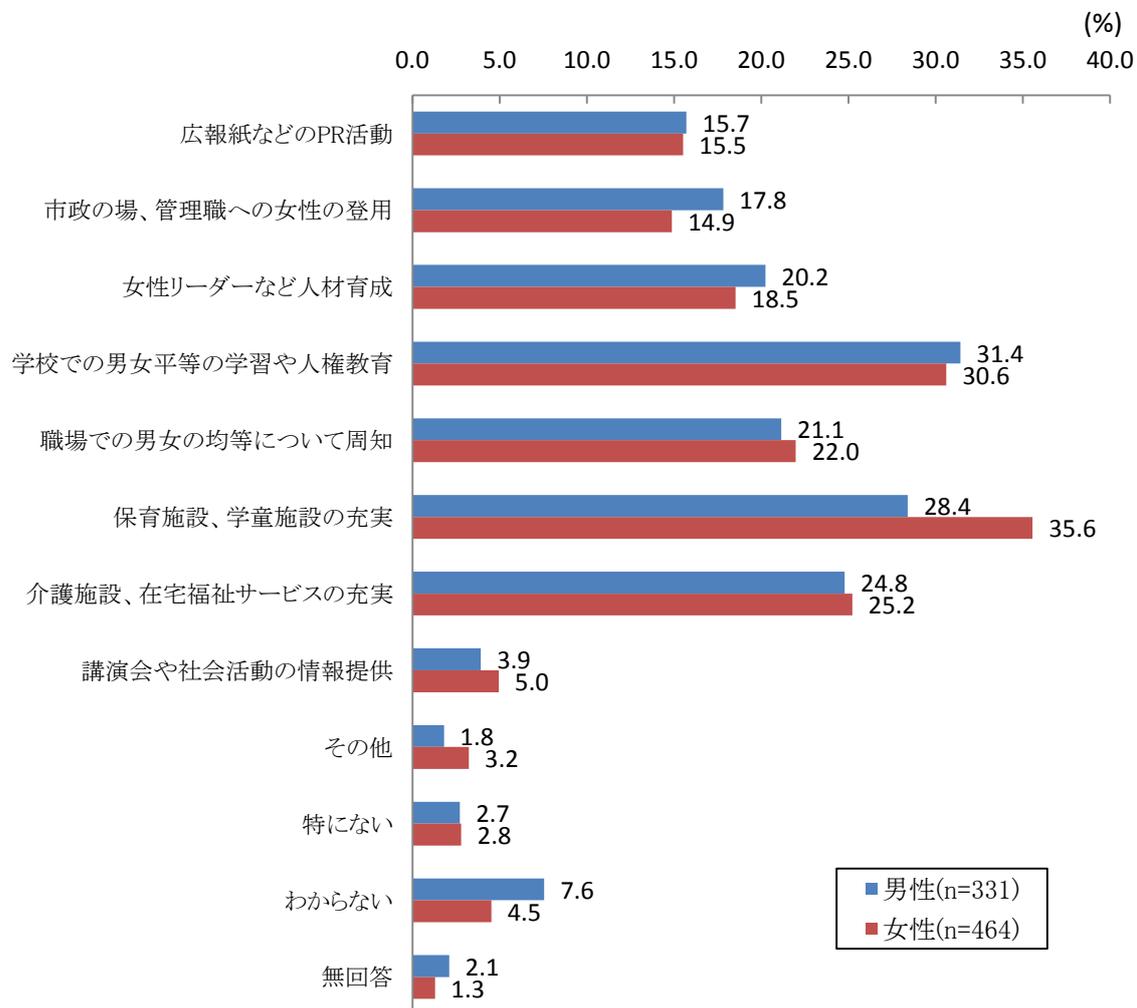
【経年比較】

経年比較をみると、「学校での男女平等の学習や人権教育」は前回調査から6ポイント増加している。一方、「保育施設、学童施設の充実」は前回調査から0.8ポイント、「介護施設、在宅福祉サービスの充実」は1.6ポイント、それぞれ減少している。



【性別】

性別で見ると、「保育施設、学童施設の充実」は女性が35.6%で男性の28.4%より7.2ポイント高くなっている。一方、「市政の場、管理職への女性の登用」は男性が17.8%で女性の14.9%より2.9ポイント高くなっている。



(2) 企業や職場での必要な取組

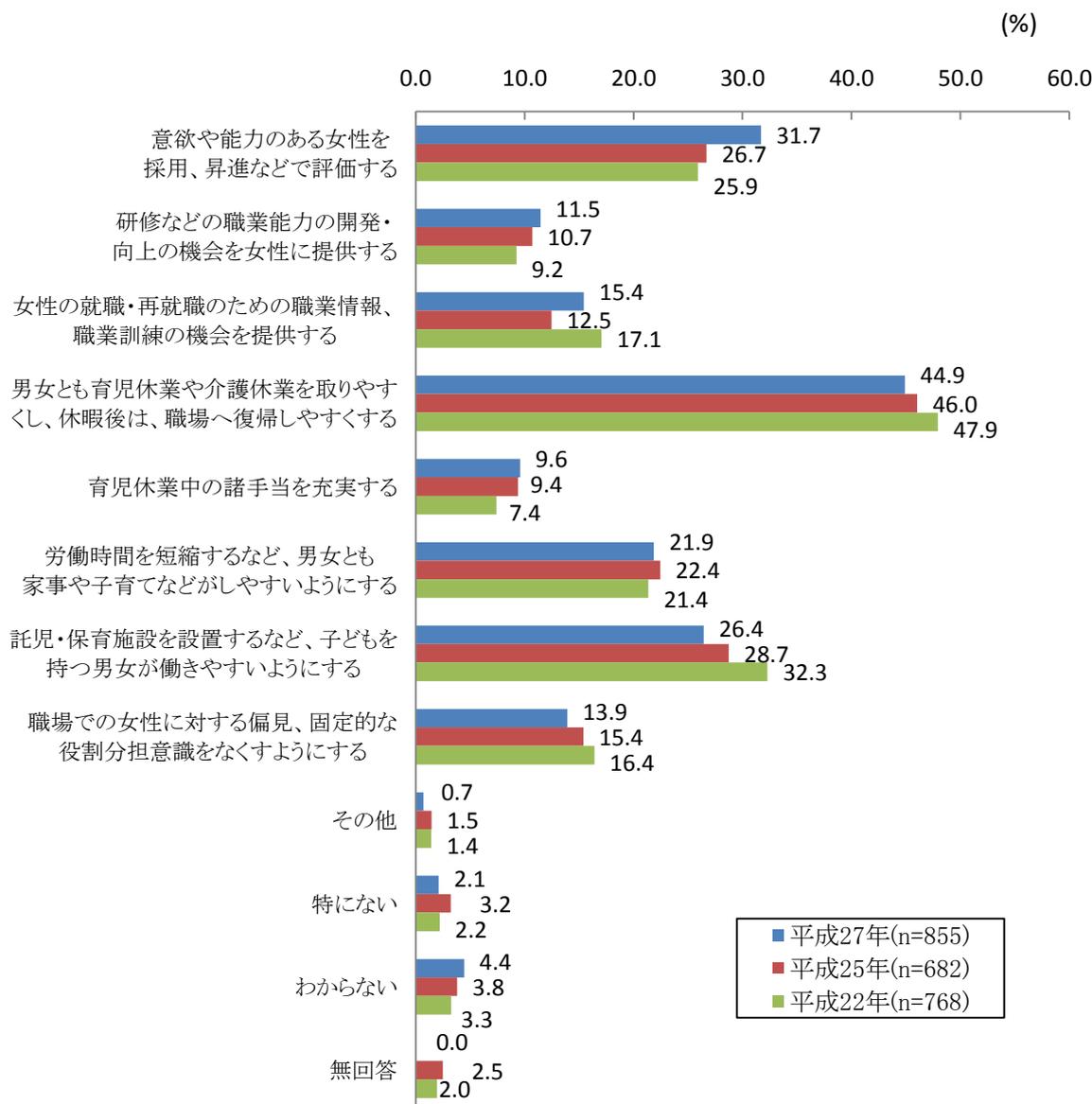
【問 20】 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために企業などの職場が力を入れるべきことについて、「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休暇後は、職場へ復帰しやすくする」は44.9%と最も高く、次いで、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は31.7%、「託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする」は26.4%などの順になっている。

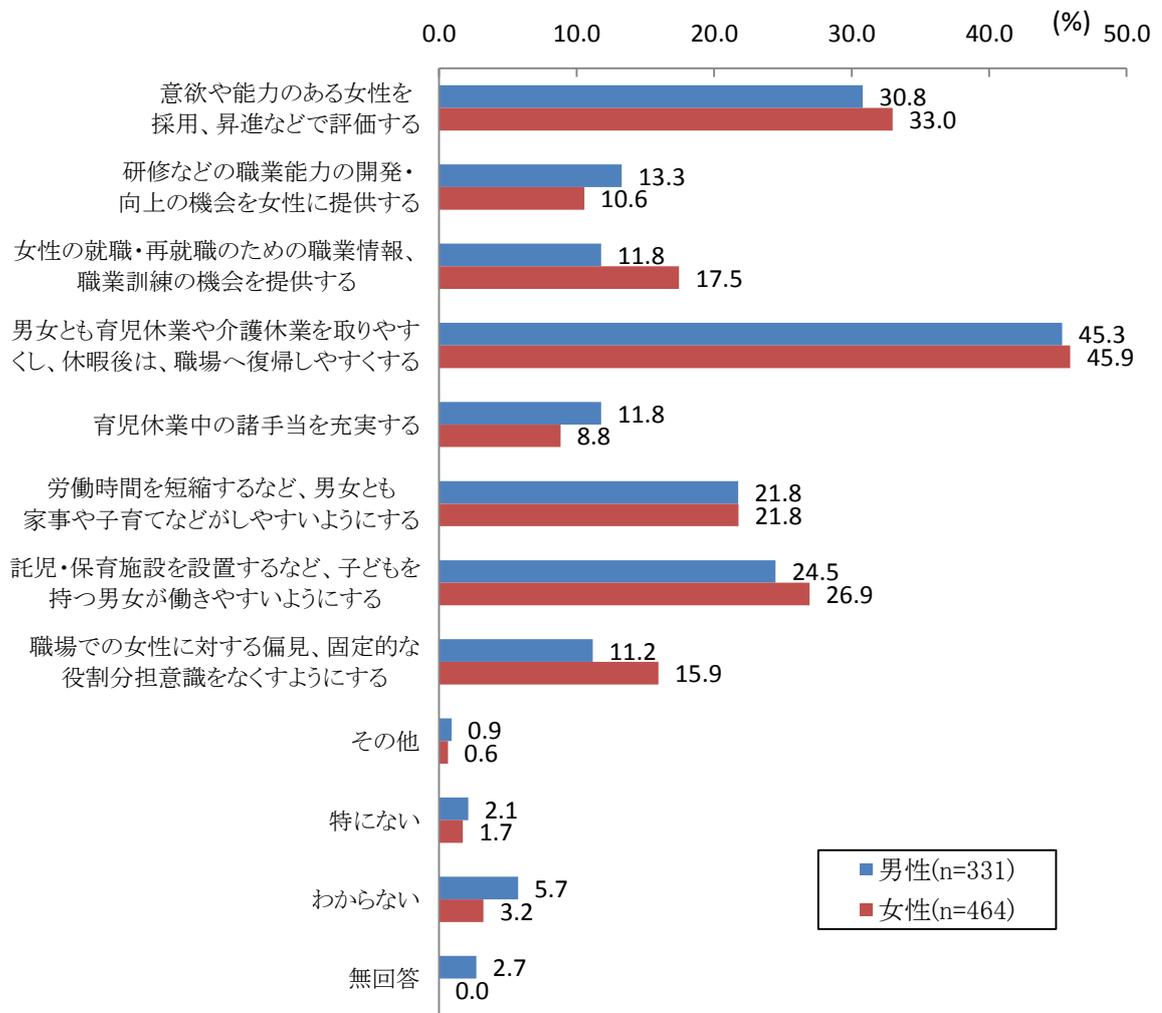
【経年比較】

経年比較すると、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は前回調査から5ポイント、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」は前回調査から2.9ポイント、それぞれ増加している。



【性別】

性別でみると、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」は女性が17.5%で男性の11.8%より5.7ポイント、「職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする」は女性が15.9%で男性の11.2%より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「育児休業中の諸手当を充実する」は男性が11.8%で女性の8.8%より3ポイント、「研修など職業能力の開発・向上の機会を女性に提供する」は男性が13.3%で女性の10.6%より2.7ポイント、それぞれ高くなっている。



(3) 私たち自身が必要な取組

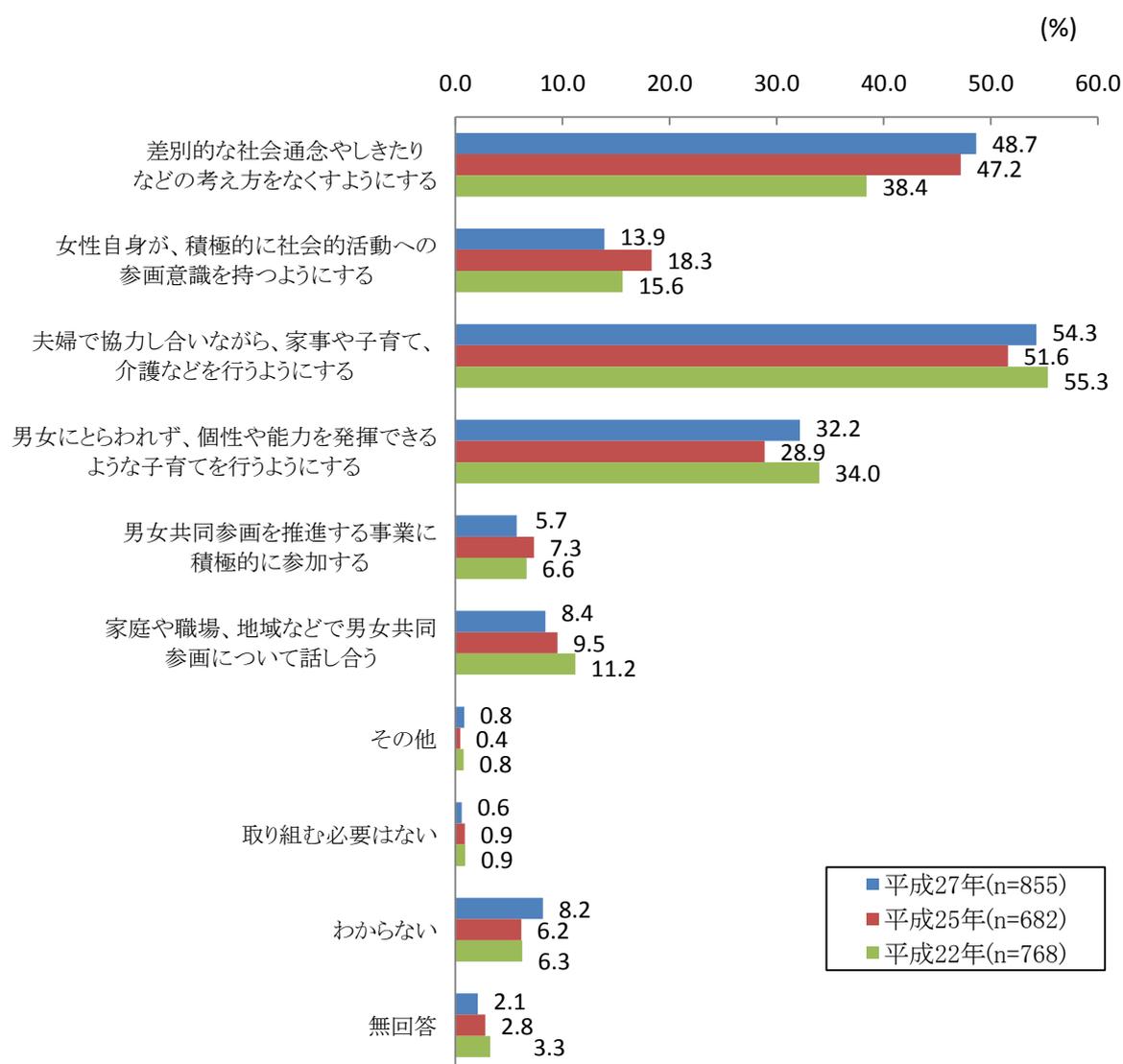
【問 21】 男女共同参画参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために私たち自身が必要な取組みについて、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は54.3%で最も高く、次いで、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」は48.7%、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は32.2%などの順になっている。

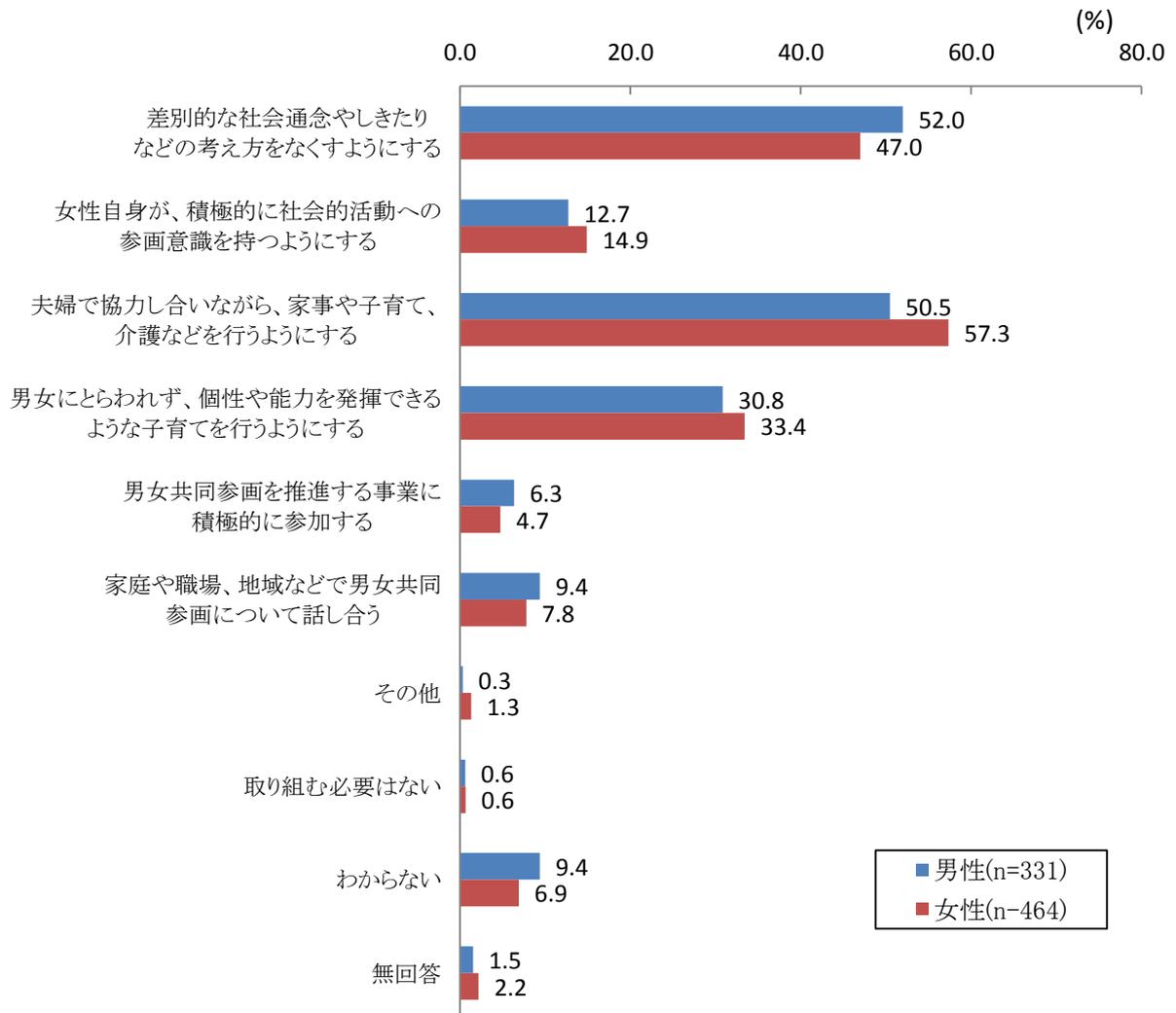
【経年比較】

経年比較すると、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は前回調査から3.3ポイント、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は2.7ポイント、それぞれ増加している。



【性別】

性別でみると、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は女性が57.3%で男性の50.5%より6.8ポイント高く、一方で、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」は男性が52.0%で女性の47.0%より5ポイント高くなっている。



(4) 市の施策の認知度

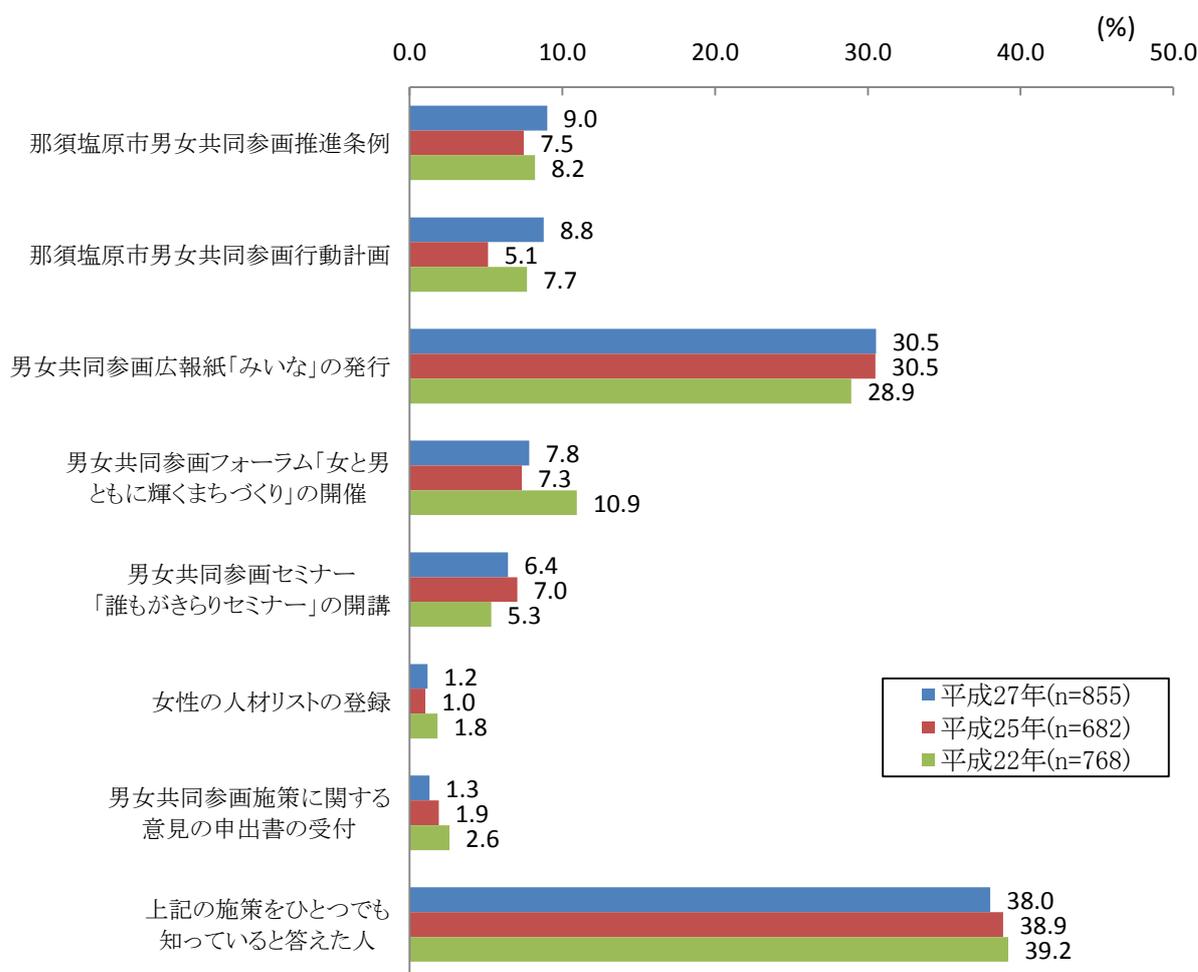
【問 22】 市で取り組んでいる次の男女共同参画施策を知っていますか。

【全体】

市で取り組んでいる男女共同参画施策について、「男女共同参画広報紙“みいな”の発行」は30.5%で最も高く、その他の項目は1割を満たしていない。

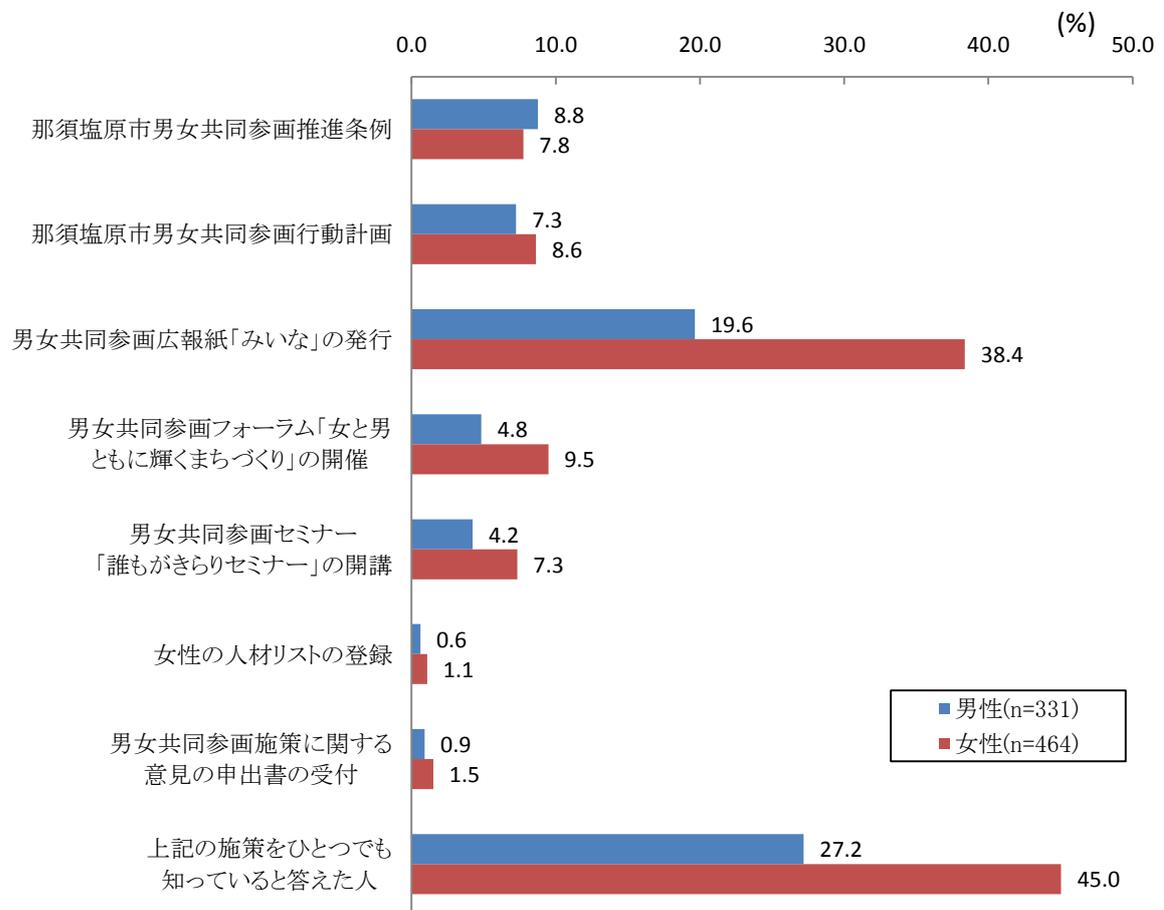
【経年比較】

経年比較すると、「那須塩原市男女共同参画行動計画」は前回調査から3.7ポイント、「那須塩原市男女共同参画推進条例」は1.5ポイント、それぞれ高くなっている。



【性別】

性別でみると、7項目中6項目で「知っている」と回答した女性の割合が男性より高く、上記の施策をひとつでも知っていると答えた人の割合は、女性が45.0%で男性の27.2%より17.8ポイント高くなっている。

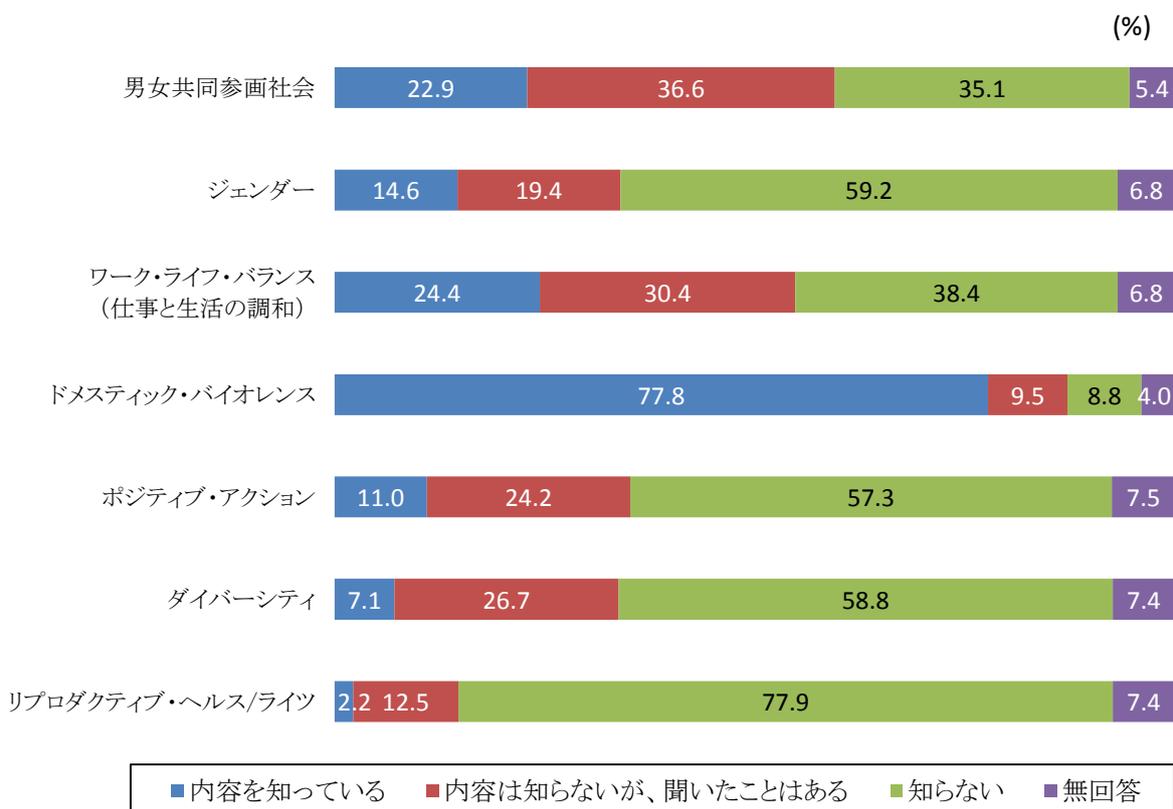


(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度

【問 23】 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

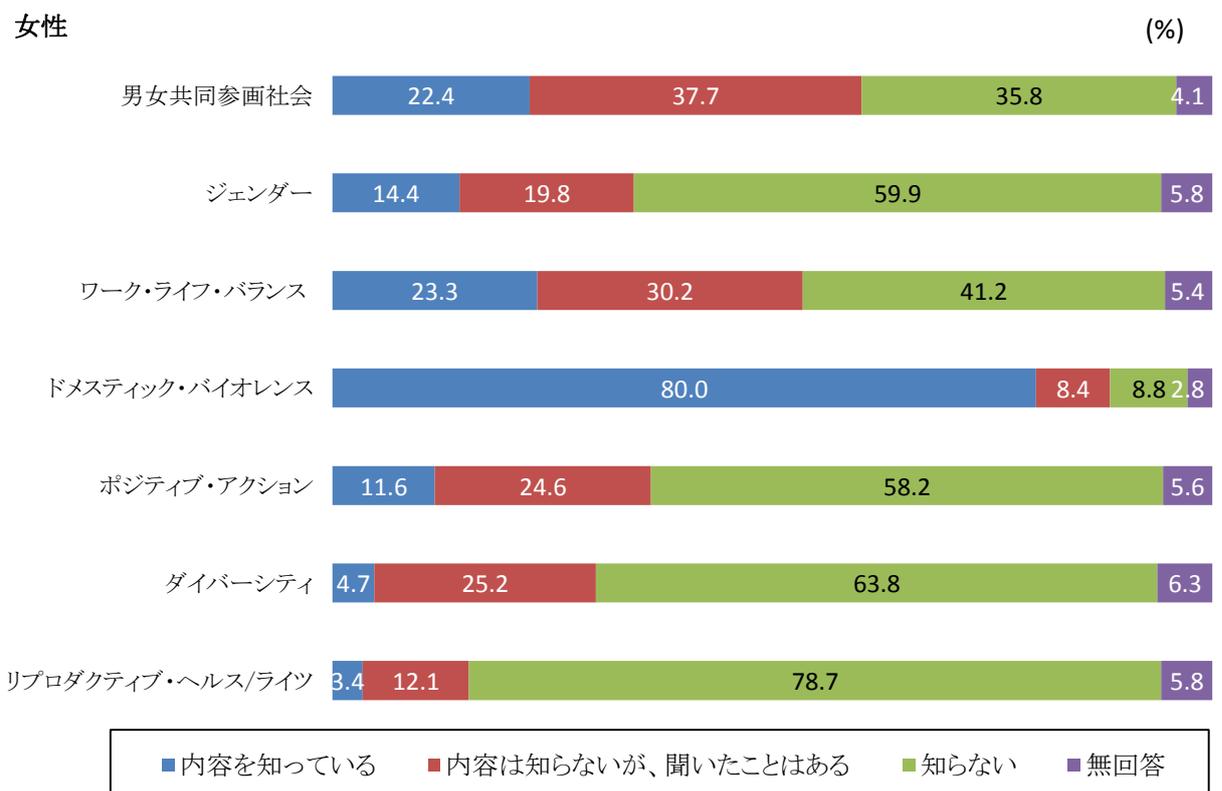
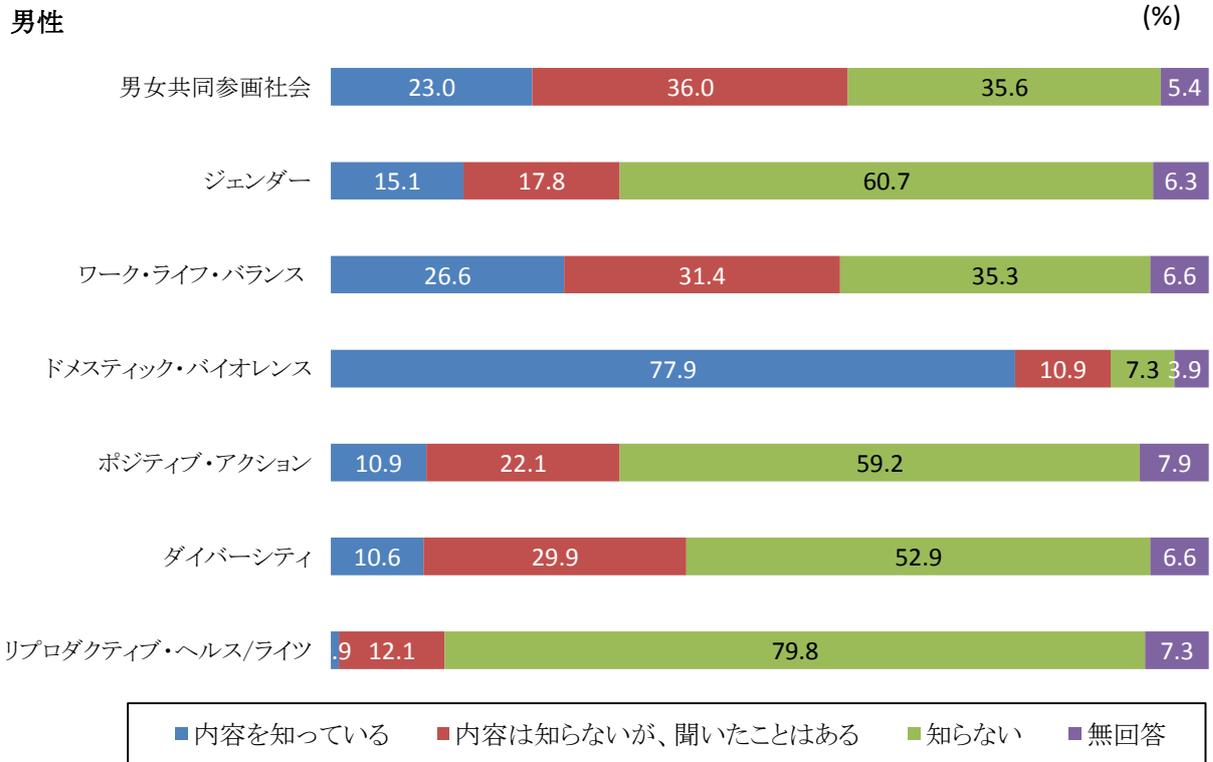
【全体】

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」は「ドメスティック・バイオレンス」が77.8%で最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランス」が24.4%などの順になっている。一方、「知らない」は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が77.9%で最も高く、次いで、「ジェンダー」が59.2%などの順になっている。



【性別】

性別でみると、7項目中4項目で女性より男性が「内容を知っている」と回答した人の割合が高くなっている。



10. 男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望など

- ・行政ができることは、仕組みを作ることだと思います。数値目標を設定するなど（例）100人以上雇用している企業に対して託児補助を行うなど。企業等は託児施設、託児手当を設ける。あと1番は個人の見方。男性の女性のとらえ方を変えないことには始まらない。でも意識を変えるのは難しいので、地域の会議、防災など市民が行政をサポートする場で、3分の1は女性というふうに決められたらいいと思います。象徴的な内容でなく、具体性を望みます。
- ・現在は、男より女の方が社会に進出していると思われる。都合が悪い場合は、女だからと逃げる場合がある。男にできること、女にできることもあるので、女の進出ばかり取り上げると変な考えになってしまうように思える。人それぞれなので個性に応じた必要に思える。
- ・古い習慣を無くす事をすすめる。
- ・制度も必要だが、環境作りが最も不足していると思う。
- ・時代とともに変化はしてきていると感じますが、長い歴史の中で培われてきた意識は、なかなか変わることが難しいと思います。特に男性の意識にもっと働きかける必要を感じます。
- ・アンケート回答中、夫は私の回答を見て不満を持ちけんかになりました。女は仕事が出来ない、子どもが出来れば不可能であることを自覚すべき、そうでなければ結婚するなという内容でした。私は国家資格を持っており、働きたい気持ちはありますが、子供ができると続けられない現状があり、結婚・引越とともに退職しました。もう2年以上子供もできず、とても辛いです。
- ・男女に性差があるのは当然なので、平等というのは不公平です。性差をふまえてそれぞれにしかできない事や協力し合えることを各々やっていけば公平になると思います。平等にしようとするから不満がうまれてくるのだと思います。
- ・男女共同参画の活動は大事なことで、男女平等という考え方も大事なことだと思いますが、それ以上に男女はそれぞれに能力の一長一短の生物学的違いがあること、それを社会生活に活かすことを教育でしっかりと教える必要、社会が認識する必要がある。特に子育てには、母性が必要なので、女性の社会進出によって、子と母親の接する時間が少なくなることは、あってはならない。これを社会がしっかりとフォローしないといけないと思う。
- ・役所内でどれだけの積極性があるのか？（特に男性）　そもそも施策すら認知度がうすい。目的も不明確。
- ・男性、女性それぞれの性別による特徴は存在する。それを認識した上で同一労働、同一賃金を守る。また、経営側と労働者一人ひとりの契約細部にわたり明確化する。人それぞれ「男女共同参画社会」に対する考え方の違いもあるので、行政は個別に取り交わされた契約内容が著しく不当ではないかをチェックすべきと考えます。
- ・60歳を過ぎて反省すると、夢中で生きてきたのですが、やはり女性も仕事を持ち子育てや介護にも進んで参画できる様に自立できる努力が必要、将来を見据えた生活設計が必要かと思います。女性は、自分で生活する自立精神が大切かと思います。
- ・具体的に何をしたいのか意味が分からない。
- ・私たちの地域ではあまり関心がないかな！
- ・男女共同参画が進んでいる所（企業、場所、集まり）とそうでない所の温度差をすごく感じます。産休、育休にしてみても、ある程度大きな所や公務員だと当たり前のように、1～3年休めるのに、小

さいところになると、取得がとても難しく、まして、女性がみんな社員ではないのに社員とそうでない雇用の人とは、権利が全然違う。仕事の内容は全く変わらないのに・・・働いている時間も同じなのに・・・という経験をしたことがあります。パート、準社員で働く女性の方が割合的には多いと思うのですが、そういった方の支援にもう少し力を入れてほしいと思います。

- ・男も女も大差ないことを周知させることと、それぞれの性別の発想、考え方の利点利用し、それぞれの性を受け入れる。
- ・子供の頃からの育てられ方、教育により、男女が共同して社会を作っていくことが出来るようになるのではないかと思う。それには社会全体の意識が重要になる。
- ・女性側にとらわれず男性側も見直す部分もあると思います。子供の成長の数年しかない時に男性（父）と子の時間もとても大事だと思うので、夫婦でシェアできる部分を増やし本当の意味で夫婦として親として生活して行けるように市がサポートしていただければ幸いです。
- ・このような部署があるとは知りませんでした。勉強になりました。住みやすい社会になるよう皆で協力していきたいと思います。
- ・社会がまだまだ低いと思います。また、仕事をしていても、長時間のほうに合わせているのが現実です。現在の仕事の仕方をしていては、結婚、出産、介護に向かうことは難しいです。だれかの犠牲の上にそれは成立しているという実態です。小手先だけ変えてもどこかで無理がでてきます。そのことを行政でしっかり考えていただきたいと思います。
- ・市はもっと努力すべき。
- ・外国人の職業支援及び職業訓練、女性の地位向上など
- ・一般企業では、男女仕事の上での差別はある。女性の一時的な就業はあり、キャリアとして勤務継続を希望する割合は少ないと思う。男性中心となっても仕方がない状況。
男女問わず能力・やる気のある人は、社会的に認め進出すべきで、給料も男性と同じにもらうべき！
- ・男女共同参画社会とは直接関係はないかとは思いますが、田舎の方は封建的な行事がまだまだ続いており、女性に負担がかかることが多い。仕事を持ち他に部落の封建的な行事に参加は女性に負担が大きい。女性は料理を作って用意する。男性は酒を呑むだけ、おかしいと思いませんか！
- ・市、県、国、全ての対応がおそく感じます。ちゃんと市民の立場になって考えてもらえればいいです。子供が小さいので・・・保育場の整備、女性の働きやすい職場が増えればいいと思います。
- ・能力のある女性程、男性社会でつらい目にあう確率が高いので、子供に素直に勉強を進められない。かといって、出て行きたい女性ばかりではないので、家事もあるのに「共同参画」といって、地域の仕事が増えると非常に迷惑。中年になると、いろいろ役をさせられそうで不安。
- ・働くか働かないかで迷っている女性で私の周りには以下の方がいます。核家族のため子供が病気の時頼る相手がいない（ファミサポは元気な子が対象）。夫の帰りが遅いため家事は自分の仕事。6～8時間勤務は自分の首をしめることに。食物アレルギーの対応してくれる幼稚園が少ないので、結局負担に。ブランクが長く戻るのが不安（外部で勉強するには子供をあずける必要があります、お金がかかる）。下の子と上の子をあずける場所が変わる可能性がある⇒色々考えていると「パート」という選択が一番無難かと思う。もう少し短い時間から始めることができ、子供が大きくなったら時間を増やしてもらえそうな仕事が増えればうれしい。女性も復帰しやすいと思う。
- ・画一的な「男らしさ」「女らしさ」による「男（女）はこうあるべき」という考えに捉われず、個人

がどうありたいか考え、性別とは関係なしにのびのびと生きていける社会の実現が望ましい。

- ・私は今まで男女共同参画施策について知らないでいましたが、これから少しずつ勉強をしていきたいと思えます。
- ・私は女性ですが、同じ女性でバリバリ働いている人が周りにいないので心細く感じます。私の周りは皆パートや、土日祝休みの人ばかりです。周りにバリバリ働いている同年代の女性が居たら、モチベーションが上がると思えます。頑張っているのは自分だけじゃないと知れる何かがあったらいいなと思えました。
- ・そもそも男女は平等なのか分からない。例：男性は重い物が持てる。背が高いと窓口で威圧感が出てしまう。女性：接客で柔らかい対応が出来る。横柄な客に強い対応ができない。あくまでも上記のような傾向があるだけで、全ての人に当てはまらない。大切なのは、男女というより、個人の特徴を理解しそれを活かして社会に関わっていく、貢献していく事かと思う。
- ・もっと住みやすい町にしてほしい。
- ・子どもはいませんが、以前公務員の方は育休後に子どもを優先的に保育所に入れられると聞きました。公務員は、待遇も良ければ年2回のボーナス、安定の収入があるのに、他で働いている方は、逆に保育所にも入れられないので働けないと言っていました。私もボーナスもなければ収入も低い上、住民税も払っているので、まずそこをどうにかしてほしいです。
例えば子育てサロンは子育てしている親子のみが入れる。でも、学校に行けない子、1人暮らしの老人（子育てが終わった人）が色々な枠にとらわれずに、いろんな者同士が集まる場所があったらと思う。初めて子育てをする母親が家だけでない居場所にいろいろな年齢、性別も関係ない人がいつでも集まり相談できる場所。フリーマーケットみたいに、物でなくそれぞれが経験してきたもの（知識、経験）がその場で求められ与えられる場所。枠からはみ出した者がいつでも困っているのに、助けてもらえていない気がします。
- ・女性の生き方は柔軟でいいのだと思う。家庭に入ることが不幸で社会に参加していないと考えるのはどうだろう。もしそれを自分で選んで子育てを楽しんでいるのならいいのでは。パートの仕事ですが、子どもの具合が悪くなる時があります。確かに預かってもらえる施設があれば便利でしょうが、子どもはどう思うのでしょうか。そんな時くらい親がそばにいてくれたほうが嬉しいのでは。「親子の絆」が男女共同参画社会のせいで薄れてしまうのであれば、それは本当に良かったのか。社会全体で子育てを応援してくれる、そんな風になるのなら男女共同参画社会も悪くないのかも。今はどうだろうか。
- ・男女という概念がある以上、過去の歴史から考えると平等になっていくのは難しいと思う。しかしその壁を壊す手伝いを、国、県、市にはやってほしいと思う。男女が共同で生きていく世界なのだから、まずはそういう規約を全ての会社に徹底させるのが課題だと思う。
- ・女性はルーチンワークには向いているが、融通が利かず、全体判断に欠けているので、ケースバイケースで進出の場を考えた方がよい。
- ・いつ、どこで、活動しているのが全く分からなかった。アンケートをもらうまで内容もわからない活動では意味がないのでは。もっと分かりやすい形式、言葉等で市民にアピールしてもらいたい。
- ・那須塩原市は保守的だと感じるので、上記の社会づくりを広めるのは難しいと思えます。それを踏まえてどの様にみんなに理解してもらおうのか。
- ・市民1人ひとりが、広報紙等に目を通し内容を知ってもらい、意見や要望などが言えるようになることが大切。
- ・「男女共同参画社会」という名称に現代女性が仕事の間であぐらをかくような傾向が見られると思う。

また、「女らしい・男らしい」という言葉をセクハラと解決する世の中の風潮にも問題があると思う。「男女共同参画社会」というのは、根本に女性は「女性らしく」あって家庭生活や環境作りをし、「男らしい」男性が家庭を守る父親としての姿を子どもたちに見せるということにより、人として生きる価値観や物事を判断する力量につながる。いわゆる「常識ある人づくり」ができて初めてひとりの男性、女性になり、その中で子どもができ、子どもたちによる社会のバランスがとれた地域になると思う。あまりにも、「男女共同参画社会」をひてにとり弱者をカバーしようとする女性や、何でも男性が聞いているような世の中は少しゆがんでいると思う。"

- 自治体の努力も必要ですが、それ以前に政治の責任も重大であると思います。なぜ夫婦共働きでも、子どもも作れず育児すら支障をきたすのか？それは、雇用破壊と長時間労働社会保障が削減され続けるからではないでしょうか。企業にも責任を持たせるルールやペナルティがなければ、個々の努力だけでは難しいと思います。国民1人1人の政治意識が変われば、もっと手っ取り早く世の中は変えられると思います。
- 「みいな」で言葉の暴力もDVだと知り、長年の霧が晴れました。ありがとうございます。
- それぞれの人の意識が変わらなるとなかなか難しいのではないかと思います。社会に女性が進出する形ができて、家庭内の理解などがなくできないことだと思う。社会と家庭内のバランスがとれてこそそのものなのかと・・・それでもそんな社会が出来ていくことには期待しています。
- 女性が能力を発揮し職を持つことは良いと思うが、昔は男性の稼ぎだけで家庭を維持できたが、今は男性の稼ぎのみでは維持できず、女性も働かなくてはならない時代となり、「男女共同参画社会」と言って労働者の賃金の低下に対する政策がない事をごまかしているに過ぎない。女性の意見を世間に反映させる事と外に働きに出る事は別物と考える。
- 男女の性の違いはあるのだから、何もかも同一という考えはありえないと感じています。人それぞれにより体力の差もあるし、体格の違いもあるのは当然なことで、お互いの長所を生かすことで、1+1が2ではなく、3になり4になることが明るい未来につながると私は思います。男だから女だからという殻を破ることが、まずは第1スタートラインかな。
- あまり良く分からないので、もっと皆が分かりやすく、いろんな勉強会に出られる機会を作ってください。
- 保育施設をつくって、子どもを預けるのは簡単だが、子どもと向き合う大事な時期があり子どもの将来をきちんと考えて欲しい。女性も男性も働けば、お金が増えて嬉しいけど、子どもとしっかり向き合わないと大きくなってから、大変なことになる可能性もあるということを知ってほしい。男と女では、出来る事、出来ない事は違うと思います。男女平等もいいけど、そういう点も考えてほしい。
- 「男女共同参画社会づくり」では、家庭や職場における男性の意識改革が必要となってくると思う。特に、若年層でなく中高年層の男性の意識改革が大切で重要となる。また、女性が活躍するために、保育施設を充実させることは重要であるが、子どもを産んで育てていく責任感を持ってない親が増加する（保育園、学校任せの子育て）と危惧する。女性はフレックス制度で仕事をするか、子どもが小学校を卒業するまでは、働く時間を短時間にいつでもできる制度を作ると、働きやすい環境になっていくと思う。
- 男性が子どもを産めれば、女性しか子どもが産めない以上、平等にはならないのかなと。女性が子どもを育てるのが当たり前とみんな思っています。出来る女性は独身が多いし、子どもが小さいうちはたまに預かってくれる場所があるといいです。美容室に行くにも、病院に行くにも、誰かに預かってもらうしかない。
- 女性は仕事から帰って来ても、家事をしなければならぬので、自分の時間は全くない。休みの日でも、それは同じである。家事を手伝うという気持ちを持ってもらいたい。なぜこれまでして働くかと

いうと、子どもの学費のため。大学を卒業した時には貯金も底をつく。なのに、子育てをしていない人も同じ年金額をもらうのは納得いかない。この現状では、少子化はどんどん進むに違いない。

- ・私は現在大学生であり、栄養学について学んでいます。栄養学部では、基本的に女性の方が多くなっており、逆にそこでは女性の方が強くなっています。以前までは、女性をもっとピックアップした社会ということをよく聞いていましたが、それは環境によって全く異なるものであると感じました。ですので、女性、女性といった社会を目指すことは違うと思います。また、育児休暇については、正直穴が空くというデメリットがあるのは双方とも感じると思いますが、同僚がもっとフォローするなど工夫をすることで改善できると思います。最後にどれだけ男女共同参画社会を訴えても、やる気がなかったらダメだと思うので、対策として小中学校での教育（授業参観時などに行くと親にも影響あり？）など、小さなことからの指導、教育が大切であると思います。
- ・日々の生活に追われ他のことをよくみている時間が取れていない。男女共同がどのよりも、生活水準（職種、賃金格差）が上がらなければ、「男女共同参画社会」なんてことを、余裕を持って言っていられない。そんな現在です、国の構造改革が必要、優先事項。
- ・男女差別のない社会づくりをしてもらいたい。高齢化社会、福祉社会をこれから増やしてもらって、介護を見てもらいたい。働いている女性には、夫も協力して育児、家事などを積極的にやってもらいたい。DVのない社会。男女共同参画社会づくりについて、いろいろなものを作ってもらいたい。また、楽しい企画、知らない人にも分かるパンフレットを作り、話題を作って欲しい。独身の男女がいたら、楽しいお見合い企画もあって欲しい。
- ・夫に有休等を使って、もう少し仕事を休み休養してもらったり、家族の時間に充ててほしいのですが、実際、職場で有休を取ると、辞めさせられたり、給料を減らされたりといざらくなり取れません。ですので、法律で掲げているだけでなく、実際に各事業所に調査をしたりしてほしいです。このアンケートも役に立つのか疑問です。
- ・最近の新聞を読むと、お役所仕事と思われることがあまりにも多すぎるように思う。
- ・「みいな」は毎回楽しみにしています。劇をやっている方の影での苦労はあるのに、笑いでみんなを幸せにしてくれていると思います。行動しない、自分のような人間でも勇気をもらえます。これが自分の将来につながればいいです。
- ・まず年収が安定しないと始まらない。
- ・男女共同参画社会について、私自身具体的内容を理解出来ていないが、例えば、男性と同等に仕事をしたいと思う女性が同等に仕事を出来る環境が必要であると思う。しかし、女性が皆そうであるとは限らないし自分がある環境もあるので、必ずしもそうしないといけないという訳でもないと思う。また、育児や介護に積極的に参加したいと思う男性が育児休業や介護休業を取りやすくする環境や同性からの理解を得られる環境づくりも必要と思う。出産・育児で退職した女性が社会復帰に向けての託児付きセミナー・講習の場を設けてあるといいなと思う。
- ・差別なく、男女が共に協力して何事も対応できれば良いと考える。
- ・一人ひとりの意識を高め、子供たちの意識を高め、これからの時代の男女間の差別をなくせるようPRして欲しい。
- ・男女共同参画計画について初めて知りました。認知度が低すぎるような気がします。多分市民100人に聞いても知っている人がいないのではないのでしょうか。色んな計画を実行するのも必要だが、まず市民の認知度を高めるための行動が必要だと思います。各用語についてですが、あまり横文字（英文）を多用すべきではない。横文字を多用して仕事や会議を進めると、内容が進んでいないのに進んだ気になってしまうので（やった気になる）止めたほうが良い。知らない用語が多すぎる。人間という生

き物は、興味がない物事については余り知ろうとはしないと思うので、まあ参考にして下さい。

- アンケートで聞く前に、行政は自分たちの足を使い今の社会を知って頂きたい。このアンケートに予算ですら税金で賄われているのですから。
- どんどん既婚者を増やすために出逢いの場があればいい。
- 以前大田原市の工場に勤めていましたが、工場が縮小になった時に真っ先に立場の弱い者が対象になりました。近くに頼れる親がいなかったため、小さい子供を保育園に預けていましたが、22持までの残業が出来ないので辞めるように言われ退職しました。このような企業がある以上、男女共同参画社会など実現できないと思います。
- 現在はそれなりの生活をしていますので、こうなったら考えます。でも参画社会作りはして欲しいと思います。
- 男女共同参画社会は、地方に行けば行くほど難しくなると思います。子供の頃から考え方を持って生活することが大切だと思います。
- 将来のある子供たちへの教育が10年20年先の成果をみつめての事業だと思います。時代も変わらず「人の創られ方」「人と成り」は、よきの日本の文化で育てられるものです。地域ならではの恥じない大人で、温かくしっかりと子供たちを育て自分も刺激され何歳でも成長していける自分でいきたいと思います。大人の姿が子供を育てていくのです。いつの時代も。まずは大人もしっかり「大人」になっていないと。そこがブレてしまうと、最新教育も理念も通用せず浸透しません。
- 女性にしか子供を生むことができないので、子供ができたら2、3年は、子育てに集中してそれが仕事だと思い頑張るしかないと思います。その後、仕事に復帰したらいいのでは？アルバイトでもなんでも。
- 今、世の中高齢者社会だと言われているのに、横文字やカタカナ文字が並んでいる。これっておかしいですか。そう思うのは私だけなのでしょうか。
- 昭和46年に結婚した当時から比べたら女性の地位が高くなったと感じます。でも共同参画社会づくりと言っても全部の婦人に当てはまらないと思います。我家は祖父が封建主義を通してあるので嫁の立場は、昔のままです。まして祖父母は在宅介護でいつも家にいるので気にゆるみがありません。本当はどんどん社会に出て活動をしたいのですが実現しそうにありません。
- 自営業で夫婦とも遅くまで仕事をしているため、子供が預かってもらえないと仕事を続けていく事も困難になります。幼稚園の学童体制、職員数が確保できる社会をつくって頂くことも、男女共同参画社会づくりには必要だと思います。
- 人は平等ですが、男女は平等でないと思います。無理に進めると社会に歪みが生じると思います(不平等でも歪んでいます)。計画内容の選択は慎重にお願いします。
- 【4】に関して (1) 女性の幸せは結婚にあるのだから～ する・しないと決めつけるのではなく、後1つ選択肢があってもいい。結婚は女性も人生の中で(人生勉強)で必要と考える。
- 男女共同参画社会づくりの情報を那須塩原市全体に封書にして送って欲しい。
- 女性が暴力をふるう場合がある。離婚する時女性が優遇され過ぎている。

各設問における「その他」の意見

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。

- ・子育ての間は女が家庭にいた方が良いと思う。
- ・お互い話し合い。
- ・女だからや子供ができると女は仕事が出来ない社会風習は古い。
- ・家庭構成によると思う。子供がいれば幼少のころは女が家庭にいるべき。
- ・昔とは違い、その家庭に合った責任分担が重要だと思う。
- ・理想は1ですが、夫婦ともに働かないと生活ができない。
- ・収入によって考え方が変わるのではないか。
- ・家庭環境により、子どもが母親を必要とする時期はなるべく家庭に女性がおり、子どもの理解が得られるようになった頃から女性も自分の可能性を広げる外での活動（仕事）につくと良いと思う。子育て期間は大切。
- ・子どもが小さい時は、女性は家庭にいたほうが良い。
- ・女性が仕事を持たずにいても、男性は仕事をしていても、もう少し家庭のことにおいて責任を持った方が良い。
- ・子どもが小さい時は母親が家に居た方が子どものためには良いと思う。生活していく上では、共働きせざるを得ないのが現状。
- ・状況による。ただし、現在の職種賃金格差がある状態では何とも言えない。
- ・夫婦とも健康であればそのほうが良いが、妻が病気なので。
- ・各家庭判断で良いのでどれも言えない。
- ・基本は4だけど、女は妊娠、出産をするので、そこを社会全体で支援の理解してほしい。
- ・上記すべて。でもそうはいかないのが現実。お金、他色々な問題から。
- ・男女の役割は固定せず、家庭に対する責任は分担するが良い。

問8 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

- ・ライフスタイルに合った育児
- ・その家庭に合った分担で今は男女平等だと思う。
- ・現状は父が働き手になっている場合が多いから育児に参加しづらいと思う。気持ちが大切。
- ・父親は時間のある時には積極的に育児に参加するのが良い。

問10 女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。

- ・各家庭により決めることで、こうすべきとかではないと思う。
- ・何をもって仕事なのか考えたい。家事や仕事も素晴らしい仕事。一方、社会で働くのも素晴らしい仕事。どんな状況になっても本人が望む仕事が出来てくれることを望んでいます。
- ・経済状況によっては、2～7どれも有り。
- ・収入が夫より高いのであれば、積極的に働いてほしい。
- ・仕事の仕方は生活に合わせればよい。
- ・その人その人の考えでこうあるべき！と一言で決めなくてよいと思う。本人の自由。
- ・本人が家庭の状態を考えて決めればよい。
- ・本人がやりたいようにすればよい。
- ・自分の好きにすればよいと思う。
- ・個人の意志を重視する。
- ・本人の時間や環境で考えればよいと思う。
- ・個人の考えで選んだ方がよいと思います。
- ・負担を軽くするために、仕事を続けるか、辞めるか、職種を変えるかを決めたほうがよい。
- ・人、職業による。本人が決めて家族が協力すればよい。

- ・仕事を持って持たなくても、その人の家庭の状況により好きにするのがよい。
- ・生活による。
- ・結婚出産後続けていける仕事ならしたほうがいい。もちろん家族が協力してくれれば。
- ・何をすべきか、何が出来るのか、何をしたいかが大切。
- ・その職業を続けたいのであれば辞めない方がいいけど、家庭の状況をよく考えて決めるべき。
- ・年収に応じて。
- ・それぞれの考えによる。
- ・子供ができたなら職業を休業して、その後の状況によって再就職するかパートに切り替えてするか等考える。
- ・現在の仕事で時間が短くできればいいのでは。
- ・現社会は、夫1人の給与では生活していけない！のが現実。それとは別に、女性は社会貢献しながら、世の中を知っていく賢さと強い精神力を培っていくべきです！その姿が、子育て、教育へとつながると信じます。意識と創造力を持ち、自分の意見を常に言える大人が、今必要です。
- ・女性が職業を持つ事はいい事だと思う。しかし子供が生まれたらみてくれる祖父母がいるとか必要育児が一番大事な事だと思う。
- ・理想と現実が違う。難しい。
- ・環境に応じ、自由な選択で良いと思う。

問11 どのような地域活動に参加していますか。

- ・選挙啓発
- ・楽器演奏教室
- ・消防団

問12 地域活動に参加していないのはなぜですか。

- ・曜日、時間が合わない為
- ・情報がない。存在を知らない
- ・身体が悪い
- ・転居してきたばかり
- ・勉強が忙しい
- ・子供がいない
- ・休日を家族で過ごしたい。未婚の時はスポーツのグループ活動やボランティア活動に参加していた。休日にまとめて家事をする必要がある。
- ・嫌い
- ・障害者
- ・子供が就学時には参加していた。現在はなし。
- ・子供に障害があり、夫がサラリーマンではなく、土・日が完全に休みでないから子供3人を連れては参加しにくい。
- ・引っ越してきたばかりなので
- ・他の家族が自治会など参加している
- ・介護のため時間がない
- ・子どもがまだ小さいので、PTAはまだである
- ・嫌いだから
- ・外に出るのが苦手
- ・変則勤務のため
- ・人間関係に不安
- ・自治会のメリットを感じない。お年寄りのための自治会？会費を納めるだけで、何の改善もされていない。
- ・若い人達にお任せしたい

- ・参加の仕方が分からない。子どもがいない。
- ・体力的に余裕がない
- ・マイペースだから
- ・地方に単身赴任の為
- ・膝関節症で痛い
- ・介護が忙しい
- ・子供を見てくれる人がいない
- ・持病があり活動したいが無理
- ・自分が、中学・高校時代に生徒会・ユネスコ活動などを体験。PTA活動は活発だった。ホームステイ教育関係（幼児教育・保母）もしていたので、常に世の中の動向には関心がある。
- ・親がしている
- ・主人が参加している
- ・長期入院中
- ・関心がない為、情報収集をする気になれない。

問13 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、どのようなことが必要と考えますか。

- ・男女問わずに公平無私な人々を配置してほしい。
- ・国や県かの市の職員の人道的な働き

問15 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

- ・男性の協力が不可欠なのに企業で実際に育児に関する休暇等が取得できる事はほとんどない。これを改善すること。
- ・相手への思いやり、コミュニケーション能力の向上
- ・保育・教育無償化
- ・那須塩原は核家族が多いと感じます。そういった世帯にもう少し気楽に子供を預けられる環境（特に風邪等の時）があればいいと感じます。また、各幼稚園で食物アレルギーの子への対策（今は、お弁当持参のところが多いが、代替えを出してもらえる環境があれば負担が少し減り、生活に余裕が生まれるのではと思います）を進めてもらえればと思います。
- ・親や子供とのコミュニケーション
- ・女性を優遇し過ぎない社会。男性ができること、女性ができることを明確にすべき。何でも平等には無理が伴うと思う。
- ・子どもが熱を出した時など、しっかり休みたい。子どものそばにいたい。
- ・男性の経済的自立
- ・職場環境を整えることが重要なのはもちろんですが、休業や休暇を取る人々に、周りの人への感謝の気持ちを忘れないでほしい。助けたり、助けられたりの心が重要だと思う。
- ・職種、地域賃金格差を減らすこと。公務員の賃金の高さを減らす。国民教育費用の国保障を上げることが必要。
- ・本人の責任感を上げる。
- ・協力して両立を図れば良い。
- ・職場があること

問17 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

- ・メディア
- ・SNS上（Twitter等）で
- ・今までに暴力なし、今後もないと思う。
- ・分からない

- ・見聞きしたら相談できるかもしれないが、自分が受けたら相談できないかもしれない。

問17-2 相談しない・しなかったのはなぜですか。

- ・DVという言葉がなかったから気づけなかった。
- ・「私が受け止めてあげないと」と思っていた。家族だから、自分が1番立場が下だから、子供だから、サンドバッグにされていた。でも誰も助けてくれないし、日常すぎて自分自身それが普通だと思っていた。皆の気持ちが理解できた。気がまぎれるのなら私が役立っていると嬉しかった。生きる意味をされる事でしか見いだせなかった。自分が無知だった。
- ・特に考えたことがなく、現実には経験がないので。
- ・暴力を受けたことがない。
- ・暴力を肯定する男は相談しても無駄。被害女性は日頃暴力に結びつかない様努力をしているが、結果離婚を決意した時のみ弁護士、警察に相談する。
- ・経験がないから考えられない。あったら出ていく。
- ・平気だから
- ・やられたらやり返す。
- ・相談できない
- ・パートナーを知っている人が、パートナーを見る目が変わり、パートナーの立場がなくなる恐れがあるため。また自分が選んだ人がそういう人ということを知られたくないため。
- ・他人が信用できないから

問19 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

- ・子育て世代の若い人材を育成する。
- ・性別が生み出す各々の良い特性を相殺しないようにする。男におっぱいはないし、女に筋肉はない。家庭の構成員に男女平等の考えを根付かせる。
- ・特に男性の考えを変えていくのは無理だと思う。
- ・市役所内での男女差があり自分たちの姿こそ平等でないのでは？
- ・市でも短勤務（幼稚園終了14：00まで）の採用を試みるのはどうでしょうか。力があるのに働いていないお母さんはたくさんいます。
- ・採用活動において、男女で応募できる職種が異なること等がないよう、企業に対する周知を行う。
- ・各職場（学校・会社・病院）のトップの人の教育をする。
- ・6について、子どもの気持ちは？親にそばにいて欲しい時、仕事に親を取られる気持ちになるのでは？預けてばかりで子どもの育て方が分からない親が増えるのでは？子どもを見ていることへの理解をしてくれる社会づくりの方が先なのでは？
- ・市役所役員（上層部）の方に勉強（研修）して頂きたい。
- ・全て必要だと思う。
- ・自治会で講座を開催する。
- ・"市長、トップ、市議の意識改革
- ・現状をもっと知る努力が必要
- ・男女問わず有能な人材を育成する、場を与える。
- ・平等と同化の違いを認識させる、教育を進める。
- ・市の職員がまず市民や業者に対応する際、男女や役職を問わず平等な対応をすることが大切。
- ・ペーパー上だけでなく、本気で隠し事をせず結論を出すべき。
- ・一般会社の管理職に女性を積極的に登用する。
- ・労働環境全体を良くすること
- ・最低賃金の引き上げ
- ・県全体の教養が低すぎる。大人の意識改革が急務

問20 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・ 託児あり・なしにかかわらず、子供を連れて、かつ無料で技術を向上できる空間があると嬉しい。産休中のブランクを埋める場所が欲しいと思っている方はたくさんいます。
- ・ すべての女性が仕事を優先したいわけではない。子育てを楽しめる社会があってもいいのでは。
- ・ 労働時間に差があり（担当制等で）家庭の時間が少なく、日常生活が悪循環です。
- ・ 女は外で働かない、それがいい。
- ・ 保育施設、介護施設を利用できるだけの収入を与える。
- ・ 基本、経営者が変わらないとダメだと思う。

問21 男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・ どうせ変わらないのだから個人で考えることかな？
- ・ 男女ではなく、個人で見る。
- ・ 結局開催地は宇都宮が多く、参加できない。那須塩原で開催を！
- ・ 家庭・会社で話をする場（時間）を持つこと。
- ・ 社会の考え方が変わらなければ実現できないと思う。
- ・ 大人劣化の現代が問題。そうさせてしまったのは何故か。若者に夢や希望の持てない社会。

平成27年度 男女共同参画社会に関する市民意識調査

【調査ご協力のお願い】

日頃から、市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

那須塩原市では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成24年に「第2次那須塩原市男女共同参画行動計画」を策定し、さまざまな取り組みを行っているところでありますが、平成28年度で終了することに伴い、第3次行動計画の策定を行うこととしております。

今回の調査は、第3次行動計画の策定にあたり、市民の皆さま（那須塩原市にお住まいの20歳以上の方から、2,000人を無作為に抽出）から男女共同参画に関する意識や問題点、考え方等についてお伺いし、第3次行動計画に反映させたいと考えております。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、回答者の方が特定されることは決してありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成27年10月

那須塩原市長 阿久津 憲二

調査票ご記入にあたってのお願い

1. 宛名のご本人がお答えください。
2. お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数（あてはまるものすべて）回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。
調査票にご記入の際は、○印は、番号を囲むようにつけてください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的に記入してください。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒（切手は不要）にいれ、

10月31日（土）までに郵便ポストに投函してください。

お問い合わせ先

那須塩原市企画部 市民協働推進課男女共同参画係

電話：0287-62-7019 FAX：0287-62-7220

男女平等についてお伺いします

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（それぞれ1つずつに○）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）家庭生活	1	2	3	4	5	6
（２）職場	1	2	3	4	5	6
（３）学校教育	1	2	3	4	5	6
（４）町内会や自治会などの地域社会	1	2	3	4	5	6
（５）社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
（６）政治の場	1	2	3	4	5	6
（７）法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
（８）社会全体	1	2	3	4	5	6

【問2】 勤め人の方におたずねします。（1ページの職業欄が4. 及び5. の方）

あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。それぞれについてお選びください。（それぞれ1つずつに○）

	平等	ほぼ平等	はいえな あまり平等と	相当ある 男女の差が	わからない
（１）募集や採用の条件	1	2	3	4	5
（２）人事配置や昇進	1	2	3	4	5
（３）教育や研修制度	1	2	3	4	5
（４）福利厚生	1	2	3	4	5
（５）定年、退職、解雇	1	2	3	4	5
（６）賃金	1	2	3	4	5
（７）仕事の内容	1	2	3	4	5

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 男は仕事、女は家庭にいるのがよい | |
| 2. 男女とも仕事を持ち、家庭のことも責任を分担するのがよい | |
| 3. 男女とも仕事を持ち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい | |
| 4. 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい | |
| 5. その他 () | |
| 6. わからない | |

結婚・家庭生活・子育て・介護についてお伺いします

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに〇)

		そう思う	そう思う	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
結婚について	(1) 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい	1	2	3	4	5	
	(2) 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい	1	2	3	4	5	
家庭について	(3) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5	
	(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	
	(5) 三世同居で暮らすのが理想的だ	1	2	3	4	5	
離婚について	(6) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい	1	2	3	4	5	
	(7) 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である	1	2	3	4	5	

【問5】 あなたは、次の（１）～（１０）について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

（それぞれ１つずつに○）

	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	その他
（１）食事のしたく	1	2	3	4	5	6
（２）食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
（３）そうじ	1	2	3	4	5	6
（４）ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
（５）洗濯	1	2	3	4	5	6
（６）子どもの世話	1	2	3	4	5	6
（７）親や身内の介護	1	2	3	4	5	6
（８）主な収入	1	2	3	4	5	6
（９）家計の管理	1	2	3	4	5	6
（１０）町内行事などの参加	1	2	3	4	5	6

<配偶者がいる方に>

【問6】 あなたは、夫婦の間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

（○は１つだけ）

1. 満足している	3. やや不満
2. やや満足している	4. 不満
	5. わからない

【問7】 あなたは、自分の子どもをどう育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。（○は１つだけ）

1. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
2. どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
3. どちらかといえば、性別にとらわれずに
4. 全く性別にとらわれずに
5. わからない

【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。(〇は1つだけ)

1. 父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい
2. 父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい
3. 父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい
4. その他 ()
5. わからない

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。(それぞれ1つずつに〇)

【育児休業について】	【介護休業について】
1. 積極的に取得した方がよい	1. 積極的に取得した方がよい
2. どちらかといえば取得した方がよい	2. どちらかといえば取得した方がよい
3. どちらかといえば取得しない方がよい	3. どちらかといえば取得しない方がよい
4. 取得しない方がよい	4. 取得しない方がよい
5. わからない	5. わからない

女性と仕事についてお伺いします

【問10】 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。(〇は1つだけ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 女性は職業をもつことにこだわらなくてよい
3. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
4. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい →問10-1へ
6. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
→問10-2へ
7. 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
8. その他 ()

<問10で、「5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方に>

【問10-1】 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	重要でない	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4	
(2) パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4	
(3) 保育施設や学童保育の充実	1	2	3	4	
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	1	2	3	4	
(5) 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	1	2	3	4	
(6) 企業等事業所の理解	1	2	3	4	
(7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4	
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	1	2	3	4	

<問10で、「6. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方に>

【問10-2】 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	重要でない	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4	
(2) 子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実	1	2	3	4	
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	1	2	3	4	
(4) 技能習得のための訓練施設の充実	1	2	3	4	
(5) 企業等事業所の理解	1	2	3	4	
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	1	2	3	4	
(7) フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4	

男女の地域・社会参画についてお伺いします

【問11】 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

1. 自治会、まちづくりなどの地域活動
2. PTAや子ども会などの青少年育成活動
3. 文化、スポーツ、学習などのグループ活動
4. 福祉、ボランティア活動
5. リサイクル、共同購入などの消費生活活動
6. 自然保護、環境美化などの環境保全活動
7. 国際交流、国際協力活動
8. 健康づくり、医療介護などの保健医療活動
9. セミナー、講座などを受講したりする生涯学習
10. 子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動
11. その他 ()
12. 参加していない →問12へ

<問11で、「12. 参加していない」と回答した方に>

【問12】 あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるものを2つまでお選びください。(〇は2つまで)

1. 仕事が忙しい
2. 家事や育児、介護が忙しい
3. 経済的にゆとりがない
4. 団体や活動などの情報がない
5. 一緒に活動する仲間がない
6. 家族の理解や協力がいない
7. 近くに活動の場がない
8. 参加したいと思うものがない
9. その他 ()
10. 関心がない

防災についてお伺いします

【問13】 防災（災害復興も含む）には男女のニーズの違いに配慮した取組みが必要だと考えられるようになってきました。防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）
2. 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること
3. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
4. 災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）
5. 被災者に対する相談体制
6. 対策本部に女性が配置され、対策に男女双方の視点が入ること
7. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参画すること
8. 防災研修会への男女双方の積極的な参加の促進
9. 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保
10. 男女双方が積極的に参加する自主防災組織の結成の促進
11. その他（）
12. 特にない
13. わからない

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお伺いします

【問14-1】 あなたは、日常生活の中で、次の（1）～（5）について、満足する時間が取れていますか。（それぞれ1つずつに○）

	十分取れている	ある程度取れている	あまり取れていない	ほとんど取れていない	わからない
（1）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（2）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（3）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（4）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（5）休養のための時間	1	2	3	4	5

【問14-2】 あなたは、日常生活の中で、次の（１）～（５）について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

（それぞれ1つずつに○）

	大いに増やす	もう少し増やす	このままでよい	もう少し減らす	わからない
（１）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（２）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（３）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（４）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（５）休養のための時間	1	2	3	4	5

【問15】 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 給与等の男女間格差をなくすこと 2. 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること 3. 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること 4. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること 5. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること 6. 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること 7. 女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること 8. 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること 9. その他（） 10. わからない |
|--|

男女共同参画社会づくりのための取組みについてお伺いします

「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」のことです。

【問19】 あなたは、このような社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(〇は2つまで)

1. 広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画社会についてPRする
2. 審議会委員など市の政策・方針決定の場や管理職に女性を積極的に登用する
3. 女性リーダーなど人材を育成する
4. 学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める
5. 職場における男女の均等な扱いについて周知を行う
6. 保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する
7. 高齢者や障害者に対する介護施設の整備や在宅福祉サービスを充実する
8. 各種講座・講演会の開催や社会活動の情報提供を充実する
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

【問20】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(〇は2つまで)

1. 意欲や能力のある女性を、採用、昇進などで評価する
2. 研修など職業能力の開発・向上の機会を女性に提供する
3. 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
4. 男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休業後は、職場へ復帰しやすくする
5. 育児休業中の諸手当を充実する
6. 労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする
7. 託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする
8. 職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

【問21】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(〇は2つまで)

1. 差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする
2. 女性自身が、積極的に社会的活動への参画意識を持つようにする
3. 夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする
4. 男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする
5. 男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する
6. 家庭や職場、地域などで男女共同参画について話し合う
7. その他 ()
8. 取り組む必要はない
9. わからない

【問22】 あなたは、市で取り組んでいる下記の男女共同参画施策を知っていますか。次の中から知っているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

1. 那須塩原市男女共同参画推進条例
2. 那須塩原市男女共同参画行動計画
3. 男女共同参画広報紙「みいな」の発行
4. 男女共同参画フォーラム『女と男 ともに輝くまちづくり』の開催
5. 男女共同参画セミナー『誰もがきりりセミナー』の開講
6. 女性の人材リストの登録
7. 男女共同参画施策に関する意見の申出書の受付
8. その他 ()
9. 全く知らない

【問23】 あなたは、男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

それぞれあてはまるものを1つお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	内容を知っている	内容は知らないが聞いたことはある	知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) ジェンダー	1	2	3
(3) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
(4) ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
(5) ポジティブ・アクション	1	2	3
(6) ダイバーシティ	1	2	3
(7) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3

男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望などがありましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに10月31日(土)までに郵便ポストにご投函ください。

参 考

～問23の男女共同参画に関する各用語解説～

用 語	解 説
男女共同参画社会	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと。
ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には、生まれつきの生物学的性別（セックス/sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー/gender）という。
ワーク・ライフ・バランス （仕事と生活の調和）	仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発・趣味など様々な活動について、誰もが自ら希望するバランスで展開でき、多様な生き方が選択・実現できるようになること。
ドメスティック・バイオレンス （DV）	配偶者や恋人など親しい男女の間でふるわれる暴力をいう。「なぐる」「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力がある。
ポジティブ・アクション （積極的改善措置）	働く事や仕事に対する意欲の高い女性を積極的に登用し、能力を發揮してもらおうという企業の自主的な取り組み、それら制度のことをいう。
ダイバーシティ（多様性）	性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとするマネジメントについていう。
リプロダクティブ・ヘルス/ ライツ （性と生殖に関する健康と権利）	リプロダクティブ・ヘルスは、人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力を持ち、子どもを持つか持たないか、いつ持つか、何人持つかを決める自由をもつことを意味する。 リプロダクティブ・ライツとは、すべてのカップルと個人が、自分たちの子どもの数、出産間隔、出産する時期を自由にかつ責任をもって決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利のことをいう。

男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書

平成 28 年 2 月

編集・発行 那須塩原市 企画部 市民協働推進課

〒325 - 8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2

TEL 0287 - 62 - 7019

FAX 0287 - 62 - 7220